



ANNUAL REPORT

2022年度 (令和4年度)

vol.9



OTARU
HOSPITAL

SAISEIKAI



社会福祉法人 恩賜財団 済生会支部

北海道済生会小樽病院

令和4年度年報 目次

巻頭言	1	・手術・中材看護課	73
理念・基本方針・沿革・施設概要・組織図	2	・地域看護課	75
I 年間主要行事		・教育看護課	76
令和4年度 年間行事	6	事務部	78
年度表彰	7	・総括	78
・永年勤続	7	・総務課	79
購入機器紹介	10	・経理課 経理グループ	82
II 診療実績		・経理課 用度購買グループ	83
外来患者数	12	・医事課	84
紹介率・逆紹介率	15	・医療クラーク課	86
診療科別救急患者数（救急患者・時間外受診患者など）	15	・健康診断課	88
入院	16	・地域連携課	89
手術	19	・情報システム課	90
学生受け入れ	20	各委員会・診療チーム・その他	91
・診療部	20	・NST委員会	91
・医療技術部	22	・院内感染予防対策委員会	92
・看護部	24	・医療安全管理委員会、医療安全管理室	97
III 部門報告		・褥瘡対策委員会	100
診療部	25	・クリニカルパス委員会	102
・総括	25	・内分泌・糖尿病診療センター	104
・内科・消化器内科	26	・緩和ケアチーム	105
・循環器内科	27	・認知症ケア推進室	107
・脳神経内科	28	・患者サービス検討委員会	109
・外科・消化器外科	30	・手・肘センター	111
・整形外科	31	・北海道済生会 支部事業	112
・泌尿器科	32	IV 教育・研究報告	
・緩和ケア内科・腫瘍精神科・精神科	33	臨床研修医	113
医療技術部	34	論文発表	115
・総括	34	著書	115
・薬剤室	35	学会・研究発表	116
・臨床検査室	38	講義（大学・専門学校他）	118
・放射線室	40	講演	119
・リハビリテーション室	42	座長	119
・栄養管理室	47	大会長	120
・臨床工学士室	50	認定資格	120
看護部	53	V 職員福利厚生会	
・総括	53	総括	125
・3A病棟	55	部活動	126
・3B病棟	57	・野球部	126
・4A病棟	59	・釣り部	127
・4B病棟	63	・自転車・陸上競技部	128
・5B病棟	66	院内保育所「なでしこキッズクラブ」	129
・外来看護課	68	売店・食堂	132
・透析看護課	71	あとがき	133



令和4年度 済生会小樽病院年報発刊にあたり

病院長 和田 卓郎

2019年中国に端を発し、3年に渡り全世界で猛威を振るった新型コロナウイルス感染症は、2023年5月に感染法上の取り扱いが5類に変更になりました。2024年4月1日には通常対応への完全移行という方針が国から示されています。現在はそれに向けた移行期間で、10月からは重点医療機関が廃止になりました。感染拡大時にのみ重症・中等症IIに重点化した病床確保が要請されますが、病棟単位から病床単位の確保に変更になり、補助金も大幅に減額になりました。

当院は重点医療機関として、地域包括ケア病棟をコロナ病棟に転換して患者を診てきました。10月からは一般患者の受け入れに完全移行しました。2022年の診療報酬改定で、外部からの直接入院の患者割合が4割以上という要件が加わったことで、ベッドコントロールがより複雑になっています。連携クリニック、病院との連携を再構築する必要に迫られています。当院のあり方を考える良い機会になったと思っています。

2022年度、当院は3回コロナウイルスのクラスター発生に見舞われました。そのたびに、救急患者の受け入れ停止、入院制限を行いました。院内感染チームを中心に、感染者、濃厚接触者の洗い出しを行い、感染拡大を抑えました。困難な状況の中で明るい変化がありました。当院は協力型臨床研修病院です。札幌医大病院から「たすき掛け」の臨床研修医が初めて1年間フルタイムで来てくれました。これがきっかけとなり、基幹型研修病院の申請が可能になり、順調にいけば、24年度は基幹型病院として研修医募集を行えます。やっと一人前の病院になれる気がしています。また、済生会北海道支部として取り組んでいるソーシャルインクルージョンの街づくり「ウエルネスタウン構想」は着実に進化しています。発達障害支援事業所キッズテラスは2号店をオープンし、順調に利用者を伸ばしました。

コロナウイルス感染症は、人口減、少子高齢化といった日本の社会の変化を加速させたようです。受療行動も変化し、医療需要はもうコロナ前には戻らないと予想されます。しかし、コロナは、病院の運営・経営にマイナスの影響だけを与えるものではないと思います。ペストの大流行がイタリアのフィレンツェでルネサンスを開花させたように、明るい変化が起こる可能性もあります。コロナがもたらした困難、ピンチをチャンスと考え、「かかって良かったと思う病院、働いて良かったと思う病院、地域と共に歩む病院」の理念達成を目指して職員一同尽力していきます。

————— 法 人 の 理 念 —————

「施薬救療の精神」

(分け隔てなくあらゆる人々に医療・福祉の手を差しのべる)

————— 院 是 —————

恕：(じょ)

(意味：おもいやり)

————— 済生会小樽病院の理念 —————

かかって良かったと思う病院

働いて良かったと思う病院

地域と共に歩む病院

————— 基 本 運 営 方 針 —————

1. 急性期から回復期へ一貫した医療
2. 断らない医療
3. 地域包括ケアシステム構築
4. 無料低額診療事業の推進
5. 地域に必要な医療人の育成
6. 研究活動を支える環境整備
7. 医療・経営の可視化



すべてのいのちの虹になりたい

済生会は、明治天皇が医療によって生活困窮者を救済しようと明治44（1911）年に設立しました。100年以上にわたる活動をふまえ、今、次の三つの目標を掲げ、日本最大の社会福祉法人として全職員約64,000人が40都道府県で医療・保健・福祉活動を展開しています。

- 生活困窮者を **済**（すく）う
- 医療で地域の **生**（いのち）を守る、
- 医療と福祉、**会** を挙げて切れ目のないサービスを提供

病、老い、障害、境遇……悩むすべてのいのちの虹になりたい。
済生会はそう願って、いのちに寄り添い続けます。

生活困窮者支援の積極的推進

済生会設立の目的は、生活に困っている人を医療で助けることです。

生活保護受給者をはじめ、経済的に困っている人の医療費を無料にしたり減額したりする「無料低額診療事業」を積極的に行っています。令和4年度は延べ200万人が対象となりました。

済生会生活困窮者支援「なでしこプラン」を実施しています。対象者をホームレスやDV被害者、刑務所出所者、外国人等へも広げ、訪問診療、健康診断、予防接種等を無料で行う事業で、4年度は延べ20万人に実施しました。事業名の「なでしこ」は本会の紋章に由来しています。

さらに、済生丸が離島を回って診療を行う瀬戸内海巡回診療など、離島やへき地での医療にも力を注いでいます。

最新の医療で地域に貢献

済生会は、いのちの面から地域を支えます。最新の医療機器、高度な技術、手厚い看護。超急性期から亜急性期、慢性期・リハビリと段階に合わせて対応し、常に患者の立場に立った医療を提供します。

災害時には地域を越えてスタッフを派遣。救命救急から慢性期、そして生活再建に向けた心のサポートまで、緊急時も段階に合わせた支援活動を展開しています。

医療と福祉、切れ目なく

医療と福祉は密接な関係にあります。済生会は医療・保健・福祉を総合して提供できる団体です。全組織が連携し、施設・設備・人というすべての資源を動員して切れ目のない、シームレスなサービスを提供しています。

そして、高齢者や子どもたち、障害者が当たり前になり、共に生きる地域づくりに貢献します。

病院の沿革

大正13年 7月 済生会小樽診療所開設「小樽市手宮1丁目6番地」
 昭和27年12月 社会福祉法人恩賜財団済生会支部北海道済生会小樽北生病院開院 病床数22床5科（内科、小児科、外科、産婦人科、眼科）
 昭和30年 1月 増床（62床 一般32床、結核30床）
 昭和30年 9月 北海道済生会小樽北生病院附属 准看護婦養成所併設
 昭和32年 4月 病院の一部焼失
 昭和32年 7月 病棟、管理棟増改築（33年棟） 鉄筋コンクリート造、地下1階、地上4階2139.56㎡ 増床（185床）
 昭和36年 1月 整形外科開設
 昭和40年11月 病棟、管理棟増改築（南棟） 鉄筋コンクリート造、地下1階、地上4階3023.65㎡
 昭和41年 4月 皮膚・泌尿器科開設
 昭和48年12月 乳児保育所併設
 昭和51年 7月 増床（277床 一般140床、結核31床、老人106床）耳鼻咽喉科開設
 昭和55年 4月 人工透析開始（268床）
 昭和56年 9月 結核病棟廃止（237床）
 昭和58年 1月 増床（311床 一般131床、老人180床）
 昭和59年 2月 病棟、管理棟増改築（北棟） 鉄筋コンクリート造、地下1階、地上4階塔屋付4252.45㎡
 平成 2年10月 看護師宿舎増改築
 平成 5年 6月 病棟、管理棟増改築（中央棟） 鉄筋コンクリート造、地下1階、地上5階塔屋付2803.59㎡
 平成 6年 5月 麻酔科増設
 平成10年10月 循環器内科開設 小児科廃止
 平成13年12月 一部療養病床へ転換（289床 一般245床、療養44床）
 平成14年 4月 M R I（1.5テスラ）導入
 平成14年10月 社会福祉法人恩賜財団済生会支部北海道済生会小樽病院に名称変更
 平成15年 3月 北海道済生会小樽病院附属 准看護師養成所 閉校
 平成15年10月 体外衝撃波結石破砕装置導入
 平成15年11月 皮膚科廃止
 平成16年 4月 神経内科開設
 平成17年 3月 産婦人科廃止、眼科廃止
 平成18年 6月 院内全面禁煙開始
 平成18年 9月 一般病床入院基本料10対1取得 マルチスライスC T（16列）導入
 平成20年 7月 療養病床から回復期リハビリテーション病棟へ変更（44床から42床へ）回復期リハビリテーション入院料2取得（42床）
 平成21年 1月 回復期リハビリテーション入院料1取得
 平成21年 7月 医療画像管理システム（PACS）導入
 平成22年 9月 臨床研修病院（協力型）に指定
 平成23年12月 新病院建築工事着工
 平成24年 7月 M R Iバージョンアップ
 平成24年 9月 オーダリングシステム運用開始
 平成24年10月 マルチスライスC T（64列）に更新
 平成25年 2月 一般病床入院基本料7：1取得
 平成25年 8月 北海道小樽市築港10番1に移転。延17704.29㎡。許可病床数、一般258床（うち回復期リハビリ病床50床）婦人科（女性診療科）新設。電子カルテ運用開始
 平成26年 4月 指定居宅介護支援事業所はまなす併設
 平成26年10月 地域包括ケア病棟（53床）開設
 平成27年 4月 地域ケアセンター併設・小樽市南部地域包括支援センター事業開始
 婦人科廃止
 人工透析内科開設
 平成30年 2月 特定行為研修 指定研修機関に指定
 令和元年12月 訪問看護ステーション併設
 令和 2年 3月 外科手術用3D内視鏡システム導入
 令和 2年 9月 重症心身障がい児（者）施設みどりの里統合
 統合により小児科標榜
 令和 2年10月 M R I更新
 令和 3年 3月 地域ケアセンター 済生会ビレッジに移転
 令和 3年 4月 緩和ケア内科、精神科、腫瘍精神科開設
 令和 3年11月 C T更新

病院概要

名 称	社会福祉法人恩賜財団済生会支部 北海道済生会小樽病院
所 在 地	〒047-0008 北海道小樽市築港10番1号
電 話 / FAX	電話番号：0134-25-4321 FAX番号：0134-25-2888
管 理 者	病院長 和田 卓郎
病 院 種 別	一般病院
敷 地 面 積	19,147.41平方メートル
延 べ 床 面 積	26,677.00平方メートル （鉄筋コンクリート造、病院棟5階建て、エネルギー棟2階建て、みどりの里6階建て）
駐車スペース	147台
そ の 他 施 設	保育施設
許 可 病 床 数	一般病床 378床（地域包括ケア病棟53床、回復期リハビリテーション病棟50床、重症心身障がい児（者）病棟120床）
診 療 科 目	内科 消化器内科 循環器内科 脳神経内科 外科 消化器外科 整形外科 泌尿器科 人工透析内科 放射線科 リハビリテーション科 緩和ケア内科 精神科 腫瘍精神科 小児科
外来診療時間	【受付】 （午前の部）8時50分～11時30分 （午後の部）12時40分～16時00分 【診療時間】 （午前の部）9時00分～12時40分 （午後の部）13時40分～17時30分
面 会 時 間	【平日】 13時00分～20時00分 【土曜・日曜・休日】 10時00分～20時00分

認定施設一覧

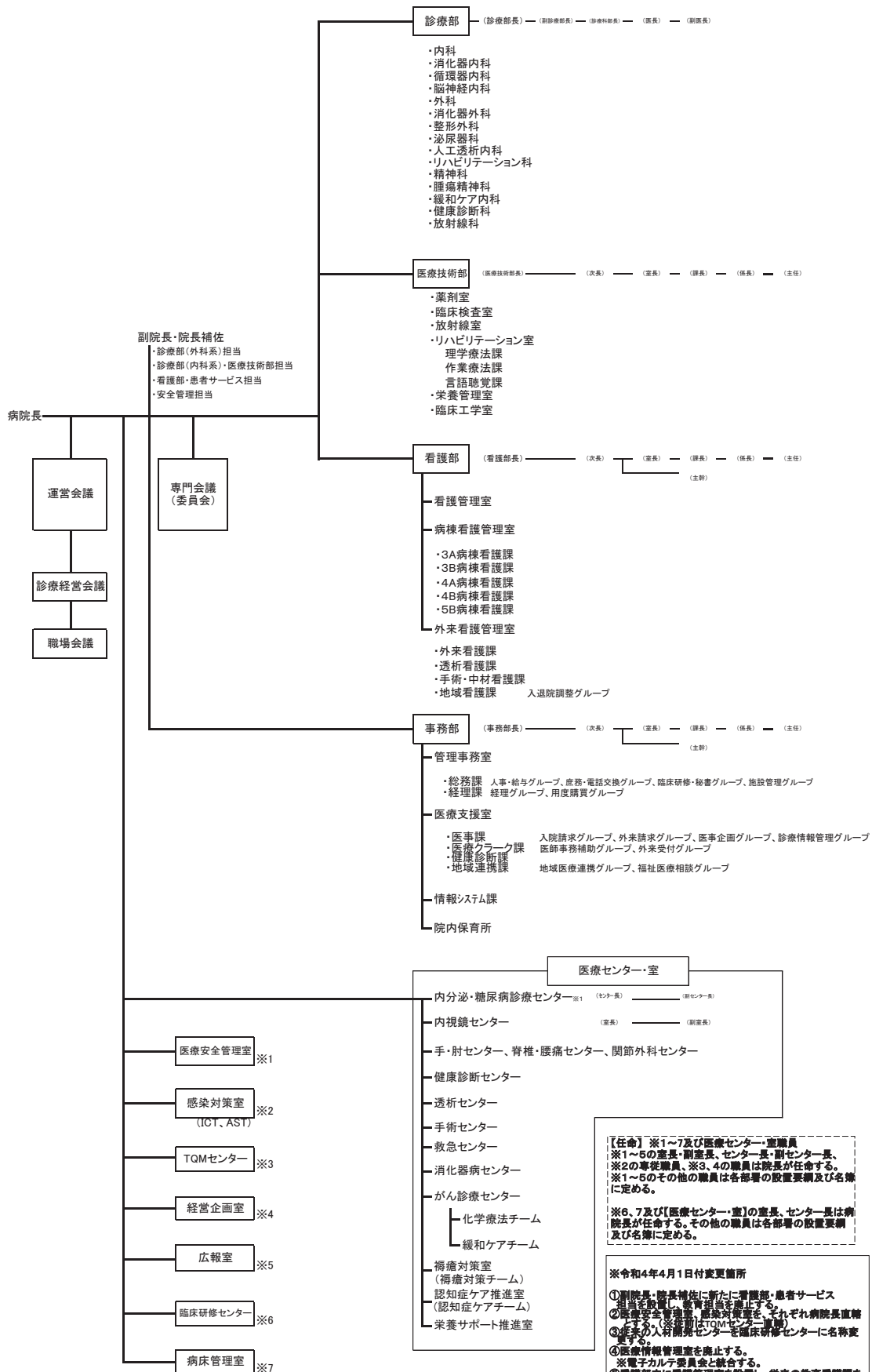
- ・日本内科学会教育関連施設
- ・日本消化器内視鏡学会指導施設
- ・日本消化器病学会認定施設
- ・日本神経学会教育施設
- ・日本甲状腺学会認定専門医施設
- ・日本外科学会外科専門医制度修練施設
- ・日本整形外科学会専門医研修施設
- ・日本手外科学会基幹研修施設
- ・日本泌尿器科学会専門医教育施設
- ・日本がん治療認定医機構認定研修施設
- ・日本認知症学会専門医制度教育施設
- ・JSPEN 日本静脈経腸栄養学会 NST稼働施設
- ・JCNT 日本栄養療法推進協議会 NST稼働施設
- ・看護師特定行為研修指定研修機関

※病院概要については令和5年3月31日時点掲載

組織図

済生会小樽病院 組織図

令和5年4月1日



I 年間主要行事

令和4年度 年間行事

4月	1日(金)	辞令交付式 新採用者研修会
	5日(火)	病院長新年度方針 (ZOOM配信)
	19日(火)	野球健診
5月		
6月	25日(土)	済生会ウエルネスフェア
7月	8日(金)	選挙 不在者投票
	12日(火)	献血車 来院
8月	5日(金)	選挙 不在者投票 保育所 夏祭り
	17日(水)	ふれあい看護体験
9月		
10月	14日(金)	保育所ハロウィン
	21日(金)	東北北海道ブロック会議 (仙台)
	22日(土) 23日(日)	第5回リハビリテーション研究会in小樽
	31日(月)	コンプライアンス研修 (ZOOM)
11月	30日(水)	倫理研修 (ZOOM)
12月	15日(木)	永年勤続表彰式並びに職員福利厚生会忘年会 (ZOOM)
	22日(木)	保育所 クリスマス会
	29日(木)	仕事納め
1月	4日(水)	仕事始め 病院長年頭挨拶 (ZOOM)
2月	11日(土) 12日(日)	第75回済生会学会・令和4年度済生会総会(横浜)
3月	17日(金)	本部永年勤続表彰伝達式

※新型コロナウイルスにより、各行事・院内セミナー等は自粛・ZOOMでの開催となりました

年度表彰

●永年勤続

30年表彰

技術係長	釜 石 明
看護師	佐々木 知 美
看護師	大 石 睦 美
看護師	原 田 真 里
看護師	早 川 明 美
看護助手	江 良 智 枝 美
看護助手	川 島 幸 子



20年表彰

副診療部長	安 達 秀 樹
医療技術部長	野 村 信 平
看護係長	宮 下 めぐみ
看護係長	丸 岡 貴 子
看護師	福 島 陽 子
看護師	菊 地 麻衣子
看護師	木 藤 絢 子
看護師	渡 邊 詩 子
看護師	伊 吹 奈 奈
看護師	平 元 昌 恵
事務員	吉 田 幸 恵
事務員	寺 島 光 代



10年表彰

看護係長	井 上 晶 子
事務主任	石 橋 慶 悟
事務主任	秋 元 かおり
看護師	早 川 恵 美 子
看護師	藤 原 大 地
看護師	石 田 ゆかり
看護師	見 澤 早 苗
看護師	田 中 寛 子
薬剤師	中 村 圭 介
理学療法士	花 田 健 健
理学療法士	米 田 健 太郎
理学療法士	三 浦 富 美 彦
作業療法士	高 橋 友 梨
事務員	平 澤 慎 吾
介護福祉士	海 瀬 愛 美



4.1 辞令交付式



6.25 済生会ウエルネスフェア



8.5 保育所夏祭り



8.17 ふれあい看護体験



10.14 保育所ハロウィン



12.15 永年勤続表彰



12.22 保育所クリスマス会



R5.2 保育所 雪像



購入機器紹介



令和4年4月4日
ストレッチャー



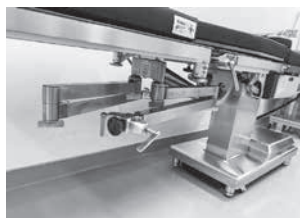
令和4年4月25日
4K関節鏡システム



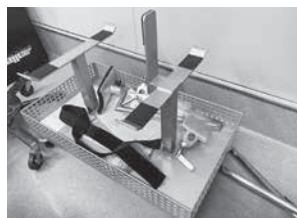
令和4年5月6日
整形外科用手術台



令和4年5月6日
展開アーム



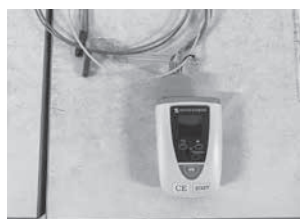
令和4年5月6日
下肢牽引器



令和4年5月6日
下肢牽引カート



令和4年5月19日
小型遺伝子検査機器ID NOW



令和4年5月19日
送信機



令和4年5月31日
電動リモートコントロールベッド



令和4年6月23日
薬用冷蔵庫



令和4年7月4日
小型遺伝子検査機器 ID NOW



令和4年7月12日
ゲイトイノベーション



令和4年7月25日
医用テレメータ8人仕様



令和4年7月25日
送信機



令和4年8月22日
ハンドル



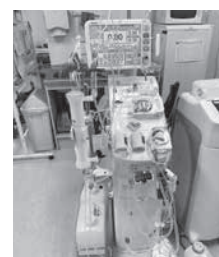
令和4年8月26日
ハグユーバック



令和4年9月6日
空気感染隔離ユニット



令和4年9月12日
自動遺伝子解析装置



令和4年9月14日
透析装置



令和4年9月21日
ビデオシステム



令和4年9月22日
一般X線撮影装置



令和4年9月27日
プロジェクター



令和4年9月29日
超音波診断装置



令和4年9月30日
薬用冷蔵庫



令和4年10月25日
デジタルスケール付き電動ベッド



令和4年11月24日
関節鏡



令和4年11月29日
全身X線骨密度測定装置



令和5年1月17日
個人用透析装置



令和5年1月19日
内視鏡洗浄装置



令和5年2月1日
感染制御支援システム



令和5年2月21日
移動型デジタルX線撮影装置



令和5年2月27日
定電流刺激ユニット



令和5年3月10日
地域連携支援システム(まいとく)



令和5年3月12日
尿流量測定装置



令和5年3月22日
デジタルX線透視装置



令和5年3月22日
デジタルX線透視装置用大型ディスプレイ



令和5年3月22日
ERCP用保護カバー



令和5年3月22日
デジタルスケール付き電動ベッド



令和5年3月28日
リリウム ワン キット



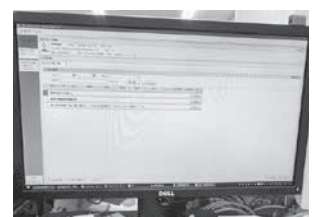
令和5年3月31日
麻酔器×3台



令和5年3月31日
マルチウォッシャー×5台



令和5年3月31日
オンライン資格確認



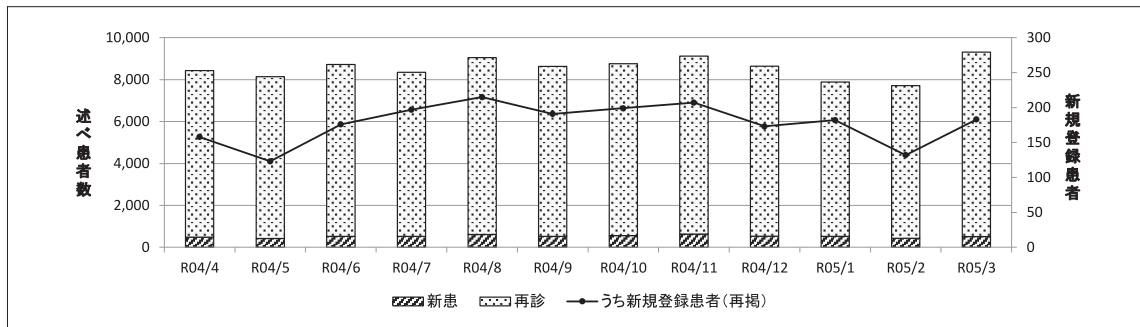
令和5年3月31日
地域連携システム

Ⅱ 診療実績

外来患者数

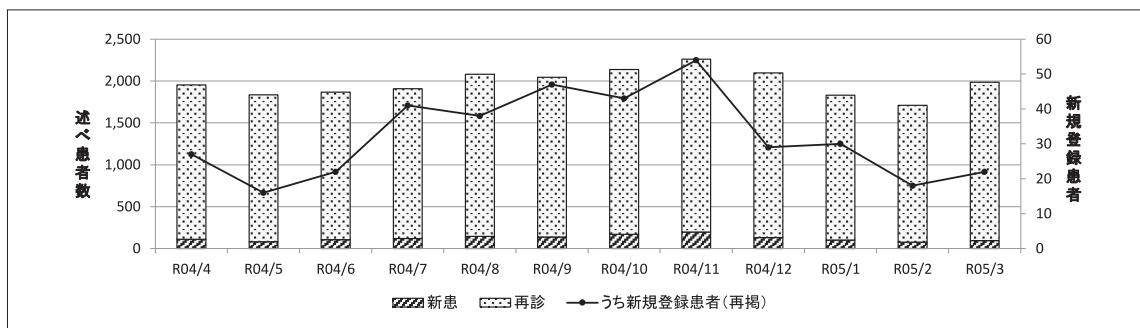
全 体

	R04/4	R04/5	R04/6	R04/7	R04/8	R04/9	R04/10	R04/11	R04/12	R05/1	R05/2	R05/3	計
再 診	7,941	7,710	8,192	7,821	8,432	8,106	8,194	8,481	8,101	7,365	7,274	8,790	96,407
新 患	490	424	528	528	616	523	558	637	532	521	432	516	6,305
うち新規登録患者(再掲)	158	123	176	197	215	191	199	207	173	182	132	183	2,136
述べ患者数	8,431	8,134	8,720	8,349	9,048	8,629	8,752	9,118	8,633	7,886	7,706	9,306	102,712



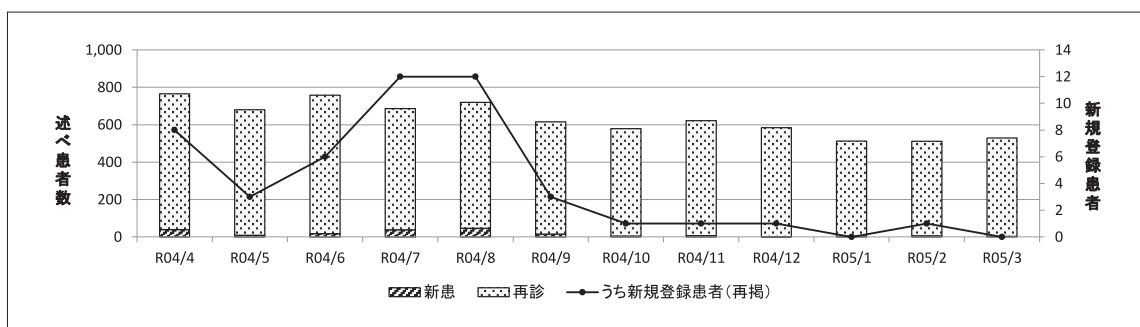
内 科

	R04/4	R04/5	R04/6	R04/7	R04/8	R04/9	R04/10	R04/11	R04/12	R05/1	R05/2	R05/3	計
再 診	1,844	1,755	1,763	1,789	1,937	1,907	1,969	2,065	1,966	1,730	1,634	1,891	22,250
新 患	110	81	105	120	145	138	170	197	132	101	76	94	1,469
うち新規登録患者(再掲)	27	16	22	41	38	47	43	54	29	30	18	22	387
述べ患者数	1,954	1,836	1,868	1,909	2,082	2,045	2,139	2,262	2,098	1,831	1,710	1,985	23,719



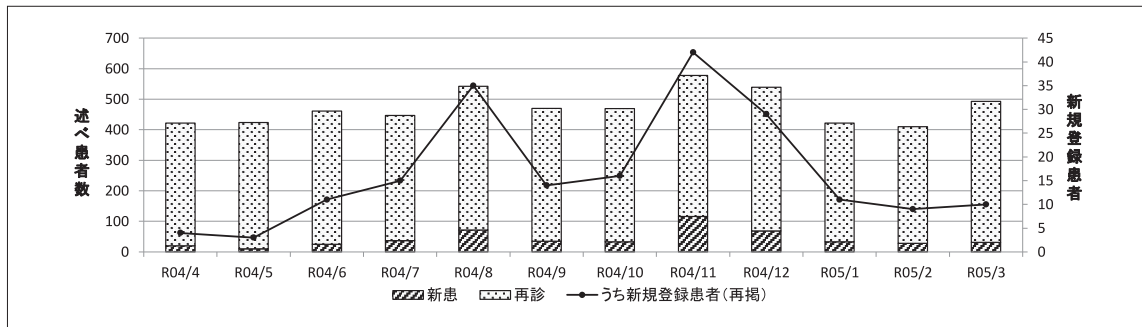
循環器内科

	R04/4	R04/5	R04/6	R04/7	R04/8	R04/9	R04/10	R04/11	R04/12	R05/1	R05/2	R05/3	計
再 診	726	671	740	648	672	600	574	615	582	509	506	526	7,369
新 患	39	9	18	38	47	15	5	7	2	4	6	3	193
うち新規登録患者(再掲)	8	3	6	12	12	3	1	1	1	0	1	0	48
述べ患者数	765	680	758	686	719	615	579	622	584	513	512	529	7,562



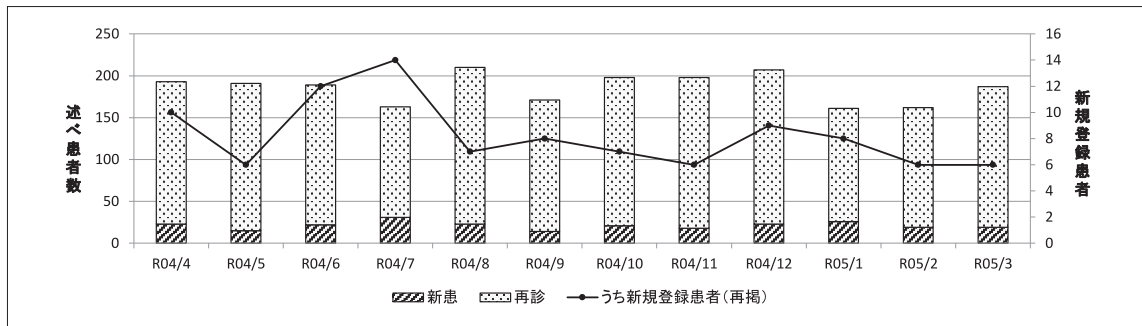
脳神経内科

	R04/4	R04/5	R04/6	R04/7	R04/8	R04/9	R04/10	R04/11	R04/12	R05/1	R05/2	R05/3	計
再 診	402	414	436	410	470	435	436	462	470	389	382	462	5,168
新 患	20	10	25	37	72	35	33	116	69	33	28	31	509
うち新規登録患者(再掲)	4	3	11	15	35	14	16	42	29	11	9	10	199
述べ患者数	422	424	461	447	542	470	469	578	539	422	410	493	5,677



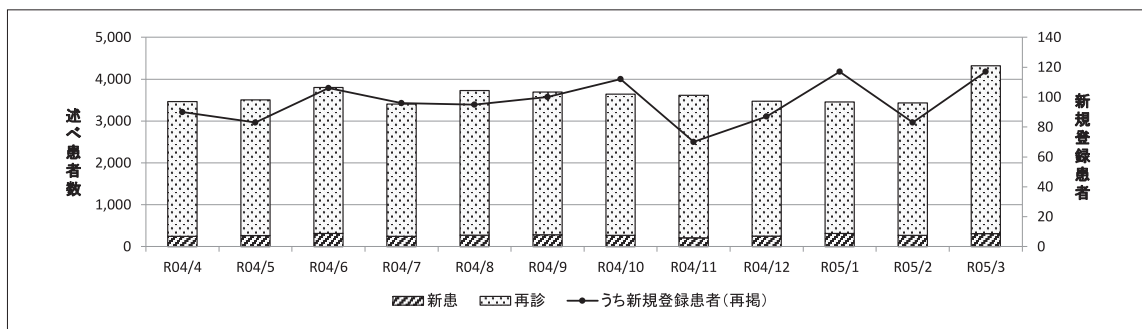
外 科

	R04/4	R04/5	R04/6	R04/7	R04/8	R04/9	R04/10	R04/11	R04/12	R05/1	R05/2	R05/3	計
再 診	170	176	167	132	187	157	177	180	184	135	143	168	1,976
新 患	23	15	22	31	23	14	21	18	23	26	19	19	254
うち新規登録患者(再掲)	10	6	12	14	7	8	7	6	9	8	6	6	99
述べ患者数	193	191	189	163	210	171	198	198	207	161	162	187	2,230



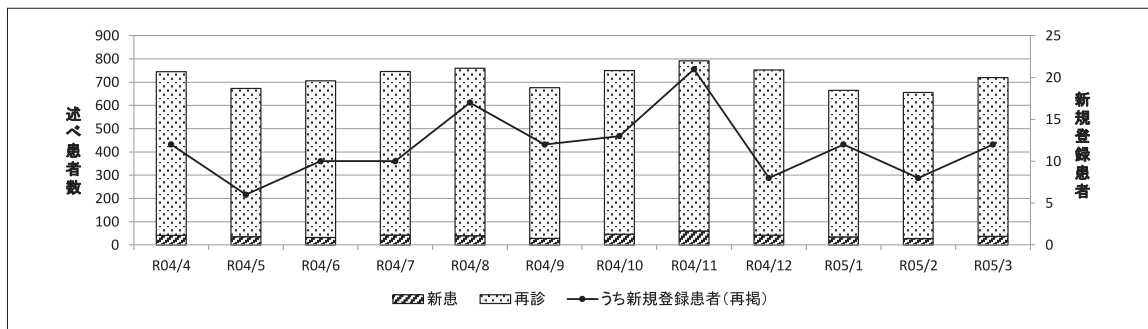
整形外科

	R04/4	R04/5	R04/6	R04/7	R04/8	R04/9	R04/10	R04/11	R04/12	R05/1	R05/2	R05/3	計
再 診	3,214	3,238	3,485	3,160	3,451	3,409	3,371	3,405	3,222	3,140	3,165	4,007	40,267
新 患	248	265	314	246	275	281	270	208	251	314	267	311	3,250
うち新規登録患者(再掲)	90	83	106	96	95	100	112	70	87	117	83	117	1,156
述べ患者数	3,462	3,503	3,799	3,406	3,726	3,690	3,641	3,613	3,473	3,454	3,432	4,318	43,517



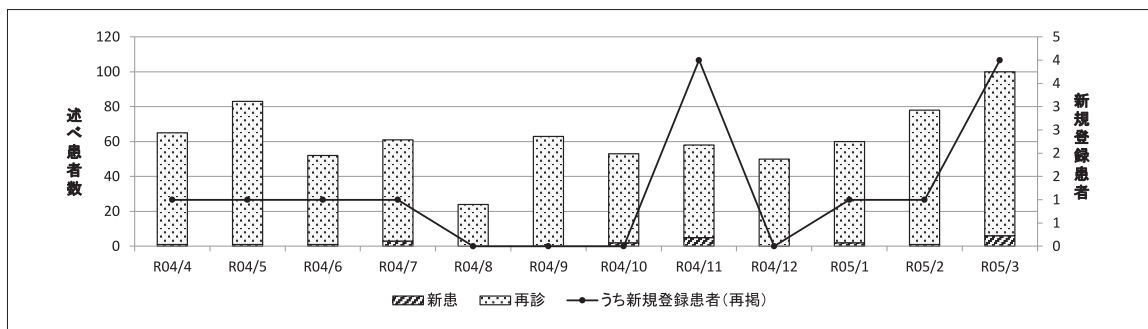
泌尿器科

	R04/4	R04/5	R04/6	R04/7	R04/8	R04/9	R04/10	R04/11	R04/12	R05/1	R05/2	R05/3	計
再 診	704	637	674	703	720	648	704	732	710	630	629	683	8,174
新 患	41	36	32	43	40	28	46	60	42	35	27	37	467
うち新規登録患者(再掲)	12	6	10	10	17	12	13	21	8	12	8	12	141
述べ患者数	745	673	706	746	760	676	750	792	752	665	656	720	8,641



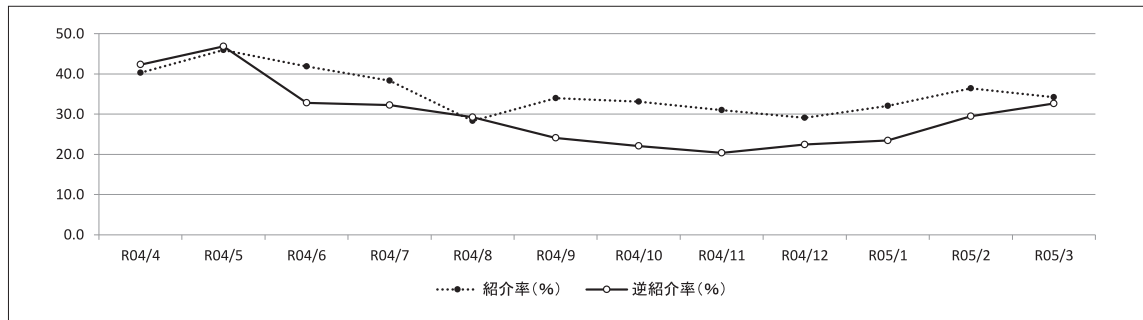
緩和ケア内科

	R04/4	R04/5	R04/6	R04/7	R04/8	R04/9	R04/10	R04/11	R04/12	R05/1	R05/2	R05/3	計
再 診	64	82	51	58	24	63	51	53	50	58	77	94	725
新 患	1	1	1	3	0	0	2	5	0	2	1	6	22
うち新規登録患者(再掲)	1	1	1	1	0	0	0	4	0	1	1	4	14
述べ患者数	65	83	52	61	24	63	53	58	50	60	78	100	747



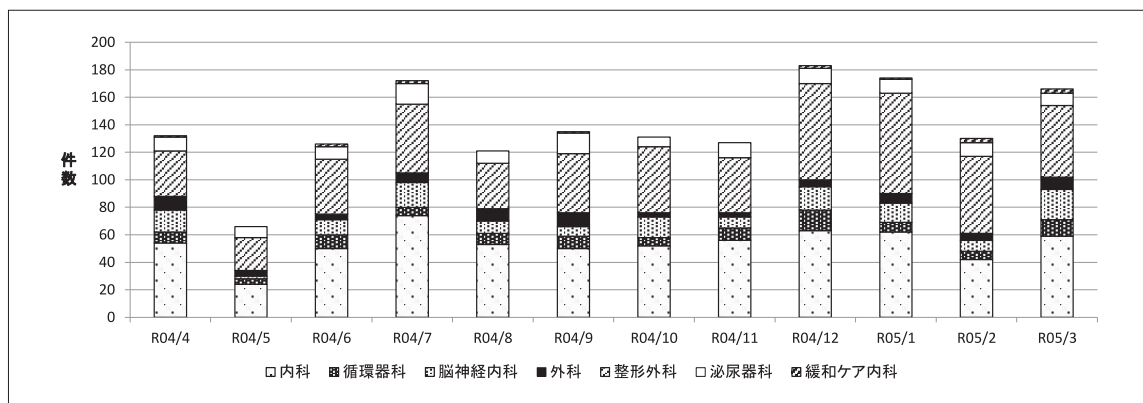
紹介率・逆紹介率

	R04/4	R04/5	R04/6	R04/7	R04/8	R04/9	R04/10	R04/11	R04/12	R05/1	R05/2	R05/3	計
紹介率(%)	40.3	45.9	41.9	38.3	28.3	34.0	33.1	31.0	29.1	32.1	36.4	34.2	36.9
逆紹介率(%)	42.3	46.8	32.8	32.2	29.2	24.1	22.1	20.4	22.4	23.4	29.5	32.6	29.3



診療科別救急患者数（救急患者・時間外受診患者など）

		R04/4	R04/5	R04/6	R04/7	R04/8	R04/9	R04/10	R04/11	R04/12	R05/1	R05/2	R05/3	計
内科	外来	6	4	7	13	13	9	8	16	15	9	10	9	119
	入院	48	20	43	61	40	41	44	40	48	53	32	50	520
	合計	54	24	50	74	53	50	52	56	63	62	42	59	639
循環器科	外来	1	0	3	2	0	3	2	3	3	0	0	4	21
	入院	7	4	7	4	8	6	4	6	12	7	6	8	79
	合計	8	4	10	6	8	9	6	9	15	7	6	12	100
脳神経内科	外来	2	0	2	3	0	2	2	0	1	3	3	3	21
	入院	14	2	9	15	9	5	13	8	16	11	5	19	126
	合計	16	2	11	18	9	7	15	8	17	14	8	22	147
外科	外来	0	2	1	2	1	1	1	1	0	2	2	3	16
	入院	10	2	3	5	8	9	2	2	5	5	3	6	60
	合計	10	4	4	7	9	10	3	3	5	7	5	9	76
整形外科	外来	10	5	5	16	6	8	9	14	15	22	15	17	142
	入院	23	19	35	34	27	35	39	26	55	51	41	35	420
	合計	33	24	40	50	33	43	48	40	70	73	56	52	562
泌尿器科	外来	3	0	3	4	3	7	5	5	2	4	2	2	40
	入院	7	8	6	11	6	8	2	6	9	6	8	7	84
	合計	10	8	9	15	9	15	7	11	11	10	10	9	124
緩和ケア内科	外来	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	1	3
	入院	1	0	2	1	0	0	0	0	2	1	3	2	12
	合計	1	0	2	2	0	1	0	0	2	1	3	3	15
総計		132	66	126	172	121	135	131	127	183	174	130	166	1663



入院

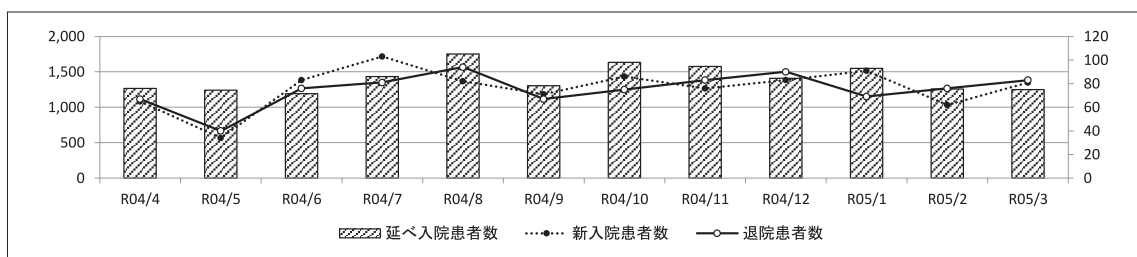
入院患者（病院全体）

	R04/4	R04/5	R04/6	R04/7	R04/8	R04/9	R04/10	R04/11	R04/12	R05/1	R05/2	R05/3	計
延べ入院患者数	5,635	4,674	4,883	5,875	5,852	5,555	5,665	5,690	5,766	5,798	5,009	5,809	66,211
新入院患者数	233	137	247	283	247	255	264	227	274	254	227	274	2,922
退院患者数	242	168	216	263	266	251	259	243	281	231	237	269	2,926

診療科別入院患者数

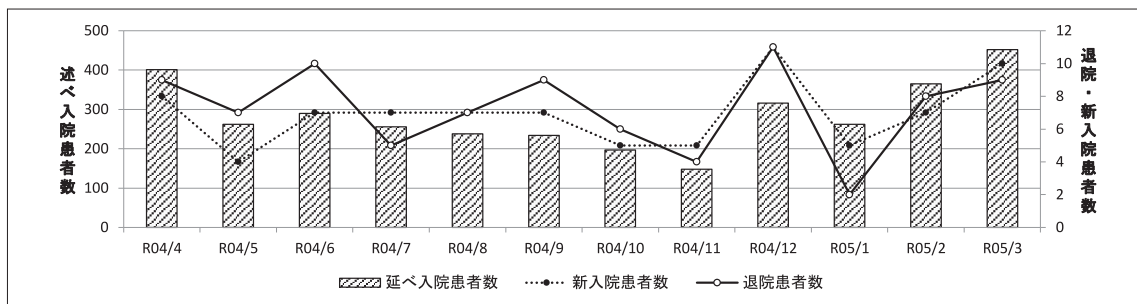
内 科

	R04/4	R04/5	R04/6	R04/7	R04/8	R04/9	R04/10	R04/11	R04/12	R05/1	R05/2	R05/3	計
延べ入院患者数	1,266	1,241	1,193	1,434	1,753	1,305	1,634	1,577	1,408	1,550	1,259	1,249	16,869
新入院患者数	65	34	83	103	82	71	86	76	83	91	62	81	917
退院患者数	67	40	76	81	94	67	75	83	90	69	76	83	901



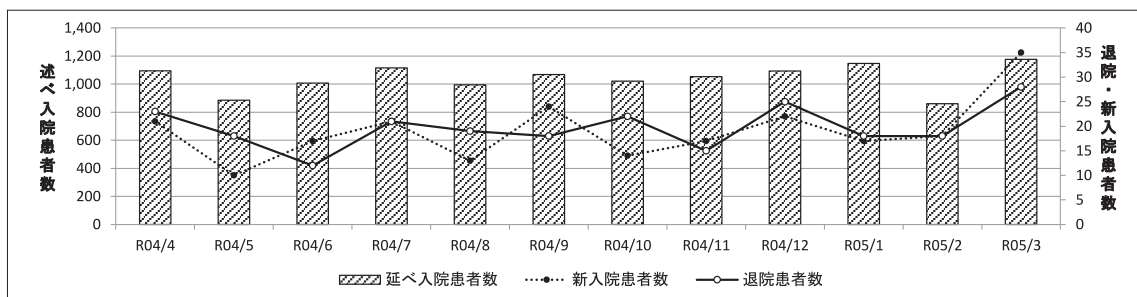
循環器科

	R04/4	R04/5	R04/6	R04/7	R04/8	R04/9	R04/10	R04/11	R04/12	R05/1	R05/2	R05/3	計
延べ入院患者数	401	262	290	256	238	234	197	148	316	262	365	452	3,421
新入院患者数	8	4	7	7	7	7	5	5	11	5	7	10	83
退院患者数	9	7	10	5	7	9	6	4	11	2	8	9	87



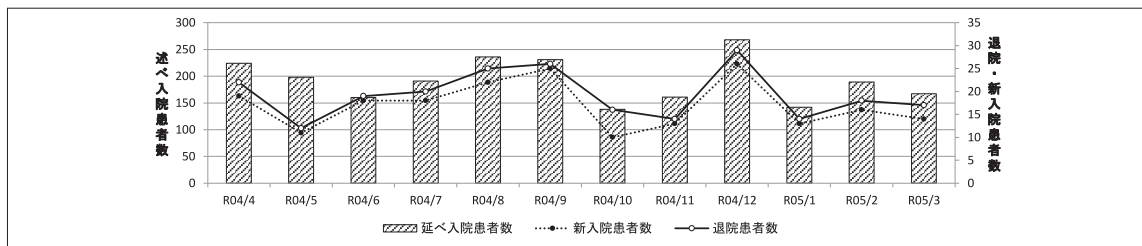
脳神経内科

	R04/4	R04/5	R04/6	R04/7	R04/8	R04/9	R04/10	R04/11	R04/12	R05/1	R05/2	R05/3	計
延べ入院患者数	1,095	885	1,007	1,116	995	1,069	1,021	1,053	1,094	1,148	861	1,176	12,520
新入院患者数	21	10	17	21	13	24	14	17	22	17	18	35	229
退院患者数	23	18	12	21	19	18	22	15	25	18	18	28	237



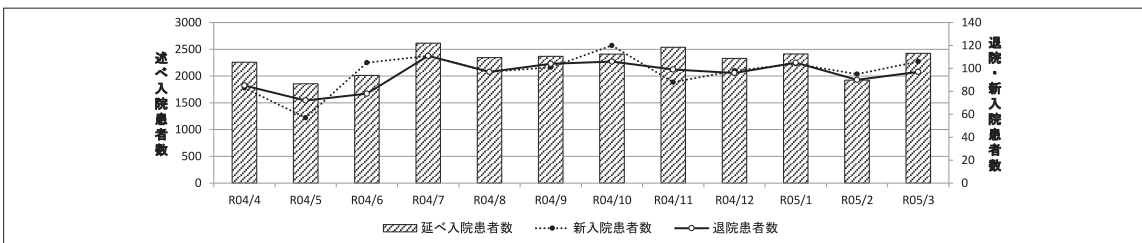
外 科

	R04/4	R04/5	R04/6	R04/7	R04/8	R04/9	R04/10	R04/11	R04/12	R05/1	R05/2	R05/3	計
延べ入院患者数	224	198	160	191	236	231	138	161	268	142	189	167	2,305
新入院患者数	19	11	18	18	22	25	10	13	26	13	16	14	205
退院患者数	22	12	19	20	25	26	16	14	29	14	18	17	232



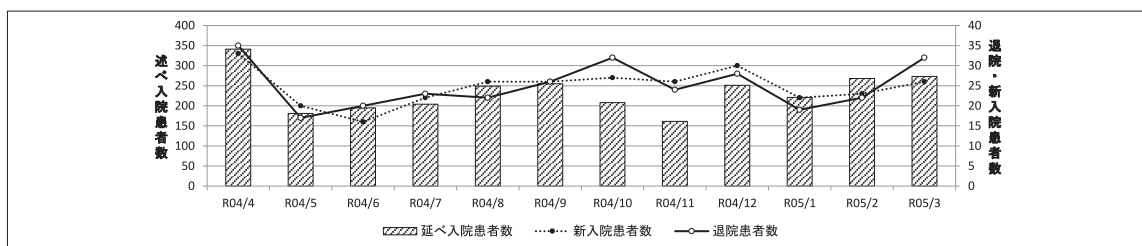
整形外科

	R04/4	R04/5	R04/6	R04/7	R04/8	R04/9	R04/10	R04/11	R04/12	R05/1	R05/2	R05/3	計
延べ入院患者数	2259	1855	2014	2615	2346	2369	2410	2539	2331	2414	1925	2424	27,501
新入院患者数	83	57	105	111	97	101	120	88	98	104	95	106	1,165
退院患者数	85	72	78	111	97	104	106	99	96	105	90	97	1,140



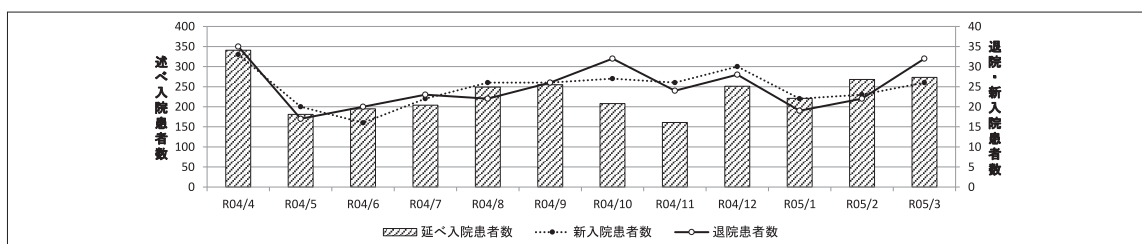
泌尿器科

	R04/4	R04/5	R04/6	R04/7	R04/8	R04/9	R04/10	R04/11	R04/12	R05/1	R05/2	R05/3	計
延べ入院患者数	341	181	195	204	249	255	208	161	251	221	268	273	2,807
新入院患者数	33	20	16	22	26	26	27	26	30	22	23	26	297
退院患者数	35	17	20	23	22	26	32	24	28	19	22	32	300



緩和ケア内科

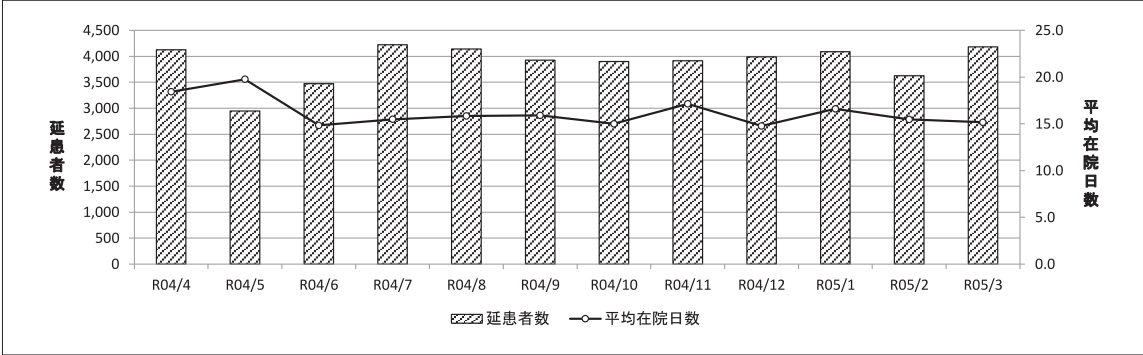
	R04/4	R04/5	R04/6	R04/7	R04/8	R04/9	R04/10	R04/11	R04/12	R05/1	R05/2	R05/3	計
延べ入院患者数	49	65	70	61	31	54	32	45	67	26	51	36	587
新入院患者数	4	1	1	1	0	1	2	2	4	2	6	2	26
退院患者数	1	2	1	2	2	1	2	4	2	4	5	3	29



病棟別入院患者数

一般病棟入院患者数・平均在院日数

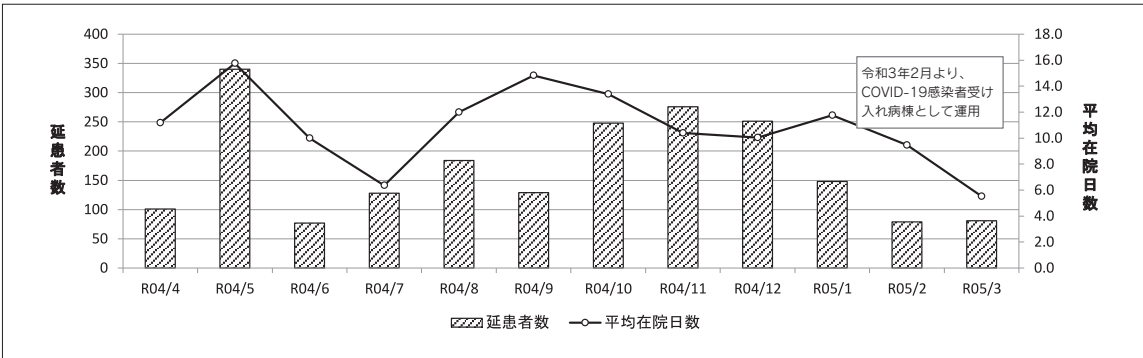
	R04/4	R04/5	R04/6	R04/7	R04/8	R04/9	R04/10	R04/11	R04/12	R05/1	R05/2	R05/3	計
延患者数	4,124	2,947	3,472	4,223	4,138	3,926	3,900	3,914	3,989	4,089	3,623	4,180	46,525
1日平均患者数	137.5	95.1	115.7	136.2	133.5	130.9	125.8	130.5	128.7	131.9	129.4	134.8	127.5
平均在院日数	18.4	19.8	14.8	15.5	15.8	15.9	15.0	17.1	14.8	16.6	15.5	15.2	16.0



地域包括ケア病棟入院患者数・平均在院日数

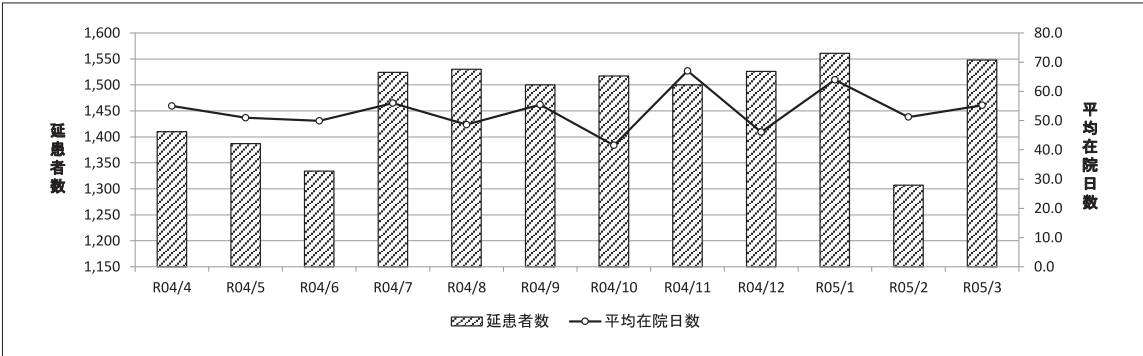
	R04/4	R04/5	R04/6	R04/7	R04/8	R04/9	R04/10	R04/11	R04/12	R05/1	R05/2	R05/3	計
延患者数	101	340	77	128	184	129	248	276	251	148	79	81	2,042
1日平均患者数	3.4	11.0	2.6	4.1	5.9	4.3	8.0	9.2	8.1	4.8	2.8	2.6	5.6
平均在院日数	11.2	15.8	10.0	6.4	12.0	14.8	13.4	10.4	10.0	11.8	9.5	5.5	10.9

※令和3年2月より地域包括ケア病棟にてCOVID-19感染患者の受け入れ開始



回復期リハ病棟入院患者数・平均在院日数

	R04/4	R04/5	R04/6	R04/7	R04/8	R04/9	R04/10	R04/11	R04/12	R05/1	R05/2	R05/3	計
延患者数	1,410	1,387	1,334	1,524	1,530	1,500	1,517	1,500	1,526	1,561	1,307	1,548	17,644
1日平均患者数	47.0	44.7	44.5	49.2	49.4	50.0	48.9	50.0	49.2	50.4	46.7	49.9	48.3
平均在院日数	55.0	51.0	49.9	56.0	48.6	55.4	41.5	67.0	46.1	63.9	51.2	55.2	52.6

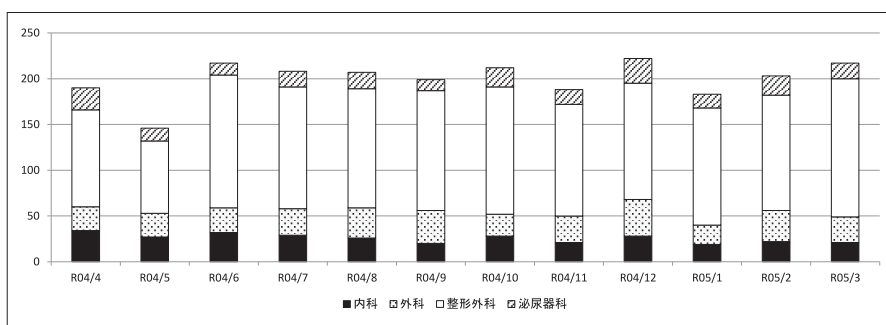


手術

診療科別手術件数

		R04/4	R04/5	R04/6	R04/7	R04/8	R04/9	R04/10	R04/11	R04/12	R05/1	R05/2	R05/3	計
内科	入院	32	25	30	27	24	18	26	19	26	17	20	19	283
	外来	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24
	合計	34	27	32	29	26	20	28	21	28	19	22	21	307
外科	入院	17	17	18	20	24	27	15	20	31	12	25	19	245
	外来	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	108
	合計	26	26	27	29	33	36	24	29	40	21	34	28	353
整形外科	入院	77	50	116	104	101	102	110	93	98	99	97	122	1169
	外来	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	348
	合計	106	79	145	133	130	131	139	122	127	128	126	151	1517
泌尿器科	入院	23	13	12	16	17	11	20	15	26	14	20	16	203
	外来	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
	合計	24	14	13	17	18	12	21	16	27	15	21	17	215
総計		190	146	217	208	207	199	212	188	222	183	203	217	2392

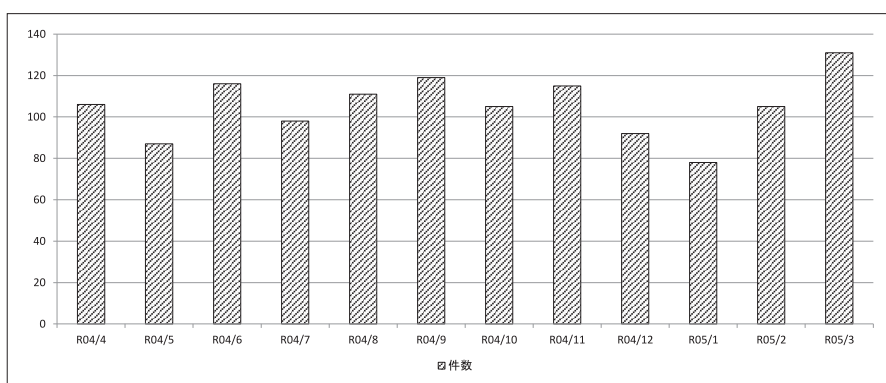
※診療報酬点数表の診療行為のうちKコードの算定件数



内視鏡検査件数

	R04/4	R04/5	R04/6	R04/7	R04/8	R04/9	R04/10	R04/11	R04/12	R05/1	R05/2	R05/3	計
件数	106	87	116	98	111	119	105	115	92	78	105	131	1263

※健康診断での内視鏡検査件数を除く



学生受け入れ

■ 診 療 部

令和4年度 実習受け入れ実績

令和4年度は札幌医科大学より計105名を受け入れました。

養成職種	関連機関名	学年	実習目的	実習期間	実習人数
医 師	札幌医科大学	6年	整形外科臨床実習(選択クリクラ)	令和4年 4月 7日	1
		6年	整形外科臨床実習(選択クリクラ)	令和4年 4月 8日	1
		6年	整形外科臨床実習(選択クリクラ)	令和4年 4月14日	2
		6年	整形外科臨床実習(選択クリクラ)	令和4年 6月 2日	2
		6年	整形外科臨床実習(選択クリクラ)	令和4年 6月 9日	2
		6年	整形外科臨床実習(選択クリクラ)	令和4年 6月23日	1
		6年	整形外科臨床実習(選択クリクラ)	令和4年 6月30日	1
		6年	整形外科臨床実習(選択クリクラ)	令和4年 7月 7日	2
		6年	整形外科臨床実習(選択クリクラ)	令和4年 7月14日	1
		6年	神経内科臨床実習(選択クリクラ)	令和4年 4月20日	1
		6年	神経内科臨床実習(選択クリクラ)	令和4年 6月22日	1
		6年	神経内科臨床実習(選択クリクラ)	令和4年 8月 3日	2
		6年	神経内科臨床実習(選択クリクラ)	令和4年 8月31日	5
		5年	神経内科臨床実習(必須クリクラ)	令和4年 4月13日	5
		5年	神経内科臨床実習(必須クリクラ)	令和4年 4月27日	5
		5年	神経内科臨床実習(必須クリクラ)	令和4年 5月18日	中止
		5年	神経内科臨床実習(必須クリクラ)	令和4年 6月 1日	中止
		5年	神経内科臨床実習(必須クリクラ)	令和4年 6月15日	6
		5年	神経内科臨床実習(必須クリクラ)	令和4年 6月29日	4
		5年	神経内科臨床実習(必須クリクラ)	令和4年 7月13日	5
		5年	神経内科臨床実習(必須クリクラ)	令和4年 7月27日	5
		5年	神経内科臨床実習(必須クリクラ)	令和4年 8月24日	5
		5年	神経内科臨床実習(必須クリクラ)	令和4年 9月 7日	5
		5年	神経内科臨床実習(必須クリクラ)	令和4年 9月28日	5
		5年	神経内科臨床実習(必須クリクラ)	令和4年 10月12日	中止
		5年	神経内科臨床実習(必須クリクラ)	令和4年 10月26日	5
		5年	神経内科臨床実習(必須クリクラ)	令和4年 11月 9日	5
		5年	神経内科臨床実習(必須クリクラ)	令和4年 12月 7日	中止
		5年	神経内科臨床実習(必須クリクラ)	令和4年 12月21日	5
		5年	神経内科臨床実習(必須クリクラ)	令和5年 1月18日	4
		5年	神経内科臨床実習(必須クリクラ)	令和5年 2月 1日	5
		5年	神経内科臨床実習(必須クリクラ)	令和5年 2月15日	5
		5年	神経内科臨床実習(必須クリクラ)	令和5年 3月 1日	5
		5年	神経内科臨床実習(必須クリクラ)	令和5年 3月15日	4

中止はコロナウイルス感染防止のため

臨床研修医受け入れ

初期研修医を受け入れています。

診療部では関連する病院から2年目の医師を地域研修等で受け入れています。

職種	関連機関名	実習目的	実習期間	実習人数
医師	札幌医科大学附属病院	1年次初期研修	令和4年4月1日～令和5年3月31日	1
	小樽市立病院	2年次研修医地域研修	令和4年 6月 1日～ 6月30日	1
	山形済生病院	2年次研修医地域研修	令和4年 10月 2日～10月29日	1
	KKR札幌医療センター	2年次研修医地域研修	令和4年 12月 1日～12月31日	1

内科専門研修医(後期研修)受け入れ

内科専攻の後期研修医を受け入れています。

職 種	研修内容	研修期間	研修人数
内科専門医師	内科専門研修	令和4年 4月 1日～	2

当院を基幹とする内科専門研修プログラムでは、2022年3月に修了された専攻医の先生に引き続いて、4月から新たにお二人の内科専攻医の先生を迎えることができました。それぞれ将来のサブスペシャリティを念頭に置かれつつ、広く2次救急を含めた第一線で活躍していただいています。

内科救急といえば昨年は開催不可能だったICLSとJMECC(日本内科学会救急研修)開催を、感染対策徹底の上開催し、院内未受講者以外に道内研修病院から受講者を受け、無事修了できました。また札幌医大病理学教室の協力を得て当院脳神経内科剖検例のCPCを実施、さらに専門医機構認定共通講習を倫理分野(船木 祝先生 札幌医大基礎教育部門哲学・倫理)、感染分野(桧山 佳樹先生 NTT札幌病院)についてZOOM併用で開催できたことは幸いでした。

2022年度もパンデミックのなか、医育機関の大学病院はじめ各基幹医療施設、ならびに当院感染対策委員会のご指導をえつつ、実習と地域医療研修を受け入れました。制限のあるなか当院の地域医療を垣間見て、自らの学修の一助にいただければ幸いです。

間際の急な変更等への対応を含め、実習・研修受け入れ、御指導にご協力いただいた院内関係科、各部署の皆様に深甚の感謝を申し上げます。来年度もよろしくお願いいたします。

文責 松谷 学

■ 医療技術部

医療技術部における令和4年度の実習受け入れ実績として、5部署において計10校からの実習受け入れ依頼に応じ、7職種、69名の学生が当院で実習を行いました。コロナ以前であればもっと多くの学校から沢山の実習生を受け入れておりましたが、このような状況であるため、受け入れについて制限せざるを得ませんでした。また、感染が拡大した際には、実習予定日の数日前でも受け入れをキャンセルさせていただいた例もあり、学生はじめ学校には大変ご迷惑をおかけしてしまいました。令和5年度は5月8日以降、2類相当から5類に移行することから、積極的に教育機関からの実習受け入れを行うとともに、実習内容の質向上に努めてまいります。

文責 医療技術部次長 松尾 覚志

【薬剤室】

養成職種	教育機関名	学年	実習目的	実習期間	実習人数
薬剤師	北海道科学大学	5年	薬学実務実習	令和4年 5月23日～令和4年 8月 7日	1名
		5年	薬学実務実習	令和4年 8月22日～令和4年11月 6日	1名

【リハビリテーション室】

養成職種	教育機関名	学年	実習目的	実習期間	実習人数
作業療法士	北海道文教大学	4年	臨床実習Ⅲ(総合)	令和4年 4月 4日～令和4年 5月27日	2名
		4年	臨床実習Ⅳ(評価)臨時	令和4年 7月19日～令和4年 8月 5日	1名
		3年	評価実習(評価)	令和4年 8月22日～令和4年 9月16日	2名
		2年	見学実習(見学)	令和5年 2月13日～令和5年 2月24日	2名
	北海道大学	4年	臨床実習Ⅳ(総合)	令和4年 6月13日～令和4年 8月 5日	1名
		3年	臨床実習Ⅱ(評価)	令和4年12月 5日～令和4年12月16日	1名
		2年	臨床実習Ⅰ(見学)	令和5年 2月 6日～令和5年 2月10日	2名
		2年	臨床実習Ⅰ(見学)	令和5年 2月13日～令和5年 2月17日	1名
	札幌医科大学	4年	総合臨床実習Ⅲ(総合)	令和4年 8月 8日～令和4年 9月16日	1名
	北海道医療大学	4年	総合臨床実習Ⅱ(総合)	令和4年 7月25日～令和4年 9月19日	1名
		3年	評価実習(評価)	令和5年 1月16日～令和5年 2月17日	1名
	札幌医学技術福祉歯科専門学校	2年	評価実習Ⅲ(評価)	令和4年10月31日～令和4年12月 6日	1名
		1年	臨床実習Ⅰ(見学)	令和5年 1月16日～令和5年 1月20日	1名
	東北文化学園大学	2年	臨床実習Ⅰ(評価)	令和5年 2月20日～令和5年 3月 3日	1名
	日本医療大学	1年	臨床実習Ⅰ(見学)	令和5年 1月16日～令和5年 1月20日	1名
		1年	臨床実習Ⅰ(見学)	令和5年 1月23日～令和5年 1月27日	1名
	弘前大学医学部附属病院	臨床4年目	臨床見学	令和4年 8月 3日～令和4年 8月 5日	1名
	日本医療大学	臨床17年目	臨床見学	令和4年12月15日	1名
理学療法士	北海道医療大学	4年	総合臨床実習Ⅱ	令和4年 5月 9日～令和4年 7月 1日	1名
		3年	総合臨床実習Ⅰ	令和5年 1月10日～令和5年 2月28日	1名
		2年	検査・測定実習	令和5年 2月27日～令和5年 3月10日	2名
		1年	見学実習	令和4年 8月 3日・令和4年 8月 4日	3名×2

理学療法士	北海道文教大学	4年	臨床実習Ⅳ	令和4年 6月20日～令和4年 7月29日	2名
		4年	臨床実習Ⅴ	令和4年 8月29日～令和4年10月 7日	1名
		3年	評価実習	令和5年 1月16日～令和5年 2月10日	2名
		2年	検査・測定実習	令和5年 2月20日～令和5年 2月24日	2名
		1年	見学実習	令和4年 9月 5日～令和4年 9月 9日	1名
	札幌医学技術福祉歯科専門学校	3年	臨床実習Ⅵ	令和4年 6月 6日～令和4年 7月15日	1名
		2年	臨床実習Ⅴ	令和4年10月24日～令和4年11月18日	1名
		1年	臨床実習Ⅰ	令和4年 7月11日～令和4年 7月15日	1名
	日本医療大学	4年	臨床実習Ⅲ	令和4年 7月18日～令和4年 9月 2日	1名
		3年	臨床実習Ⅱ	令和4年11月21日～令和4年12月16日	2名
		2年	臨床実習Ⅰ	令和5年 1月23日～令和5年 1月27日	1名
	北海道千歳リハビリテーション大学	4年	臨床治療学実習Ⅰ	令和4年 4月18日～令和4年 6月10日	1名
		3年	臨床実習Ⅱ	令和5年 1月16日～令和5年 2月10日	1名
		1年	臨床実習Ⅰ	令和4年 9月 5日～令和4年 9月 9日	1名
言語聴覚士	東北福祉大学	4年	臨床実習Ⅳ	令和4年 6月 7日～令和4年 7月 2日	1名
		3年	臨床実習Ⅲ	令和4年 6月 7日～令和4年 7月 2日	1名
	北海道医療大学	4年	総合臨床実習	令和4年 5月12日～令和4年 7月 6日	1名
		3年	基礎実習	令和4年10月27日～令和4年11月25日	1名
言語聴覚士	札幌医学技術福祉歯科専門学校	3年	総合臨床実習	令和4年 9月26日～令和4年10月24日	1名

【栄養管理室】

養成職種	教育機関名	学年	実習目的	実習期間	実習人数
管理栄養士	北海道文教大学	3年	臨床実習Ⅱ(臨床栄養学)	令和5年 2月 6日～令和5年 2月17日	2名
	北海道文教大学	3年	臨床実習Ⅱ(臨床栄養学)	令和5年 3月 6日～令和5年 3月17日	2名

【臨床工学室】

養成職種	教育機関名	学年	実習目的	実習期間	実習人数
臨床工学技士	北海道科学大学	3年	実務実習	令和4年11月29日～令和4年12月15日	2名

【放射線室】

養成職種	教育機関名	学年	実習目的	実習期間	実習人数
診療放射線技師	北海道科学大学	4年	臨床実習	令和4年 5月 9日～令和4年 5月13日	2名
		3年		令和4年11月 7日～令和4年11月11日	1名
		3年		令和4年11月14日～令和4年11月18日	1名
		3年		令和4年11月21日～令和4年11月25日	1名
		3年		令和4年11月28日～令和4年12月 2日	1名
		3年		令和5年 2月20日～令和5年 2月25日	1名

■ 看護部

令和4年度はwithコロナ時代として、安全で安心して臨地実習が行えるよう感染対策、教員との連携を図りながら臨地実習の受け入れを行うことができました。限られた時間の中で実習目標を達成し、効果的な指導ができるよう指導者の育成と実習の環境調整に力を入れています。学生の学びを支援できるよう研修プログラムを考え、指導者の実践力へ繋がっていることを実感しています。今後も実習指導者育成に努め、より良い実習環境の構築を目指していきます。

文責 看護係長 佐野 舞

令和4年度看護部実習受け入れ実績

教育機関名	学年	学習目的	実習場所	1Gの人数	実習期間	実習人数
小樽市医師会看護高等専修学校	2年	基礎実習	3A病棟・3B病棟 4A病棟・5B病棟	3～4名	5月11日～5月31日中止	14名
小樽市医師会看護高等専修学校	2年	成人老年看護実習	手術室・3A病棟 3B病棟・4A病棟 5B病棟	2～3名	6月 6日～12月15日	38名
北海道科学大学	看護学科 2年	基礎看護学実習Ⅱ	3A病棟・3B病棟 4A病棟・5B病棟	4～6名	7月11日～ 8月 5日	43名
小樽看護専門学校	3年	看護の統合と実践実習	3A病棟・3B病棟 4A病棟・5B病棟	3～4名	10月17日～10月28日	15名
北海道科学大学	1年	看護学科基礎実習Ⅰ	3B病棟・4A病棟 5B病棟	3名	1月30日～ 2月 3日	18名
小樽看護専門学校	2年	基礎看護実習	3A病棟・3B病棟 4A病棟・5B病棟	4名	2月13日～ 2月24日	16名

Ⅲ 部門報告

診療部

■ 総 括

診療部の令和4年度の最大のトピックスは、なんといっても札幌医科大学からたすき掛けでの初期研修第1号として馬場祐樹先生がきてくれたことです。医師としてのスタートに当院を選んでいただきありがとうございました。来年度（令和5年度）には、井澤朋大先生、岸本快先生、竹中理紗先生の3人が来てくれることになっています。研修医の先生が来てくれると、診療での戦力として助かるだけでなく、病院全体が明るく活性化するプライスレス（古くなりましたが）の効果が絶大です。ありがたいことです。

整形外科では濱田修人先生が来てくださいました。脊椎の専門家で、来て早々のゴールデンウィークには帰省先の道東から飛んで帰ってきて、がん患者さんの脊髄圧迫症の緊急減圧手術をしてくださいました。本当にありがとうございます。大阪大学の整形外科からは、令和4年度は近藤弘基先生がきてくださり、とてつもない数の救急車を受け入れてくださりました。また加我美紗先生が7月に加わってくださっています。

脳神経内科では河田先生に代わり水越誉久先生が来てくれました。脳神経内科の診療のみならずコロナ病棟含め種々の救急疾患も積極的に診療いただきました。ありがとうございました。

循環器内科は年度途中9月に汐谷優先生がご退職されて高田美喜生先生がついにピンになってしまいました。ご愁傷様です。

外科・消化器外科は昨年度末に長年勤められた孫先生が退職され片山知也先生が着任されました。消化管のスペシャリストです。よろしくお願いいたします。

泌尿器科では新海先生が札幌医科大学泌尿器科教室長にご栄転され、かわりに加藤秀一先生がきてくれました。

緩和ケア内科は菊地未紗子先生が緩和ケア、リエゾンに孤軍奮闘されております。診療のみならず臨床研究も進めておられ頭が下がります。

リハビリテーション科は10年ほど前から年を取ることをやめられた菊地正昭先生中心に札幌医科大学からの非常勤医師の手厚いサポートをうけ当院の大きな売りとしてますます充実してきております。

最後に内科・消化器内科ですが、当院独自の内科専攻医プログラムで永洞先生、安丸先生が来てくれました。文字通りの強力なメンバーとして内科救急の柱となって働いてくれました。内科の病棟診療体制もやっとユニット制によるチーム制に移行できました。本当にありがたいことです。

以上、令和4年度はこんな感じでした。こちんまりした集団ですが仲良く楽しくやっております。この年報をお読みになった医師でご興味のある方、特に、内科専門医欲しい方、是非ご連絡ください。

文責 診療部長 明石 浩史

内科・消化器内科

【スタッフ】

氏 名	役職名
水越 常德	副院長
宮地 敏樹	院長補佐
明石 浩史	診療部長
永洞 明典	内科副医長
安丸 卓磨	内科副医長
舩谷 治郎	内科医師
本谷 雅代	非常勤医師（手稲溪仁会消化器内科）
志谷 真啓	非常勤医師（JR札幌病院消化器内科）

【当科の概況】

当科では札幌医大消化器内科（旧第一内科）出身者中心にて成り立っており、診療内容は消化器疾患を中心に内科一般診療を行っております。今年（令和4年）も新型コロナウイルスの猛威により非常事態でやっております。当科でもコロナ病棟を担当しており、筆者水越と明石診療部長、永洞・安丸内科副医長が行っています。重点医療機関として、特に令和3年の2月から再度の受け入れをしていますが、緊迫状態が続いています。ワクチン接種対応・発熱外来対応など、通常診療もありますが、ほぼコロナに関する対応が主となっているのが現状です。

【当科の診療内容】

診療内容に大きな変化はありません。ただ、永洞・安丸医師が内科専門医の専攻医として当院プログラムに賛同して入職してくれております。やはり、若手が増えますといろいろな意味で活性化しています。永洞医師は消化器内科を、安丸医師は内分泌・糖尿病を専

門とする意向を持っておりますが、まずはJ-OSLERと格闘して内科専門医を取得して欲しいところです。また、何よりもありがたいのは二人とも救急対応も積極的にくれて大いに助かっております。多くの医師（自分も含めた特に中高年）が「救急は大切だ」と言いますが、いざ自分がやるとなると尻込みしてしまうのが現実では無いでしょうか。小樽市内の多くの病院が救急対応で苦勞しているのは耳にします。人手不足と医師の高齢化が主な原因ですが、当院も例外ではありません。なお、永洞医師は来年は野口病院での診療、安丸医師は引き続き当院での診療となっております。

【学会認定施設】

- ・日本内科学会教育関連施設
- ・日本消化器病学会専門医制度認定施設
- ・日本消化器内視鏡学会指導施設
- ・日本甲状腺学会認定専門医施設
- ・日本がん治療認定医機構認定研修施設

【人の動きとこれからに向けて】

工藤準也副医長が昨年10月に戻って来ていますが、専攻医としての任期を終えて、この4月からは札幌の禎心会病院へ異動しました。また、今井医師も一身上の都合で4月から札幌のみどりクリニックへ異動しています。上記の様に2人の専攻医を迎えて、毎週火曜日朝内科のカンファをして症例検討を重ねております。まずはコロナ禍が治まることを祈りながら、頑張っていく所存です。

文責 副院長 水越 常德

【スタッフ】

高田 美喜生	循環器内科部長
汐谷 優	循環器内科医長（～R4.9.30まで）
國分 宣明	非常勤

【当科の特徴】

当科は、虚血性心疾患（狭心症・心筋梗塞）、心不全、不整脈、弁膜症、大動脈疾患、先天性心疾患などの心血管疾患全般を専門的に扱うとともに、腎疾患および高血圧、糖尿病、脂質異常症などの生活習慣病も対象に幅広い分野の診察・治療を行なっています。

特に腎機能が低下する原因は多様ですが、原疾患が何であろうとも進行した状態においては体液組成を中心とした共通かつ複数の代謝異常が生じます。

しかも、それぞれの代謝異常自体が腎障害の進行因子として作用し、同時に他臓器の障害も進行させることが多くあります。

高齢化にともない、慢性腎臓病に代表される腎臓病は増加しており、当科外来の患者さんの多くも、腎機能障害を有しています。当科は日常診療において1人、1人の病態を理解し、対策を講じることに努めています。

【令和4年度の取り組み】

診療面では、慢性腎臓病（CKD）の原因疾患である糖尿病性腎症、高血圧性腎硬化症の治療に力を注ぎ、末期腎不全（ESRD）への進行の抑制と心血管病変の発症の予防を目的として、高齢化社会に対応した実践的なCKD対策に努力しています。

【今後の目標】

慢性腎臓病（CKD）が注目されるのは、1つは透析療法や腎移植などの腎代替療法を必要とする末期腎不全（ESRD）患者の増加です。多くの患者のQOLを低下させるだけでなく、経済的、人的に多大なコストを要しています。

2つ目は、CKDは末期腎不全のリスクのみならず、心血管事故や死亡あるいは入院のリスクファクターとして重要であることが、多くの疫学研究により明らかにされています。

すなわち、CKDはその数の多さと腎臓以外の健康障害の危険因子として人々の健康を脅かす重要な疾患として位置づけられています。

CKDは高血圧・糖尿病などの生活習慣病や加齢など、今後も増え続けることが確実な背景因子と深い関連があります。したがって、増え続けるESRDの発生を抑えるため、そして、心血管事故を予防するために、CKDの早期発見と、原因疾患に対する適切な治療に取り組んで行くことが大切であると考えています。

文責 循環器内科部長 高田 美喜生

【スタッフ】

林 貴士 部長

日本神経学会専門医・指導医、日本内科学会総合内科専門医・指導医、認知症サポート医

松谷 学 医長

日本神経学会専門医・指導医、日本内科学会総合内科専門医・指導医、日本認知症学会専門医・指導医、司書資格

藤倉 舞 医長

日本神経学会専門医、日本内科学会総合内科専門医、日本認知症学会専門医・指導医

平野理都子 医長

日本内科学会認定内科医、日本神経学会専門医

水越 誉久 副医長

【部署の特徴】

当科は、脳脊髄、末梢神経、筋肉に関連した疾患の診断と治療を行なっております。脳脊髄の疾患としては、脳梗塞や一部の脳出血などの脳血管疾患、記憶障害や遂行機能障害などがみられるアルツハイマー型認知症、動作緩慢に振戦や筋強剛、姿勢反射障害が見られるパーキンソン病、パーキンソン症状に加え変動のある認知機能の低下などの特徴があるレビー小体型認知症、運動神経の変性により全身の筋肉が萎縮していく筋萎縮性側索硬化症や、そのほか脊髄小脳変性症、多系統萎縮症などの神経変性疾患、感染症や代謝障害に伴う脳炎・脳症、中枢神経系の脱髄が生じる多発性硬化症や視神経脊髄炎などがあり、末梢神経の疾患では、先行感染後に四肢筋力低下をきたすギラン・バレー症候群や慢性の経過で筋力低下・感覚障害の再発寛解を繰り返す慢性炎症性脱髄性多発神経炎、神経と筋肉の接合部の疾患では眼瞼下垂や複視、筋力の易疲労性を呈する重症筋無力症、筋肉の疾患として筋痛や筋力低下を呈する多発筋炎などがあります。脳脊髄・末梢神経・筋肉の症状は上記の神経筋疾患以外にも肝障害や腎障害、糖尿病や甲状腺機能異常などの内分泌疾患、悪性腫瘍などを原因としても生じ得るため、内科疾患の知識も動員しながら診療しております。

アルツハイマー型認知症は高齢化とともに患者数が増加しています。疫学研究である久山町研究によれば2012年で65歳以上のアルツハイマー型認知症の有病率は12.3%と推定されており、この有病率を用いると2021年の小樽市の65歳以上のアルツハイマー型認知症の患者数は約5600人と推定されます。現在行われているアルツハイマー型認知症の治療は、神経細胞死によって生じる脳内アセチルコリンの減少を抑制する目的にコリンエステラーゼ阻害薬が用いられています。今後はアミロイド β を除去する作用のあるモノク

ロナール抗体薬によるアミロイド仮説を基づいた疾患修飾療法が行われるようになりそうです。第一弾の新薬は2021年に米国ではFDAにより条件付き承認がされましたが、日本では承認が見送られることになりました。ただ2023年1月には抗プロトフィブリル抗体薬が米国で承認され国内での承認も行われ、認知症をはじめとする神経変性疾患において疾患修飾薬での治療が行われるようになると考えられます。

【令和4年度の実績および取り組み】

医療面では、脳神経内科のある急性期病院として、外来診療や他医療機関からの紹介患者の適時受け入れを行なっています。脳卒中や免疫性神経疾患などの急性期治療後や神経変性疾患増悪時の治療後には、必要に応じ地域包括ケア病棟や回復期リハビリテーション病棟での治療を継続し、病院から地域へとシームレスな患者対応ができるように診療をしています。神経疾患の診療には一般的に時間がかかり、特に神経疾患の初診時にはかなりの時間を要します。新患紹介患者の予約受診までの待機期間を短くすべく引き続き新患外来枠を設けて対応しております。

教育面では、神経内科専門医を4名、日本内科学会総合内科専門医3名を擁し、日本神経学会教育施設となっております。専攻医（後期研修医）の先生に当院独自で神経内科専門医資格を取得できる体制を引き続き取っています。さらに小樽市を含む後志医療圏内で中核的急性期病床および回復期リハビリテーション病床を有する当院を基幹病院とした臨床研修協力施設、新・内科専攻医研修基幹施設の認定を受けております。専攻医の先生には日本神経学会北海道地方会で症例報告も行なっていただきました。札幌医科大学から、必修クリニカルクラークシップ（5年次）として83名、神経内科選択クリニカルクラークシップ（6年次）として8名の医学部生を受け入れております。また令和4年度から北海道文教大学の理学療法学科の学生に脳神経内科学の講義を行いました。このような形で医学教育や若手医師の育成などに力を入れております。

【今後の目標】

神経疾患の診断および治療を適切に行うとともに、難治な例や治療法がない疾患においても最善なケアを提供していきたいと考えております。その中でも嚥下機能の低下や呼吸機能の低下などが伴う疾患では、栄養摂取の方法や呼吸補助の方法などの決定に様々な倫理的問題が伴います。患者本人だけでなく、介護に関わる家族などそれぞれに療養に対する考え方や希望があり、それらを上手く抽出して患者自身にとって何が最適な療養かを多職種が関わり、意思決定支援を行

うことが大変重要になります。

急性期疾患の治療が必要な認知症患者やせん妄発症者への対応能力向上のため、認知症ケア推進室が中心となり認知症ケアチームでカンファレンスや回診を行っています。当科は認知症ケアやせん妄への対応を医師の立場からサポートし、病院全体のケアの質の向上を継続して行なっていきたいと考えています。

引き続き神経内科必修および選択クリニカルクラ-

クシップの医学生を受け入れ、神経学的診察から臨床推論、鑑別診断、必要な各種検査、疾患ごとの治療について実践的に学べるよう指導していきたいと考えています。また新・内科専攻医研修基幹施設として専攻医の受け入れをしていきたいと考えています。

文責 脳神経内科部長 林 貴士

外科・消化器外科

【スタッフ】

氏 名	役職名	専門・認定資格等
木村 雅美	副診療部長	日本消化器病学会 指導医・専門医 日本外科学会 指導医・専門医・認定医 日本消化器外科学会 指導医・専門医 日本消化器外科学会 消化器がん 外科治療認定医 日本内視鏡外科学会 技術認定医 日本がん治療認定医機構 がん治療認定医 検診マンモグラフィ読影認定医 札幌医科大学医学部 臨床教授
片山 知也	外科部長	日本消化器病学会 指導医・専門医 日本外科学会 指導医・専門医・認定医 日本消化器外科学会 指導医・専門医 日本消化器外科学会 消化器がん 外科治療認定医 日本大腸肛門病学会 専門医 日本内視鏡外科学会 技術認定医 日本がん治療認定医機構 がん治療認定医 検診マンモグラフィ読影認定医
田山 誠	外科部長	日本外科学会 専門医
島 宏彰	非常勤医師	日本外科学会 指導医・専門医 日本乳癌学会 指導医・専門医 日本がん治療認定医機構 がん治療認定医 検診マンモグラフィ読影認定医 乳房超音波読影認定医 エキスパンダー／インプラント実施医師
和田 朝香	非常勤医師	日本外科学会 専門医 日本乳癌学会 専門医 検診マンモグラフィ読影認定医 乳房超音波読影認定医

【部署の特徴】

当科では消化器疾患および甲状腺疾患の外科治療や、ヘルニア、乳腺疾患、肛門疾患の診断・治療を行っています。

「体にやさしい手術」を提供するために、「腹腔鏡による外科治療」を積極的に行ってきました。常勤の日本内視鏡外科学会技術認定医の指導により安全かつ質の高い腹腔鏡手術を提供していると自負しています。国内でも先駆的な平成3年より腹腔鏡下胆嚢摘出術を導入し、平成5年には胆嚢胆管結石症に対し一期的治療が行える腹腔鏡下胆管切開結石摘出術を開始しております。現在は、高精細な3Dスコープ等を駆使し、胃癌や大腸癌の外科治療においても、適応や安全に配慮しつつ積極的に腹腔鏡下手術を行っています。様々なヘルニア疾患をはじめ、急性胆嚢炎・急性虫垂炎・腸閉塞・潰瘍穿孔などの急性腹症での緊急手術にも実施しています。

当院の充実したリハビリテーションスタッフの協力により、術後早期からリハビリテーションを積極的に行っています。術後早期離床を目指すことで合併症を予防し、ご高齢の方でも早期の回復・退院・社会復帰につなげています。

各種がん手術症例を中心に術後補助化学療法、進

行・再発症例に対する化学療法を行っています。甲状腺内科との連携した手術、札幌医科大学乳腺チームと連携した乳がん診療も実施しております。緩和ケアチームの一員として緩和治療の一翼も担っています。

【実績（抜粋）】

年度	令和4年	令和3年	令和2年	令和元年	平成30年
胃切除術	3 (0)	0 (0)	6 (2)	9 (2)	1 (0)
胃全摘術	1 (0)	4 (0)	2 (0)	6 (2)	10 (3)
胆嚢摘出術	32 (32)	32 (31)	42 (38)	41 (41)	33 (33)
胆管切石術	6 (6)	13 (12)	5 (5)	13 (13)	4 (4)
結腸切除術	21 (13)	29 (15)	18 (9)	22 (13)	25 (17)
直腸切除術	6 (6)	8 (7)	7 (5)	6 (3)	5 (4)
直腸切断術	2 (1)	1 (1)	4 (4)	0 (0)	1 (1)
虫垂切除術	10 (9)	11 (11)	14 (13)	6 (5)	15 (14)
鼠径部ヘルニア手術	46 (41)	29 (23)	32 (24)	33 (22)	28 (23)
腹壁瘻ヘルニア手術	2 (0)	7 (1)	2 (0)	1 (0)	0 (0)
甲状腺手術	7	8	10	7	12
乳腺手術	1	2	2	2	0
肛門手術	3	5	5	7	3
外来手術	68	102	120	135	134
中心静脈ポート造設	74	74	84	64	77

【令和4年度の取り組み】

4月に人事異動により片山先生が赴任しました。これまでと同様の常勤医3人体制で、安全かつ質の高い外科診療を行えるように努めました。新型コロナウイルス感染症の影響を病院内外から受けつつも、日常診療を維持してまいりました。

【今後の目標】

近年、消化器がん治療は腹腔鏡手術の導入による低侵襲化、新規化学療法・集学的治療の開発、等々による予後の改善など飛躍的な進歩を遂げています。技術的な進化に遅れることなく研鑽を積み、患者様に還元できるよう努力を続けたいと思います。

地域の医療連携を推進し、これまで同様に内科・消化器内科とも連携して、切れ目のないより効率的な診療を行っていきたいと考えております。また、これからも札幌医科大学乳腺チームと連携し、後志管内のより広い地域の乳がん患者さんに対応してまいります。ニーズ増加した緩和的外科治療にも積極的に対応していきたいと思います。

文責 副診療部長 木村 雅美

整形外科

【スタッフ】

近藤真章 名誉院長 整形外科専門医
 和田卓郎 病院長 整形外科専門医、手外科専門医
 織田 崇 診療部長 整形外科専門医、手外科専門医、骨粗鬆症専門医
 池田康利 整形外科医長 整形外科専門医
 濱田修人 整形外科医長 整形外科専門医
 近藤弘基 整形外科副医長
 加我美紗 整形外科副医長

【当科の特徴】

後志地区で最も整形外科が多い医療機関として、一次・二次救急から外傷治療、各関節における専門的な手術治療まで幅広く診療を行っています。特筆すべきは手・肘関節分野で、その評判から札幌を始めとした他の地域から紹介受診される方も多くいます。その他脊椎・膝関節・肩関節・股関節はそれぞれ専門医による治療を提供しています。

週1回行われる術前・術後カンファレンスでは全患者の情報を提示し、治療方針のディスカッションをしつつ多分野の知識を共有しています。また抄読会には理学療法士も参加しており、他職種とも新しい知見について意見交換を行っています。

症例によっては包括支援病棟や回復期病棟を活用し、術後しっかりとしたりハビリテーションを提供したうえで在宅復帰や施設入所まで手厚く携わっています。

織田診療部長を中心に、若手整形外科医や研修医に

対し積極的に学会発表、論文作成の指導を行う教育体制が整っています。

【令和4年度の取り組み】

2016年時点で800件程度であった年間手術件数はその後右肩上がりに増加し、今年は1167件でした。中でも膝関節、脊椎疾患などの変性疾患の手術件数はこの数年間で倍増しています。

また本年度より研修医の整形外科専門プログラムが開始され、初年度は馬場祐樹先生が赴任され6ヶ月間の研修を受けられました。次年度は3名の臨床研修医が配属されることが決まっています。

臨床実習中の学生も多く実習に来ており、札幌医大整形外科の教育体制の一部を担う役割を請け負っています。

【今後の展望】

地域完結型の医療を提供すること、救急患者の受け入れに迅速かつ確実に対応することを目標とし、また他院から紹介されやすい関係作りに尽力しています。医局からは大学に次ぐ教育機関病院としての役割を期待されており、また令和7年度からは初期臨床研修の基幹型病院として始動する予定であり、ますます教育面での役割が大きくなると考えられます。

文責 整形外科医長 濱田 修人

手術実績（2022年1月～12月）

骨折・外傷	
橈骨遠位端骨折	73
上肢骨折その他	92
大腿骨近位部骨折	120
下肢骨折その他	93
脊椎骨折	5
腱・神経損傷	18
開放骨折(指以外)	1
開放骨折(指)	3
抜釘	124

総手術件数：1167件

変性疾患など	
ARCR	18
TSA+RSA	3
肘部管症候群	14
手根管症候群	51
滑膜切除(手・肘)	29
腱移行術	9
上肢その他	15
THA	21
TKA	63
膝関節鏡手術	63
膝靱帯再建術	30
膝周囲骨切り術	23
下肢その他	35
腫瘍	12
頸椎	14
胸椎	5
腰椎	86

【スタッフ】

堀田浩貴 副院長：

日本泌尿器科学会、専門医、日本泌尿器科学会指導医、ICD（インフェクションコントロールドクター）、日本性機能学会専門医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、日本医師会認定産業医、日本化学療法学会抗菌化学療法認定医

安達秀樹 副診療部長：

日本泌尿器科学会 専門医・指導医、日本性機能学会専門医

加藤秀一 泌尿器科部長：

日本泌尿器科学会 専門医・指導医、日本泌尿器科学会・日本泌尿器内視鏡学会、泌尿器腹腔鏡技術認定医
日本がん治療認定医機構 がん治療認定医、日本内視鏡学会 泌尿器腹腔鏡技術認定医

【当科の特徴】

北海道済生会小樽病院は、日本泌尿器科学会の専門医拠点教育施設の認定を受けております。そしてこの日本泌尿器科学会認定の専門医・指導医の資格を有する医師二名と北海道子ども総合医療・療育センターで小児泌尿器科の研鑽を積んだ医師一名の計三名で診療を担当しております。

泌尿器科は、副腎・腎臓・尿管・膀胱・前立腺・陰茎・尿道・精巣などを対象として、これらのさまざまな症状や疾患を診察・治療する診療科であります。

診療内容は、泌尿器科一般（排尿障害、尿路感染症、尿路結石など）、悪性腫瘍、慢性腎臓病（腎不全、透析）、性機能障害（勃起障害：ED）などを中心に多岐にわたっております。

患者さんの病気・病状に合わせて、最善と思われる治療方法を検討し、十分な説明を行います。患者さんもお自身の病気・病状について充分にご理解いただいたうえで、説明と同意のもとに治療を行うことを目標として、日々診療に従事しております。

【実績】

I. 外来

外来は火曜日と金曜日は午前二枠、月曜日、水曜日、木曜日は午前各一枠、そして火曜日午後に性機能

専門外来を行っています。令和4年の外来延患者数は、8,641名でした。紹介率は39.17%、逆紹介率は65.56%でした。主病名による上位疾患は、前立腺肥大症、急性膀胱炎、過活動膀胱、神経因性膀胱、などでした。外来化学療法は前立腺がん症例などを中心に積極的に取り入れています。

II. 入院

令和4年の延べ患者数は2,807名、新入院患者数は297名、手術件数は240件、平均在院日数は8.5日でした。主な入院病名は、膀胱がん、前立腺がん、尿管結石症、慢性腎臓病、水腎症などでした。札幌医科大学泌尿器科と綿密な連携を図り、集学的治療により改善が期待できる症例は積極的に紹介を行っています。

III. 透析医療

他の治療法による改善が見込めず、自覚症状も認められる末期慢性腎臓病症例に対しては、今後の治療方法（血液・腹膜透析、腎移植等）に関する十分な説明を行っております。血液透析の導入は、本人の十分な理解が得られた症例に対して行っております。令和4年の新規導入患者数は8名でした。おおよそ60名の血液透析患者さんに対して、安全かつ快適な医療を提供できるように泌尿器科医師ならびにスタッフ一同日々奮闘しております。また長期的な入院による血液透析が必要な場合には、近隣の透析施設に治療を依頼しております。

【令和4年度の取り組み】

安全な医療の提供を第一として、患者さんが当院にかかって良かったと思っていただけるような泌尿器科医療の提供を目指しております。

【今後の目標】

札幌医大泌尿器科との提携を密として、より安全かつ信頼できる医療の提供ならびに地域貢献ができるような医療の実践を心掛けております。

文責 副院長 堀田 浩貴

【スタッフ】

菊地 未紗子 医長

(精神科専門医・指導医、精神保健指定医、精神腫瘍登録医)

【当科の特徴】

令和2年4月に新設された当科は3年目を迎えました。入院・外来患者さんに対し、他職種からなる「緩和ケアチーム」を立ち上げ活動しております。医師、薬剤師、看護師、理学療法士、栄養士、社会福祉士の他、放射線技師も加わり、より多方面でのサポートを、より細やかで丁寧に、時間をかけて、一人一人の患者さん・ご家族への対応が可能となりました。

がんと診断された時から、その治療と並行して、身体だけでなく、心のつらさ、苦痛を和らげ、できるだけその人らしい快適な生活が送れるように外来・入院を通してサポートさせていただいております。患者さんが亡くなられた後の家族ケアとしても遺族外来を開設し、大切な存在を失った後の心の哀しみのケアをサポートしております。

また、緩和ケア部門に限らず、他科通院中・入院中の患者さんにおける心理・社会的な問題についても対応させていただいております。不眠や不安、意欲低下、興味関心の減衰等の抑うつ症状や、認知症に伴う不穏、興奮、拒否、不眠等、様々な精神症状について精神医学的に対応しております。

【診療内容・令和4年度の取り組み】

緩和ケア外来では、他院からの紹介と院内からの紹介が半数ずつを占めております。積極的な治療を終え、最後は住み慣れた小樽・後志で過ごしたいと来院される方が多くなっております。小樽市内に限らず、余市や岩内などの周辺地域の方々も数多く受診していただいております。各市町村の医療機関とも連携をはかっています。

また、ほぼ全例にACP (Advance Care Planning) を実施しています。残された時間を本人らしく、本人が望む医療やケアが提供できるよう事前に本人・家族・医療者で話し合い、本人の意向にそった対応ができるように体制を整えています。コロナ禍で在宅医療を希望される方も多く、訪問診療や訪問看護等、地域の皆様のお力もお借りしながら本人の望む最後が迎えられるよう取り組んでおります。

なるべく身体能力を保持したまま自宅で過ごしたい、最期まで自分のことは自分でしたい、等の要望をサポートすべく、緩和ケア外来通院中の患者さんを対象に外来リハビリテーションの積極的な導入を行っております。化学療法中の口腔トラブルでの食事摂取量の低下や、誤嚥性肺炎の予防の観点から、口腔ケアの指導や近隣の歯科医師とも連携し歯科治療の連携もはじまりました。

令和3年5月から取り組んでいる「緩和ケア医療の充実」をはかるための「緩和ケアの早期からの介入」については、入院されたがん患者において原則全員に緩和ケアの情報提供を行い、希望される患者・家族へ緩和ケアチームの介入を開始し、概ね9割以上の患者さんが入院をきっかけに緩和ケアの介入を希望され、より濃厚な緩和ケアを提供することが可能となりました。

全国的にも珍しい試みとして心不全の緩和ケアの導入を開始しています。心不全チームと連携し、週に1回カンファレンスを行い、心不全に伴う身体症状の緩和のみならず、退院支援や意思決定支援等、緩和ケアチームもサポートさせていただき、より濃密なケアや医療が提供できるよう邁進しております。

また、当院ではせん妄を起こす前に予防的に介入することを徹底し、入院時にスクリーニングを実施し、ハイリスク患者においては認知症ケアチームと連携し、時に精神科医の介入についても継続して介入しております (リエゾン介入件数200件以上/月)。ハイリスク患者へ入院時から徹底的に介入を行ったことで、せん妄予防率は87%と良好な結果となっており、認知機能への影響や入院期間の短縮等、様々なメリットが得られるようになっていきます。

その他、入院中のメンタルケアや認知症に伴う精神症状のコントロール、不眠や不安等、幅広くご依頼いただき対応させていただいております。

【今後の目標】

がん患者さんや心不全の終末期患者さんの緩和ケアを担い、患者・家族ケアについて満足いく医療が提供できるようチーム一丸で頑張っております。

後志管内の緩和医療を担うべく、より良い緩和ケアを提供できるよう他職種・地域医療の皆様とさらに協力し合い、質の高い医療を提供していきたいと思っております。

文責 医長 菊地 未紗子

医療技術部

■ 総 括

【医療技術部について】

※令和4年4月1日時点の状況を記載。

◆部門構成

- ・医療技術部長
- ・医療技術部次長
- ・薬剤室
- ・臨床検査室
- ・放射線室
- ・リハビリテーション室
- ・栄養管理室
- ・臨床工学室

◆医療技術部職員数 122名

◆職員構成

薬剤師	12名
臨床検査技師	8名
診療放射線技師	9名
理学療法士	42名
作業療法士	23名
言語聴覚士	7名
管理栄養士	5名
臨床工学技士	11名
助手	5名

【医療技術部理念】

私たちは、専門職種の壁を越えた協力体制を築き、患者さんが安心できる専門技術を提供します。

【令和4年度医療技術部目標】

- ☐ 確かな技術と知識の習得
- ☐ 安全・安心・納得して頂ける医療の提供
- ☐ 患者・家族・地域の満足度向上

【令和4年度の活動報告】

令和4年度は、医療技術部の各部署で職員が新型コロナウイルスに感染しました。ですから、令和4年度はウイルスに感染しないというよりは、with コロナと言われるコロナと共存しながら医療を提供した1年でありました。特にリハ室はスタッフ数が多いことや、子育て世代が多いことから、感染疑い者、濃厚接触者、感染者が院内でも多く発生した部署で、監督者は対応に非常に苦慮しておりました。

一方、コロナの感染確認を担当していた臨床検査室も、発熱外来患者の検査、陽性疑い患者の検査、入院時に実施される昼夜問わずの検査、職員の陽性確認検査など相当な負担になっておりました。しかし、検査室は献身的に検査を担当した実績が認められ、年末の忘年会時には院長から「院長賞」が贈られました。

また、臨床工学室でも初の試みとしてコロナ病棟での人工透析を行いました。

各部署がその時の感染状況や、各職種に求められるニーズを的確に把握し、部署内みんなで知恵を出し合い、協力し合ってこの大ピンチを乗り越えた1年であったと思います。

【今後の目標】

2019年に中国武漢で発生し世界中で猛威を振った新型コロナウイルス感染症も、令和5年5月8日より2類相当から5類へと移行することでコロナ以前の状況へ、徐々にではありますが戻ってくると思われます。

この間の色々な経験をコロナが贈ってくれたプレゼントだと前向きに捉え、医療技術部の最大の目標である『患者さんに安心・安全の医療を提供し続ける』を実践するために役立てていきたいと思っています。

5月8日以降も、新型コロナウイルスはなくなるわけではありません。まさにここからが、with コロナ本番だと思います。病院のルールを徹底し感染が疑われる場合はきちんと検査をして陰性が確認されてから業務につくなど、院内にコロナウイルスを持ち込まないことで、患者さんに安心・安全な医療を提供し続けていきたいと考えております。

文責 医療技術部次長 松尾 覚志

薬 剤 室

【スタッフ】

役 職	氏 名	認定・専門資格等
室 長	上野 誠子	日本アンチドーピング機構スポーツファーマシスト 介護支援専門員
課 長	鈴木 景就	日病薬病院薬学認定薬剤師 緩和薬物療法認定薬剤師（日本緩和医療薬学会） 麻薬教育認定薬剤師（日本緩和医療薬学会） NST専門療法士（日本静脈経腸栄養学会） 認定実務実習指導薬剤師 日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師 日本病院薬剤師会生涯研修認定薬剤師
係 長	木島 紀子	
主 任	小野 徹	日病薬病院薬学認定薬剤師 抗菌化学療法認定薬剤師（日本化学療法学会） 感染制御認定薬剤師 認定実務実習指導薬剤師 日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師
主 任	一野 勇太	腎臓病薬物療法認定薬剤師（日本腎臓病薬物療法学会） 抗菌化学療法認定薬剤師（日本化学療法学会） 認定実務実習指導薬剤師 日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師 日本病院薬剤師会生涯研修認定薬剤師
薬剤師	笠井 一憲	NST専門療法士（日本静脈経腸栄養学会） 健康食品管理士 腎臓病薬物療法単位履修修了薬剤師（日本腎臓病薬物療法学会） 認定実務実習指導薬剤師 日本病院薬剤師会認定指導薬剤師 日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師 日本病院薬剤師会生涯研修認定薬剤師 日本アンチドーピング機構スポーツファーマシスト 介護支援専門員 食の安全管理士（日本食品安全協会） JPALS認定薬剤師（日本薬剤師会）
	青木有希子	糖尿病薬物療法認定薬剤師（日本くすりと糖尿病学会） 日本糖尿病療養指導士 高血圧・循環器病予防療養指導士（日本高血圧学会・日本循環器病予防学会） 日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師
	村川麻里子	日本糖尿病療養指導士 認定実務実習指導薬剤師 日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師 日本病院薬剤師会生涯研修認定薬剤師
	中村 圭介	老年薬学認定薬剤師（日本老年薬学会） 日本病院薬剤師会認定指導薬剤師 日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師 日本アンチドーピング機構スポーツファーマシスト 骨粗鬆症マネージャー（日本骨粗鬆症学会）
	芦名 正生	外来がん治療認定薬剤師（日本臨床腫瘍薬学会） 日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師
	佐渡 望	高血圧・循環器病予防療養指導士（日本高血圧学会・日本循環器病予防学会） 日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師
	又村 健太	
	庄 瑞穂	
	松田 浩紀	
薬剤助手	西野 純子	
	茂野美奈子	

【部署の特徴】

『安全な薬物療法を支援する』を基本に主に入院患者さんに対する治療の支援を行っています。内服薬・注射薬調剤が薬剤師業務の中心ではありますが、各病棟に担当薬剤師を配置しチーム医療の一員として業務を行っています。薬剤師としての基本的な知識・技能

を持ち合わせた上で、各分野における各種認定・専門薬剤師の資格を取得しながら日々自己研鑽に努めています。薬剤師間の風通しも良好で、専門知識を持つスタッフとディスカッションを行い、適切な薬物療法の実践をめざし日々業務を行っています。

【実績】

調剤業務件数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
処方せん枚数 (枚)	院外処方せん	6,266	5,778	5,815	5,561	6,210	5,742	5,647	5,804	5,840	5,568	5,218	6,047
	院内処方せん	43	36	38	39	41	42	36	40	30	40	76	125
院外処方せん発行率(%)		99.3	99.4	99.4	99.3	99.3	99.3	99.4	99.3	99.5	99.3	98.6	98.0
入院処方せん(枚)		4,798	3,334	3,807	4,740	4,545	4,379	3,854	4,327	4,422	4,093	3,921	4,211
入院注射処方せん(枚)		3,728	3,075	3,612	4,404	3,886	3,880	4,074	3,755	4,262	4,095	3,687	3,673

診療報酬関連

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
薬剤管理 指導料	ハイリスク薬	178	45	163	248	262	212	156	178	131	136	166	222
	その他の薬	142	70	156	216	189	142	149	147	152	146	117	164
	合計	320	115	319	464	451	354	305	325	283	282	283	386
	退院時薬剤情報管理提供料	34	8	16	8	2	1	3	2	0	4	1	1
	麻薬管理加算件数	2	0	13	11	15	2	7	2	7	5	9	7
無菌製剤 処理料	無菌製剤製剤処理料1	47	33	38	38	37	22	34	41	32	31	33	46
	無菌製剤製剤処理料2	194	160	109	133	85	72	182	166	233	210	142	157
抗悪性腫瘍薬処方管理加算		51	38	55	49	42	44	42	48	49	46	43	53
病棟薬剤業務実施加算		591	395	523	656	636	557	581	579	589	608	552	645
特定薬剤使用管理料(TDM)		0	1	6	8	9	3	5	7	6	2	5	7
薬剤総合評価調整加算		0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
がん患者指導管理料ハ		14	2	10	2	2	6	10	2	4	4	7	6

その他

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
外来面談件数(入院前)	43	43	46	59	58	55	75	49	40	46	35	55

【令和4年度の取り組み】

令和4年度は新卒薬剤師が1名加わり薬剤師数13名、調剤助手2名のスタッフでスタートしました。薬剤師1名の育休期間が1月に終了したため年度末には薬剤師14名体制となっています。薬剤師1名欠員の状態ではありますが、業務が分散されたことで質の向上が図れたと思います。業務内容としては例年同様、調剤・注射調剤・院内製剤・無菌製剤・薬品管理・麻薬管理・医薬品情報管理(DI)・薬剤管理指導業務(病棟業務)・チーム医療への参画(感染対策チーム、栄養サポートチーム、がん化学療法、緩和ケアチーム、糖尿病チーム、褥瘡対策チーム、認知症ケアチーム)を行いました。

後発医薬品の使用推進を目指し、後発品使用割合は90%以上を目標に設定しています。下回る月もありますが、随時使用状況を調査し、薬事委員会を通して

後発医薬品への変更を行う事で90%以上を達成できています。

薬剤管理指導件数は300件/月を目標に設定しました。コロナ禍で職員の勤務制限等の影響もあり、目標に達することができない月がありますが概ね目標は達成できています。また、病棟薬剤業務実施加算は算定要件でもある週20時間以上の病棟業務を行う事ができており継続して算定しています。

薬学実務実習については院内の立ち入りが制限されている場合はZoomを活用した遠隔実習に変更し、すべての期間で滞りなく終了することができています。

地域における役割としても小樽薬剤師会、後志病院薬剤師会との連携を深め情報の共有を図っています。臨床研究に関しては2件の発表を行いました。学会・研修会についてはオンラインで参加しやすい環境でもあるため、積極的に参加できています。

電子カルテと連動した服薬指導システムが導入されたことで、病棟薬剤師業務の効率化が図れ、算定件数の増加、また、持参薬のシステム導入により医師の負担軽減、医療安全に寄与できるものと考えています。

【今後の目標】

令和5年度は新人薬剤師の研修期間が終了したこともあり、人員配置の見直しを図り、より効率的な業務体制を構築します。それにより薬剤管理指導算定件数増加、医療安全のさらなる向上が得られると考えています。コロナによる制限の緩和を考えると、これまで以上に病棟・外来との連携が円滑になります。他部署の協力を得ながら病棟・外来業務を継続していきます。また、医薬品情報管理室を中心に後発医薬品への切り替えも薬事委員会の提案を継続していきたいと思っています。今後もチーム医療の一員として質の高い業務を行うため、専門薬剤師の養成・更新等などの人材育成を今後もすすめていきます。

文責 技術課長 鈴木 景就

臨床検査室

【スタッフ】

木谷 洋介	技術係長	
岡本 晃光	技術主任	糖尿病療法指導士
高橋 賢規		
小林 拓真		
向田 真綺		
伊藤 朱莉		
嶋 優人		
高橋 咲衣		
中畑亜紀子		
伊藤 千春	(助手)	

【部署の特徴】

今年度は昨年度から引き続き、新型コロナウイルスの勢いが止まらず、7月にAbbott社 ID NOW 1台と9月にベックマン・コールター社 Gene Xpert1台を増設したことにより、発熱外来や院内クラスター発生時等の一斉検査が増加し昨年度の約1.6倍（今年度検査件数7875件）の検査を実施しました。また、ホルター心電図解析を院内で実施することで、ほぼ即日報告が可能となりました。

【実績】

（検体検査）

生化学	免疫	血液	検尿	血糖・HbA1c	止血機能	血型	交差試験	輸血人数	CGM
40,602	12,004	35,885	25,373	33,333	5,724	1,735	952	923	15
▲698	▲199	▲502	△141	▲1974	△35	▲183	▲515	△388	△2
98.3%	98.3%	109.1%	100.5%	94.4%	100.6%	90.4%	64.8%	172.5%	115.4%

（生理検査）

心電図	ホルター心電図	肺機能検査	眼底検査	聴力検査	トレッドミルマスター	ABI
7,449	98	1,342	278	3,787	14	209
▲125	▲11	△140	△80	△296	△7	▲91.2
98.3%	89.9%	111.6%	140.4%	108.4%	200.0%	91.2%

頸動脈エコー	NCV（技師）	脳波	睡眠検査	心エコー（技師）	下肢静脈エコー
77	0	142	13	795	161
△10	0	▲45	▲8	△139	△7
114.9%	0%	75.9%	61.9%	121.1%	104.5%

【令和4年度の取り組み】

*今年度は健診件数と全般的に超音波検査が増加しました。また、今年度は、新たに新型コロナウイルス遺伝子検査分析機を1台増設し、2台体制にしたことにより検体を大量に処理することができ、報告時間が昨年より若干はやくなりました。

【今後の目標】

昨年同様診療部・看護部など病院全体から検査に関して必要とされる様々な事柄に丁寧に対応していきます。医療技術部の横のつながりをより密にして患者さん、病院運営に更に貢献できるように活動していきます。臨床検査室では近年、急速に若返り化してきます。若手技師が学びやすい環境と働きやすい職場にしていきます。

文責 技術係長 木谷 洋介

小樽に来た！！

医療技術部 臨床検査室 高橋 咲衣

大好きな海と水族館がある小樽に来てから1年と少しが経ちました。1年経った今でも、家に帰っても誰もいなくて部屋が真っ暗で寂しいことには慣れることができません。

ひとり暮らしを始める前は、毎日料理して好きなことをたくさんして～とキラキラした日々を想像していましたが、そんなうまくいくわけがなく、何よりも睡眠！ダラダラしたい！というのが現実で悲しいです。

私自身、臨床検査技師という職業を高校卒業後の進路を考える時まで知りませんでした。何か資格を取りたいと思っていて、医療系の職業を調べ始めました。採血や点滴が小さい頃から苦手だったので看護師さんはできなさそうだなと思っていたら、臨床検査技師と

いう職業を調べたのがきっかけです。臨床検査技師ってマイナーだけど、いないと病院は回らないし緑の下の方力持ちって感じでカッコいい！と思って進路を決めました。入学後、臨床検査技師も採血をやると知って絶望したのを覚えていますし、今でも自分が採血をするとなると心臓バクバクです。

臨床検査技師になって1年が経ち、入職時からやってみたかった心エコーを教わり始めました。できるようになるまでたくさん時間がかかるけど、少しでも先輩の助けになれるようにたくさん勉強して練習して、早く一人前になれるように頑張りたいです。1人での当番が始まったりエコー練習が始まったり、1年目以上にバタバタでしんどい毎日ですが、患者様からのありがたいに元気をもらいながら、身体に気を付けて頑張っていきたいと思います。

社会人2年目も友達とたくさん遊んで、ラーメンおなかいっぱい食べて、水族館のお魚にたくさん会いに行きたいです！



放射線室

【概要】

令和4年度、放射線室は診療放射線技師10名、受付1名の計11名の体制で日々の業務に努めました。昨年同様、地域包括ケア病棟にて新型コロナウイルス感染患者の受け入れを続け、通常業務と並行して新型コロナウイルス感染患者に対する撮影業務を行うといった一年でした。

通常業務としては一般撮影、移動型X線撮影（ポータブル撮影）、骨密度測定、X線透視（主に検診の胃バリウム検査）、手術中X線透視、CT、MRIこれらの業務をローテーションで行い、一部の技師で腹部・甲状腺超音波検査、また、乳房X線撮影は女性技師のみの撮影業務として行っています。

夜間および日曜祝日も持ち回りで待機し、呼び出し対応にて緊急撮影業務にあたっています。

一方、新型コロナ感染患者に対する業務としては、入院時のスクリーニングとしてのCT撮影、また経過観察にポータブル撮影がメインとなり、多くはありませんでしたが、新型コロナウイルス感染患者に対する手術中の透視業務や、透視室での検査の対応などを行いました。

【スタッフ】

放射線室長 松尾 寛志
技術係長 釜石 明、佐藤 政弘
技術主任 舟見 基
技 師 久保田裕美、本村 暁子、高橋 志織、
但木 勇太、内藤 格、小林 洸貴
助 手 森 尚美

【設備機器】

・一般撮影装置 (FPD3台)
・移動型X線撮影装置 (3台)
・乳房X線撮影装置 (1台)
・外科用X線透視装置 (2台)
・骨密度測定装置 (DEXA) (1台)
・X線透視装置 (2台)
・CT (80列MDCT) (1台)
・MRI (1.5T) (1台)
・超音波検査装置 (1台)
・放射線情報システム (RIS) (1式)

【令和4年度 検査実績】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
一般撮影	2,001	1,748	1,999	1,933	2,032	1,992	1,905	2,209	1,928	1,779	1,763	2,122	23,411
ポータブル撮影	151	168	151	180	185	186	172	176	206	206	203	187	2171
透視・造影検査	67	103	118	134	95	110	104	124	96	81	106	85	1223
嚥下造影	0	2	6	8	7	5	3	6	6	5	3	8	59
乳房撮影	14	11	20	22	17	22	49	17	22	30	24	25	273
骨塩定量検査	111	143	165	103	119	124	121	141	140	119	156	155	1,597
MRI検査	270	293	334	299	297	289	274	262	283	262	247	315	3,425
CT	489	427	507	509	524	545	528	480	497	519	466	534	6,025
オベ室X線透視	90	58	103	107	102	101	105	89	121	100	108	125	1,209
超音波検査	62	63	96	98	112	91	94	90	65	63	69	75	978

【令和4年度の取り組み】

- ・今年度も昨年同様、新型コロナウイルスに対する注意を払いながらの業務となりました。放射線室内でも数人の感染者は発生しましたが、単発で終わり、クラスターにはならなかったのはスタッフの感染防止に対する一人一人の行動や、感染対策室の活動・指導によるものであると思っています。
- ・新型コロナウイルス感染患者に対して安全に接することが出来るように、一般撮影室、X線TV室、手術室用ポータブルX線撮影装置の更新を行いました。更新に伴い検査の効率化が図られ、安全かつ高

速に検査が実施可能になりました。一般撮影室では長尺撮影用のFPD装置も導入され、撮影や画像確認にかかる時間が大幅に改善され、患者さんをお待たせする時間も少なくなったと思います。また、手術室用ポータブルX線撮影装置は手術室内で撮影した画像がその場で確認出来るようになり、感染リスクを抑えながらも時間短縮となり、医師からも好評を得ています。

・骨密度測定装置も10年ぶりに装置の更新となりました。私が技師になりたての20年前は年間500件ほどの検査数でしたが、今年度は1500件を超える

検査数となり、骨密度検査に対する需要は増え続けております。従来の装置では測定時間が長く、検査数がある程度制限せざるを得ない状況でしたが、今回の更新で測定時間が大幅に改善され、検査数を制限する必要も無くなり、患者さんからも測定時間が短くなったことに非常に好評をいただいております。

【今後の目標】

令和5年度には新型コロナウイルス感染症の5類への引き下げも決定しており、長きに渡った制限のある生活環境から日常の生活に戻っていく過程への年になると思われます。ただ、5類に引き下げになっても新型コロナウイルス感染症は無くなるわけではありません。インフルエンザと同様に感染する事はあっても放

射線室内での感染の持ち込みは極力防げるように感染対策を注意しながら業務を遂行していきたいと思います。

新型コロナウイルス感染症が流行してから講演会はオンラインが主流となっております。感染の流行が収まった後、どのように変化していくかは予想できませんが、おそらくオンラインでの講演会が無くなるという可能性は少ないと考えています。自宅からも最新の知識、技術の習得できるメリットあるオンラインによる講演会・セミナー等の参加を昨年同様に行っている、患者さんへ還元できるよう努めていきたいと思っております。

文責 技術主任 舟見 基

3年分=41cm

医療技術部 放射線室 久保田 裕美

2022年の春にヘアドネーションするために腰まで伸ばした髪を切りました。切った長さは41cm。2019年の春から伸ばし続けた3年分の髪の長さです。耳にする機会も増えた気がしますが、ヘアドネーションという言葉をご存じですか？

ヘアドネーションとは、病気や事故などで頭髪を失くした子供のためのウィッグを作るために髪を寄付することです。

ウィッグを作るために利用するのである程度の長さが必要になります。最低31cm～とのことですが、31cmではショートヘアのウィッグにしかならないそうで、人気のあるロングヘアのウィッグにするには50cm以上の長さが必要になります。

私はもともと髪が伸びるのは早い方でしたが、今まで特にそれでお得なこともなく過ごしていました。そんな時に何かの会話の流れで『ヘアドネーション』というものを知りました。

そんなものがあるんだー、大変そうだねーと流しそうになりましたが、ん？と閃きました。

これなら髪が伸びるのが早いという特技が活かせる！

やってみようと思い立った2019年春、ボブの長さからスタートしました。

いつもなら胸辺りまで伸びると飽きて切ったりしていましたが、今回はとにかく長くという目標があるのでまだまだ伸ばします。

その頃には周りにも「伸びたねー」「もっと伸ばすの？」などと反響があり、ちょっとやる気が出てきます。

背中辺りまで伸びてくると、日常生活でも長さを実感する機会が出てきます。

椅子に寄り掛かった時に背もたれとの間に挟まってしまい何かの拍子に引っ張られたり、寝る時に髪を背中に敷いてしまい寝がえりが打ちづらかったり、シャンプーの消費量も多かったし、夏はお風呂後にドライヤーで髪を乾かすだけでまた汗をかいたり…ロングヘアあるあるを実感しました。

なんとか夏を乗り切ったのですが、これ以上の長さでの夏はもう無理だとギブアップです。次の夏が来る前に切る決心をしました。

ちょうど伸ばし始めて丸3年になる2022年の春に断髪式を行うことにしました。

ヘアドネーションをしている美容院でヘアドネーション用のカットをしてもらい、送付してもらいました。数か月後にはサンクスカードも届き、私のヘアドネーションは無事完了です。

伸ばしている時は面倒な事もありましたが、無駄な特技が誰かのために活かしているのはうれしくもあり、また、人生初のロングヘアを体験できたのが楽しかったです。



リハビリテーション室

【概要】

リハビリテーション室

算定疾患別リハビリテーション料

- ・脳血管疾患等リハビリテーション料Ⅰ
- ・運動器リハビリテーション料Ⅰ
- ・心大血管疾患リハビリテーション料Ⅰ
- ・呼吸器リハビリテーション料Ⅰ
- ・がん患者リハビリテーション料

【スタッフ】

リハビリテーション室

室長：平塚 渉

理学療法課 課長：髭内 紀幸

係長：松山 朋也

主任：松村 真満、室矢 康治

作業療法課 係長：山中 佑香

主任：高橋 靖明、三野宮裕樹

言語聴覚課 主任：加賀 潤輝

理学療法士：42名 作業療法士：23名

言語聴覚士：7名 助手：1名

【業務内容】

地域の中核的医療機関として地域に密着し、理学療

法士、作業療法士、言語聴覚士が各々の専門性を生かして協働し、患者さんを中心としたリハビリテーションを提供することで、患者さんの生活・社会復帰を支援しております。

対象としては運動器疾患、脳血管疾患、神経難病、内部障害（呼吸器疾患、循環器疾患、がん、糖尿病など）等、多種多様な患者様へ病期に問わず介入しています。

【リハビリテーション室の特徴】

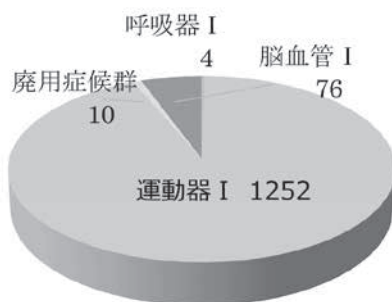
急性期病棟では受傷（術後）早期から介入し、多職種と協働しながら早期離床を促します。また、域包括ケア病棟、回復期リハビリテーション病棟とも連携を図りながら、早期回復を目指したリハビリテーションを提供しています。

回復期リハビリテーション病棟、地域包括ケア病棟ではチーム一丸となって患者様へのリハビリテーションを提供し、患者様個人の生活背景や生活環境を意識しながら、再びその人らしい生活が送れるよう支援しています。

また、各種専門外来（肩、手・肘、膝・腰・スポーツ、骨粗鬆症、内分泌）、各チーム（NST栄養剤・摂食・呼吸、緩和ケア、認知症ケア、内分泌・糖尿病）へ積極的に協力し、より高い専門技術の提供に努めています。

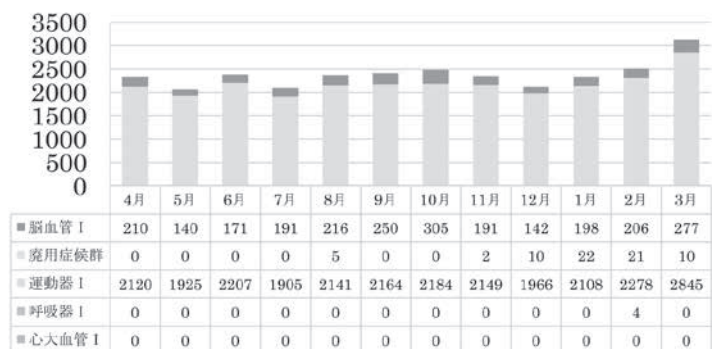
【実績】

処方

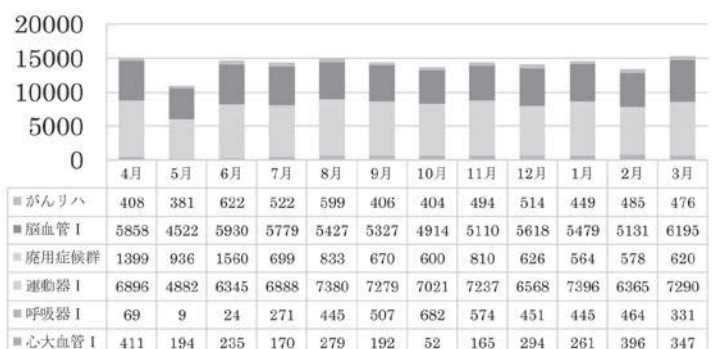
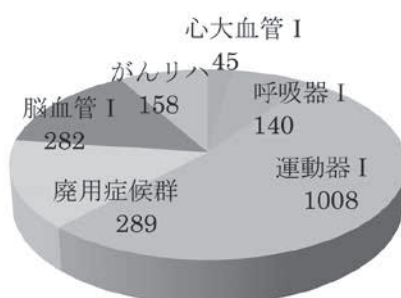


外来

単位数



入院



【令和4年度の取り組み】

感染対策の継続：昨年度に引き続き、リハビリテーション室では①リハビリスタッフの体調管理徹底、②標準予防策遵守、③環境消毒や室内換気の習慣化、④時間差出勤によるリハビリスタッフ及び患者さんの分散化、⑤密室・密集・密着を避けた環境整備の徹底、⑥外来エリアと入院エリアのゾーニング継続、⑦防護対策強化など感染対策の徹底に努めてきました。しかしながら、5月・7月・9月～3月と長期に渡り、病棟クラスターの発生や濃厚接触者による患者さんへの介入制限、スタッフの感染・濃厚接触者による人員不足等がみられ、患者さんへの十分なリハビリテーション提供が行えない状況が続きました。リハビリテーションでは20分以上の直接的介入が必須であることや、必要に応じて複数の病棟を跨ぎながら様々な患者さんに接する機会も多いため、「感染しない・感染させない」を最重要課題として取り組んできました。

心大血管リハビリテーション：昨年度より開始しています慢性心疾患の患者さんに対するリハビリテーションにつきましては、今年度も安定したニーズに対して介入することができました。一方で、心大血管リハビリ対象者以外にも、心疾患を既往に持つ患者さんも多く、リスク管理の重要性を再認識する機会となりました。

COVID19病棟へのリハビリ介入：今年度も急性期リハビリスタッフによる新型コロナウイルス感染患者さんへの直接的介入を継続してきました。1月からは、呼吸器状態の悪化した患者さんに限定せず、3職種が入棟患者さん全員に早期から関われるよう、医師をはじめとする他職種との連携強化を図ってきました。コロナ病棟では稼働人員も限られていたもので、患者さんへの直接的介入のみならず、病棟スタッフ業務の補助的支援にも関わるなど、スムーズな病棟運営にも努めてきました。

リハビリテーション科医師の充実：昨年度までは、札幌医科大学附属病院リハビリテーション科より2名の非常勤医師が月1回～週1回の頻度で来院され、外来リハ及び回復期リハ病棟を中心にリハビリテーション運営に携わっていただいていたのですが、今年度6月からは、新たに同病院リハビリテーション科より非常勤医師1名が週1回の頻度で来院していただけることとなりました。リハビリ科医師の協力により、急性期リハビリにおいても、VF評価や在宅復帰に向けた援助方針の見直し、訓練目標の再設定等が定期的に行えるようになっており、リハビリテーションの質向上に繋がってきていると実感しています。

地域との連携強化：今年度も感染拡大予防の為、リ

ハビリテーション室主催の市民公開講座、小樽市医師会主催の健康教室、院内主催の健康セミナー、介護従事者向けの出前健康教室、中高校生を対象としたメディカル体験ツアーなど多くの活動が中止となりました。しかし、一方で、「ウイングベイ小樽」内にあります「済生会ビレッジ」では、感染状況を踏まえながら、「健康相談会」・「済生会健康フェスタ；ウイングベイウォーキング」・「野球肘検診」など一般市民向けの活動を一部再開することができました。また、小樽市内の委託事業としましては、南部包括支援センター主催の個別ケア会議（書面開催）への参加や二次骨折予防事業（ハイリスクアプローチ）への協力など通じ、ケアプランの質向上や骨粗しょう症対象者の医療機関受診率向上（前年度の3倍）に貢献することができました。更に、老人保健健康増進等事業（厚生労働省）につきましても、昨年同様、関わらせていただきました。今年度は、喜茂別町と当院での遠隔システム（以下ICT）を活用し、地域ケア個別会議を開催しました。会議の中では、利用者様のご自宅において、サービス担当者会議をICT中継にて開催し、ご本人のニーズや目標を共有した上で、①身体機能・動作能力の評価、②自主体操の指導、③ご本人と体操や活動実施状況の共有、④定期的な評価・助言等、⑤介入効果や運動習慣化の可能性等について検討しました。

グループ施設との連携強化：昨年同様、関連施設の老人保健施設はまなすへ当院スタッフが定期的に出向し、入所リハビリテーションや訪問リハビリテーションを提供することで、横断的な在宅復帰支援を継続することができました。

糖尿病運動指導：昨年度に引き続き、感染拡大の影響で、一般市民の皆様を対象とした健康増進教室や日本糖尿病協会協賛の小樽ウォークラリーなどの企画が中止となってしまいました。

学術活動：今年度は、対面及びオンラインによるハイブリッド形式での学会・研修会の開催が主体となりました。また、今年度は「ウイングベイ小樽」の協力を得ながら、対面式にて「第5回済生会リハビリテーション研究会」を企画・開催することができました（詳細については下記参照）。

・吉備国際大学通信制大学院 保健科学研究科 作業療法学専攻 履修終了

研究テーマ「身体障害領域における高齢者の作業と結びつきの評価尺度の開発」 齋藤駿太

・日本手外科学会雑誌 38巻5号610-613

原著論文「母指CM関節症に対する関節形成術の満足度に関連する要因の検討」 小島希望

原著論文「橈骨遠位端骨折術後の患側手の満足度に

影響を与える因子の検討」五嶋渉

・作業療法の実践と科学 第4巻3号55-60

原著論文「労災補償制度による筋電電動義手を適用した片側前腕切断症例」山中佑香

・作業療法 41巻2号171-178

原著論文「上肢外固定が自動車運転能力へ与える影響に関する文献レビュー」白戸力弥

・骨折 第45巻No.2424-427

原著論文「大腿骨近位部骨折術後に自立歩行再獲得の可否を予測するために適した評価項目と時期の検討」菅原良介

・第52回北海道作業療法学術大会（帯広）

「最新の手多指駆動型筋電電動義手を使用した前腕切断の一例」山中佑香

「手内在筋拘縮が生じた多数指の基節骨骨折術後症例に対するハンドセラピー」五嶋渉

・第73回北海道理学療法士学術大会（旭川）

「COVID-19患者への直接介入の経験」米田健太郎

・第5回済生会リハビリテーション研究会in小樽

「大腿骨近位部骨折術後に再獲得可能な移動能力を予測するのに適した評価時期の検討」菅原良介

「コロナ禍のリハビリテーション業務における現状と課題についてのアンケート結果報告」髭内紀幸

「重症化した新型コロナウイルス感染症患者への理学療法介入報告」浅香翔梧

「新型コロナウイルス感染症クラスター下の間接的介入が効果的であった1症例」舩岡紗也香

「コロナ禍における院内オンラインリハビリの取り組み」山中佑香

「ZOOMを用いた課内勉強会の取り組み」武田康弘

【今後の目標】

リハビリテーション室では「感染しない・感染させない」を念頭に踏まえながら、引き続き感染対策に取り組んでいきます。併せまして、医療安全面での対策強化も進めながら安心・安全なリハビリテーション提供に努めていきます。また、学習と成長の視点では、専門職者一人一人の強みを最大限に活かしつつ、また一方で、お互いの弱みを補い合えるような素晴らしい組織を目指していきます。その為には、日々の新しい知識を学びながら、その得られた知識がそのまま臨床場面に反映できるような教育体制を整えていくことが重要と考えています。今年度は定期的な勉強会開催を通じて、積極的な知識補完に取り組んでいきたいと思えます。また、ワーク・ライフバランスを念頭におき、引き続き業務の効率化を図りながら時間外業務量の削減を図ると共に、計画的な有給休暇取得を目指します。顧客の視点では、質の高いリハビリテーションの提供は勿論のことですが、患者さんを迎え入れる準備（清潔保持・整理整頓）、患者さんに接する際の姿

勢・態度・言葉遣いなどについて、常に「初心」を忘れず丁寧に対応することを心がけながら「後志から選ばれるリハビリテーション室」を目指していきます。地域健康増進に関しましては、感染状況に合わせながら、済生会ビレッジにて多職種協働で企画しています「健康相談会」や「介護予防啓蒙活動」等へ積極的に参加することで、地域住民の皆様に対して貢献できればと考えています。

【理学療法 PR】

令和4年度も引き続きコロナ禍ではありましたが、十分な感染対策をしながら今まで通り可能な限り住み慣れた環境へ戻れるよう、早期から積極的に関わりシームレスに機能回復を目指すよう取り組みました。

院内での取り組みとしては、COVID-19病棟患者さんへの呼吸理学療法の間接的・直接的介入の継続、感染対策を行いながら断ることなく外来患者さんの介入継続、入院患者さんへの早期介入・介入継続等を行いました。また、令和4年度の診療報酬改定に合わせて骨折リエゾンサービス（FLS）へも積極的に参画しました。

院外での取り組みとしては、昨年度に引き続き、オンラインシステム等を活用した遠隔診療への関わり、ウイングベイウォーキング・健康教室・地域へ発信するフレイル予防体操動画の撮影への関わり、骨粗鬆症に関連する二次骨折予防事業へ協力、老健はまなすでの訪問リハビリテーションへの出向など今後も、積極的に地域へ貢献できる様に研鑽しながら励んでいきます。

【作業療法 PR】

令和4年度もCOVID-19の影響を受け、作業療法部門の強みである地域での作業訓練（外出しての買い物訓練、公共交通機関の利用に向けた外出訓練など）の積極的な参画が制限せざるを得ない状況にありました。その中でも類似した環境下で患者さんが退院後も住み慣れた小樽・後志で安心して暮らせるよう工夫しながら関わりを継続しました。質の高い作業療法が提供できるようオンラインでの院内・院外勉強会や学会にも積極的に参加しています。

令和5年5月以降は、COVID-19も5類感染症となる見込みであり、令和5年度の学会も一部対面での参画が可能となる予定となっています。それを見越し、令和4年度からの学会発表に向けても今まで以上に力を入れ、新たな臨床研究のテーマを検討し、積極的に準備している最中です。今年度は日本作業療法士協会の「作業療法士臨床実習指導者施設」として認定を受けました。学生指導を通して自己研鑽し、患者治療に還元できるよう日々、組織力を上げながら質的向上を目指しています。

今後も更なる発展と患者さんの笑顔とともにスタッフ一同も笑顔で充実した時間を過ごせるよう頑張っていきます。

【言語聴覚療法 PR】

言語聴覚療法では、COVID-19の影響もある中、早期にリハビリ介入を行い、機能回復を目指して行いました。リハビリの特色上マスクを外しての介入もあるため、十分な感染対策を行い、「感染しない」「感染させない」を目標に日々の業務に取り組んでおりました。高齢化が進む後志地区においての社会復帰等が出来るよう、患者さん一人ひとりに合わせたリハビリの提供を行っていきます。

文責 技術室長 平塚 渉

社会人1年目を終えて

リハビリテーション室 作業療法課 北田 秀弥

作業療法士になって1年が経ちました。

小学校、中学校、高校、大学と様々なカテゴリーで1年目を経験してきましたが、社会人の1年目はどの年代よりも不安が多く、後ろ向きな考えをしてしまい、充実した生活を送ることができませんでした。

そんな時に私を支えたのが大好きなサッカーでした。小学校の頃から続けているサッカーですが、学生時代は新型コロナウイルスの影響によりサークル活動が思うようにできず疎遠になっていました。ある日、先輩スタッフに誘って頂いたことがきっかけで、サッカーをする機会が増えました。久しぶりにボールを蹴る感触はとても楽しく、充実した時間を送ることができました。現在も定期的にサッカーをして楽しく日常生活を過ごすことができています。

この経験は患者様でも同じことが言えると思います。心身機能や環境が要因で現在の生活を楽しむことが出来ない方も多いと感じています。

作業療法士は患者様のセルフケアや家事、仕事、余暇などの作業活動に焦点を当てリハビリテーションを行う職業です。私にとっての大切な作業活動は仕事や

サッカーですが、患者様にとっての大切な作業活動は十人十色、千差万別です。私がサッカーを通して私らしい日常生活を取り戻したように、患者様が作業活動を通してその人らしい生活を送れるようにその人のことを知り、学ぶことでより良い支援をしていきたいと思っています。

そのためには今以上に努力が必要なためさらなる成長をしていけるようこの先も精進していきます。



サッカー仲間の先輩と(写真中央：筆者)

野球熱！

リハビリテーション室 理学療法課 谷川原 英志

早いもので入職してから1年が経ちました。思い返せばコロナ禍という事もあり、制限が多い中でしたがあつという間に時間が過ぎていきました。そんな1年の中で、院内の部活動が盛んなことに驚きました。部活動を通して、同じ部署の先輩方や他職種の方と交流できる良い機会になるなと感じました。

話は変わりますが、私は小学生から現在まで野球を続けています。もちろん当院の野球部にも所属しております。他にも2つのチームに所属しており、週末は野球三昧です。早朝の試合が多く、早起きが苦手な私には少々ツライ面もありますが、野球が出来るので頑張って起きています。多い時には、1日の中で早朝と昼の計2試合する日もあります。お気付きかと思いますが、私は「野球小僧」です。そんな野球小僧ですが、まだまだ野球が下手くそです。部内には野球が上手い方々が多いので見習ったり、アドバイスを頂いたり野球の技術も向上出来るように精進していきます。

す。もちろん、業務も頑張ります。

最後に、今後も野球を通じて人との交流を活かし業務、部活動ともに更に精進していければと思っています。怪我の無いよう、楽しく文武両道できればと思います。



噂の野球小僧

栄養管理室

【概 要】

(1) 臨床栄養管理業務

チーム医療の一員として多職種と連携した栄養管理を行っています。適切な栄養アセスメントや栄養指導を実施することで、患者さんの食生活を変容させ、栄養状態や食事の内容、摂り方などを改善し、健康の維持・増進、疾病の予防や疾病の治療に寄与することを目的としています。

(2) 給食経営管理業務

病院給食は、通常の食事とは異なり医療行為の一環として実施されるものです。疾病治療あるいは治療上の医療効果を高めるために必要な栄養源の補給を行い、衛生管理に十分配慮し、安全で安心な給食を継続的、かつ安定的に提供し、患者さんの食への楽しみに対する満足度を得ることを目的としています。

(3) 沿革

- 給食管理業務は、平成16年より給食委託会社へ業務委託しています。令和4年10月1日～令和7年9月30日の期間においては、株式会社LEOCと締結しています。
- 平成25年度以降、温冷配膳車・選択メニューの導入、お楽しみ食の拡充など患者サービスの向上に努めています。
- 令和2年9月に小樽病院と重症心身障害児(者)施設みどりの里が統合し、急性期から回復期までの医療と福祉の栄養管理を管理栄養士6名体制で行っています。

【栄養管理室 理念】

- 患者さん一人ひとりの状態に合わせた栄養管理に努めます。
- 安全で安心して食べられる、家庭料理に近い食事の提供に努めます。
- 退院後も継続できる食事療法の支援に努めます。
- 患者さんに栄養と笑顔をお届けします。

【スタッフ】

(1) 職員構成

- 臨床栄養管理業務 技 術 課 長：多田 梨保
技 術 主 任：權城 泉
管理栄養士：一島 妃東美
管理栄養士：小貫 留美子
管理栄養士：栗田 靖子
管理栄養士：西澤 一步
管理栄養士：奥嶋 寿美子
(産休代理)

・給食経営管理業務

4月～ 9月 日清医療食品株式会社
10月～ 株式会社LEOC

(2) 認定、専門資格の現状

(同一管理栄養士の重複資格取得あり)

- ・病態栄養専門（認定）管理栄養士 3名
- ・がん病態栄養専門管理栄養士 1名
- ・NST専門療法士 4名
- ・日本糖尿病療養指導士 2名
- ・日本栄養代謝専門療法士 1名
- ・静脈経腸栄養(TNT-D)管理栄養士 1名
- ・栄養経営士 1名
- ・人間ドック健診情報管理指導士 2名

【当部署の特徴】

臨床栄養管理業務では入院早期に栄養計画を立案し、患者個別に必要な栄養量を算出、病態を把握し、適切な食事が提供されるように医師・看護師など多職種に働きかけています。提供された食事が、きちんと患者さんに摂取されるよう、食欲不振がある場合など個別に嗜好調査を行い食べていただける様に食支援を行っています。給食経営管理業務には、臨床栄養管理・給食経営管理のどちらの知識も持ち合わせていなければ、患者さんの栄養管理は行えません。そのため、給食提供における運営方法、臨床栄養学に基づいた献立作成についてまとめた給食管理業務マニュアルを作成しています。

チーム医療にも積極的に参画し、NSTをはじめ、緩和ケア、糖尿病ケア、認知症ケアにおいて、臨床栄養管理を行っています。外来患者さんにおいても、栄養教育として継続的に様々な栄養指導を行い、疾病の改善・予防に努めています。

【実 績】

(1) 栄養指導実施件数

入院 個人指導		152件
外来 個人指導		278件
糖尿病透析予防指導		0 件
特定保健指導	動機付け支援	73名
	積極的支援	60名
合 計		563件

(2) 栄養情報提供書の作成：148件

栄養補助食品の付加	71件
嚥下食	25件
経腸栄養	10件
静脈栄養	32件
その他	10件
合計(重複項目あり)	148件

(3) 給食延数

食 種	小樽病院	みどりの里
一般食	102,912食	64,028
特別食	53,132食	5,316
濃厚流動食	4,442食	55,833
入院患者合計	160,486食	125,177

(4) お楽しみ食提供回数

行事食		17回
日本全国味めぐり給食		6回
世界味めぐり給食		1回
あんかけ薬膳焼きそば		7回
小樽ゆかりの 減塩食シリーズ	石原裕次郎御膳	3回
	伊藤整御膳	3回
	小林多喜二御膳	2回
みどりの里お楽しみ食		1回
給食委託会社提案食		2回
総合計		42回

(5) 嗜好調査

給食委託会社変更時期と重なり、業務の安定化を優先し実施していません。

(6) 学生教育

・実習受け入れ

養成職種	学校名	学年	期間	人数	実習目的
管理栄養士	北海道文教大学	3年	2月6日～2月17日	2名	臨地実習Ⅱ(臨床栄養学)
	北海道文教大学	3年	3月6日～3月17日	2名	臨地実習Ⅱ(臨床栄養学)

(7) 栄養情報誌「栄養だより」の発行

発行月	テーマ
9月	知っていますか？地中海食について
3月	忍び寄る“サイレント・キラー”高血圧の改善

(8) 北海道済生会支部事業

事業	
食料支援事業	81件
済生会ビレッジでの健康相談	4回
小樽市医療・福祉の一体化事業	骨粗鬆症予防の講話 1回

【令和4年度の取り組み】

- ・令和3年度に協会けんぽ北海道支部の「被保険者に対する特定保健指導の業務委託」を受託し、今年度より本格始動しました。健康経営に取り組む事業所が増えており、健康への意識が高い健診当日に腹囲・BMI・血圧から保健指導の対象となり得る方に、特定保健指導を実施しています。一部の企業には、訪問指導も行いました。
- ・チーム医療における専任管理栄養士の配置、カンファレンス・回診への参加で必要なのは、多職種との連携はもちろん、病態を理解し適正な栄養管理

行うことです。管理栄養士の育成のため、月に一度症例検討会を行っています。臨床場面での気づきや疑問点を整理し、客観的に捉え分析する能力を高める、またディスカッションすることで他者の意見や考えから学びを深めることを目的としています。

- ・研究活動として、学会発表、学会地方会での座長、資格取得、フランスの研究雑誌への英語論文の受理など取り組みました。
- ・総合評価落札式一般競争入札により新規給食委託会社と契約致しました。医療安全・感染予防の観点より給食委託業務内容を標準化すべく、業務の見直し

を行いました。今後も安全で安心して食べられる食事の提供を目指します。

- ・北海道済生会支部事業にも取り組みました。済生会ビレッジでの健康相談では、健康・暮らしの悩みについて地域住民の課題解決に、栄養の専門家として参加しています。また、小樽市の業務委託を受け、高齢者の保健事業と介護予防の一体的事業である二次骨折予防として骨粗鬆症予防について取り組みました。ハイリスクアプローチとして地域包括支援センター4圏域中2圏域で、過去5年間に骨粗鬆症の診断歴がある方へ、電話・訪問による受診勧奨、栄養・運動など骨粗鬆症予防の指導を行いました。また、市民啓蒙として骨粗鬆症を予防する栄養の摂り方について講話をしました。済生会ウエルネスフェアでは、小樽市民が食べる機会の多い食品に含まれる塩分量について展示し、健康情報の発信を行いました。

【今後の目標】

- ・管理栄養士一人ひとりのスキルアップを図り、治療効果を高めるための栄養療法、栄養管理ができることを目指します。
- ・医療安全・感染予防の観点より給食委託業務内容を標準化し、適正業務となるよう見直しを行います。
- ・済生会ビレッジを活用した、地域住民への栄養情報の発信、食事による健康改善・疾病予防に繋がる取り組みを目指します。

文責 技術課長 多田 梨保

食べることは生きること

医療技術部 栄養管理室 西澤 一步

タイトルは私が管理栄養士になって間もない頃、栄養について教えて下さった先生がお話されていた言葉です。私たちの生活と食事は切っても切り離せないものではないでしょうか。ライフステージによって食事の悩みはそれぞれ異なり、壮年期には生活習慣病で悩む方が多いといわれ、高齢者となると身体・臓器機能の低下により食事の制限を強いられることもあります。一方で、好きなものを食べることや家族・友人と外食に行くことは心を豊かにする一面もあり身体機能の変化に合わせて食事とどのように付き合っていくかが大切であると改めて考えさせられます。

ご縁があり、私は令和3年の12月より当院にて勤務させて頂いております。現在は回復期病棟の栄養管理を担当しており、入院している患者様がスムーズにリハビリを実施できるように栄養面でサポートをさせて頂いております。

ここ数年、1年間で新しいことを一つ身につけるという目標を自身の中で決めて取り組んできました。昨年度は新たな挑戦として「NST専門療法士」という

認定試験を受験致しました。結果は無事に合格し、まずは一安心というところです。

管理栄養士として働き始めたのは約7年前で、振り返ってみると多くの人との関わりの中でたくさんのご事に挑戦させて頂きました。今回の資格試験へのチャレンジも施設や部署の応援があつてこそその結果であると実感するところであります。資格を取得することによる心境の変化は自覚と責任が大きなところです。この資格は臨床栄養に関する技能を一定程度評価するものであるため、その評価に見合った取り組みができるよう身が引き締まる思いとなりました。チーム医療の中で栄養は多くの職種が関わる分野となるため、他職種と協力しながら個人に合わせた支援を行っていきけるよう努めて参ります。

生活と食事は密な関係となっており、皆さんにとって非常に身近な存在かと思えます。コロナ禍をきっかけに自宅で食事を食べる機会も増えたのではないのでしょうか。健康上の理由により食事制限が必要な場合があるかと思いますが、無理なく食事とお付き合いしていくことが出来るようにひとり一人の環境や生活に合わせて健康に配慮した食生活をご提案させて頂きます。お困りごとがありましたら気軽に相談ください。どうぞよろしくお願い致します。

【スタッフ】

技 術 室 長 笹山 貴司
 技 術 係 長 横道 宏幸
 技 術 主 任 奥嶋 一允
 臨床工学技士 吉田 昌也 今野 義大 山内 揚介
 中村 友洋 及川 尚也 中野裕城子
 斉藤亜里沙 服部 淳貴
 3学会認定呼吸療法認定士：2名
 透析技術認定士：2名

【業務内容】

臨床工学室では、生命維持管理装置である人工呼吸器や血液浄化装置を始めとした医療機器の操作および保守点検を中心に様々な医療機器を管理し、安全かつ迅速に医療機器を提供できる体制を整えております。また、日々高度化する医療機器に対応できるよう、最新の知識と技術を習得し、医師や看護師、その他メディカルとともにチーム医療の一員として、安全で安心な医療の提供に努めております。

【当部署の特徴】

血液浄化業務・医療機器管理業務・手術センター業務・内視鏡センター業務と幅広い分野で他の医療職と協働して業務を遂行しており、急なオーダーや機器トラブルにも迅速に対応できるよう、365日・24時間オンコールにて対応できる体制を整えております。また、安全で適切な医療機器の操作を促進するため、看護職をはじめとする幅広い職員に対する研修や、当院独自の医療機器操作マニュアルの作成・改訂を行っております。

1. 血液浄化業務

透析センターでは、看護師とチーム制で慢性腎不全患者さんに血液浄化療法を提供しており、患者さん個々の生体適合性に見合った人工腎臓の提案・透析関連装置の保守管理やガイドラインに基づく水質管理・リスクマネジメント業務等を担っております。また、体外循環によって血液を体外へ導き、病気の原因となる物質を分離除去する治療（アフェレシス療法：血漿交換や吸着療法等）にも携わっております。その他、腹水や胸水を濾過・濃縮して、アルブミンなどの有用なタンパク成分を回収し安全に体内に戻す治療法（KM-CART）も施行しております。

2. 手術センター業務

手術センターでは、患者さんが安心して手術を受けられるよう、麻酔器や腹腔鏡装置等の手術用機器の始業点検や定期点検を実施しております。また、工学的

知識を活かし、内視鏡関連装置の操作や人工関節置換手術時の機器操作等も実施しております。手術野における直接介助業務につきましても、全手術件数1342件中588件(49%)携わっており、手術センターにおけるチーム医療の一員として医師や看護師と連携しながら業務を行っております。

3. 医療機器管理業務

医療機器管理室では、輸液・シリンジポンプや人工呼吸器など多種多様な医療用精密機械を医療機器管理システムにて一元管理しております。これら膨大な数の医療機器は、年間計画に基づく定期点検や日常点検および定期部品交換を実施する事により、必要時に安全かつ迅速に医療機器を提供できる体制を整えております。その他、気管挿管や気管切開をせずに専用マスクを使用する事で人工呼吸管理が可能なNPPV療法や鼻カニューラを使用し高流量酸素投与を行うネーザルハイフローにも対応する他、人工呼吸器の在宅復帰支援を行うなど、現場や患者さんのニーズに応えられるよう様々な場面でサポートを実施しております。

4. 内視鏡センター業務

内視鏡システムや軟性内視鏡（ビデオスコープ）等の始業点検・準備・終業点検に加え、使用後のビデオスコープを再生処理する為に洗浄消毒装置の操作を行っております。当センターではERCP（内視鏡的逆行性胆管造影法）やEUS（内視鏡的超音波検査）など専門的な治療を行っており、その際に使用される専用スコープや高周波装置についても担当技士が管理する事で、より安全な検査・治療が行われる環境づくりに努めております。

【過去3年の実績】

1. 血液浄化業務

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
血液透析・血液濾過透析	8,409件	7,876件	7,953件
持続的血液濾過透析	25件	9件	16件
アフェレシス療法	0件	5件	0件
腹水濾過濃縮再静注法	72件	49件	60件

2. 医療機器管理業務

(1) 終業点検件数

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
シリンジポンプ	250件	276件	273件
輸液ポンプ	768件	1137件	1011件
人工呼吸器	20件	26件	35件
フットポンプ	179件	291件	261件
低圧持続吸引器	22件	9件	20件
エアマット	108件	114件	128件
血管用エコー	106件	154件	151件
その他(主にモニター関連)	71件	170件	30件

(2) 医療機器修理及びメンテナンス件数

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
シリンジポンプ	10件	13件	8件
輸液ポンプ	39件	48件	54件
人工呼吸器	6件	8件	8件
除細動器	6件	3件	4件
フットポンプ	3件	6件	2件
生体情報モニター	30件	11件	22件
エアマット	10件	4件	13件
透析関連機器	148件	98件	137件
内視鏡関連機器	6件	7件	9件

3. 手術センター業務

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
外科腹腔鏡操作	111件	106件	94件
整形関節鏡操作	103件	115件	131件
泌尿器膀胱鏡操作	160件	130件	120件
手術関連機器メンテナンス	18件	3件	9件

【令和4年度の取り組み】

新型コロナウイルス感染症の拡大防止に向け、各種ガイドラインをもとに医療機器の使用法や各種備品の見直しを図りながら、人工呼吸器をはじめとした“医療機器を介した感染防止対策”に努めてまいりました。

透析センターにおいては、コロナ陽性患者さんや濃厚接触が疑われる患者さんに対して、ゾーニングの徹底や個室対応により空間的・時間的隔離を図りながら対応してまいりました。

令和4年10月にはコロナ対応病棟の一室に透析治療が可能な設備を新設。対応患者さんの増加に伴い使用透析装置も1台から2台に増設するなど、他患への感染リスクを抑えながら安心して透析治療を受けていただける体制を整えております。また、当院にて透析治療される患者さんのみならず、近隣施設にて透析治療される患者さんが新型コロナに罹患した際の受け入れも可能な体制をとってまいりました。尚、コロナ対応病棟にて令和4年10月から令和5年3月まで計39回の透析を施行しております。

また、多種多様化する医療機器を安全に安心して使用していただく為に、医療機器操作マニュアルの作成・改訂作業を行い、年3回以上の医療機器操作研修を実施しております。その他、院内の看護師や他職種向けに「CE通信」と題した医療機器操作等に関する広報誌を2ヶ月に1回発行しており、院内スタッフの皆さまより大変ご好評をいただきました。

【今後の目標】

透析装置及び水質管理関連装置や病棟で継続使用されている生体情報モニターを始めとした医療機器の安全性確保・維持に向けた取り組みを引き続き強化すると共に、新型コロナウイルス感染症が5類移行後も、人工呼吸器をはじめとした“医療機器を介した感染防止対策”に引き続き努めてまいります。当部署にて管理する医療機器に関しては年々使用頻度が高まっており、特に人工呼吸器については新型コロナウイルス感染症の影響等により使用稼働率が非常に高まっております。必要時に管理医療機器が使用できない事のないように、管理体制を更に強化しながら保守・点検・管理を適切かつ効果的に行い、機器トラブルの未然防止に努めてまいります。

令和3年5月28日には、良質かつ適切な医療を効率的に提供する体制の確保を推進するための医療法等の一部を改正する法律が公布されました。この法律に伴い、今後は当院においても臨床工学技士の仕事の幅が広がり、職種としての需要も高まる事が期待されます。ポストコロナの変わりゆく時代の変化やニーズに対して柔軟に対応すべく、臨床工学室メンバー皆で協力して、地域住民の皆さんの健康と安全を引き続き支えてまいります。

文責 技術係長 横道 宏幸



就職して四年

医療技術部 臨床工学室 服部 淳貴

臨床工学技士の国家資格を取得し、済生会小樽病院で働き始めて四年になりました。

私は就職活動を始めるのが遅く、三月下旬に済生会小樽病院から内定を頂き、一週間で家を借りたり、引っ越しをしたりと新生活に向け慌ただしく準備したことが今では懐かしく思えます。一年目の時は、右も左もわからないまま手術室に来て、仕事を覚えることに必死で、誰よりも手術室にいる時間が多くなってしまい上司から心配されました。

今では、私も四年目になり多くの手術業務を経験し器械出しや外回り業務をしていく中で、一年目の時は右も左もわからなく働いていた頃と比べ、少しは成長できたのかと思います。今年はタスクシフトで臨床工学技士の業務拡大のための講習会に行くので、新たに行う業務について学習し、現場で生かせるよう頑張りたいと思います。

ここから話が変わりますが、去年から私の新しい家族としてマルチーズとミニチュアダックスフンドのMIX犬の雨瑠(♀)と暮らし始めました。すごく甘えん坊で人懐っこい性格なので実家の家族からも可愛がってもらっています。この子のためにも仕事を頑張っていきたいと思います。



看護部

■ 総 括

【看護部概要】

- ◆看護部職員：231名
令和4年4月1日現在
 - ・看護師：175名
 - ・准看護師：10名
 - ・看護補助者：42名（介護福祉士6名含む）
 - ・看護事務：4名
- ◆看護部管理者
 - ・部長1名、次長1名、室長1名、課長8名、主幹3名、係長16名
- ◆診療看護師（NP）1名（13区分、21行為）
- ◆特定行為研修修了者：3名
 - ・精神・神経・循環領域コース+栄養水分に係る薬剤投与関連、1名
 - ・創傷治療領域コース+ろう孔管理関連コース、1名修了
 - ・救急病態管理コース 1名
- ◆専門・認定看護師（4分野・7名在籍）
 - ・慢性疾患看護専門看護師 1名
 - ・緩和ケア認定看護師 2名
 - ・皮膚排泄ケア認定看護師 2名
 - ・認知症看護認定看護師 2名

【看護部理念】

- ・済生会の創立精神「施薬救療」にのっとり、患者さん一人ひとりに「安心できる質の高い看護を提供します。」

【部署の特徴】

看護管理室は、昨年に引き続き中川尚美次長、金澤ひかり室長の3人体制で歩みました。

コロナ禍において、令和3年度は新人看護師5名、准看護師4名、中途採用看護師1名が入職しました。看護師の離職率は、9.78%と昨年度よりも0.38%の増となりました。夜勤回数は、まだ一部の職員に偏りが生じる状況もありますが、夜勤専従看護師の採用を強化している結果、徐々に緩和されています。また、急性期病棟でミックス夜勤を導入し2年目を迎え、約6割（3病棟の平均値）の方が2交代夜勤を選択しています。中堅層が少ない傾向は他施設と同様の課題でもあるため、経験者の中途採用に関しては、これまで以上に積極的に取り組んだ1年です。さらに、令和4年度は、特定看護師が1名増えて臨床で実践を積んでいます。特定行為研修は、様々な理由により、新規研修生の受け入れを休止していますが、令和6年度からの

再開を目指して準備に入ります。今後は、院内のみならず地域医療における期待に応えられるように、更に臨床での実践を積んで参ります。

【実 績】

1. 看護師数（常勤換算）と離職率（%）

年度	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年
正規職員数	178	167	163	169	161
臨時、嘱託、パート	16	20	17	21	24
計	194	187	180	190	185
離職率	9.8	7.1	9.0	9.4	9.78

2. 42日以内再入院率（%）

	一般病棟
令和元年度	4.9
令和2年度	2.9
令和3年度	6.8
令和4年度	4.8

* 化学療法の再入院は除く。

3. 摂食機能療法算定件数及び算定額（円）

	件数(件)	収入(円)
令和元年度	3,038	4,679,850
令和2年度	2,991	4,989,800
令和3年度	3,404	6,220,950
令和4年度	5,609	10,347,500

4. 入退院支援加算件数(件)

	入院支援加算2	入退院支援加算1
令和元年度	45	827
令和2年度	387	568
令和3年度	283	655
令和4年度	110	469

5. 看護部に関するお礼と苦情件数（件）

	お礼	苦情
令和元年度	20	26
令和2年度	9	7
令和3年度	3	7
令和4年度	5	19

令和4年度 看護部目標

1. 看護計画を展開し、患者中心の看護を提供する
2. 入退院支援において、地域と連携しチーム医療の中心的役割を担う

3. 上記1、2達成のために、業務の効率化を図る

【令和4年度の主な取り組み】

- ・新型コロナウイルス感染症重点医療機関として3年目を迎えました。前年度に引き続き地域包括ケア病棟で患者の受け入れに対応してきました。発熱外来、集団ワクチン接種も、その時々々の感染状況に応じながら運用を継続しました。予定入院並びに救急患者、さらに本来であれば地域包括ケア病棟に転棟される患者も、全て3つの急性期病棟での受け入れが続きました。そして急性期病床を確保するために、回復期リハビリテーション病棟も常にフル稼働してきました。前年度よりも、地域の感染状況の影響を更に大きく受け、緊急手術、透析治療の対応において、関係者でシミュレーションを幾度となく重ね、十分に役割を発揮できました。
- ・4年前より看護管理者は、「患者中心の医療の提供」を目標に、日常における倫理的問題解決に向けて、患者・家族の意思決定を支援する『臨床倫理』に関する研修を継続しています。令和4年度も、更に進化させて取り組んでいます。「看護計画の展開」に関する看護部目標は、毎年掲げて取り組んでいますが、まだしばらくは継続します。

- ・緩和ケア研修（初級・中級・上級）は、2名の認定看護師の協力で継続できています。上級コースでは、受講生による事例報告を管理者全員で共有する機会を大切にしています。（報告会の写真参照）
- ・慢性疾患看護専門看護師による循環器疾患患者への退院支援は、医師や病棟スタッフと共に充実してきました。
- ・看護研究に関しては、令和2年度に「看護部の倫理審査」を受ける仕組みを作り3年目に入りました。倫理審査を通じて、“今後の研究の在り方”を検討する必要性を感じ、看護管理者と意見交換をしている最中です。

【今後の目標】

『住み慣れたこの地域で、その人らしく生活できる』この目標は、昨年度も年報に記載しました。小樽は、高齢化率も独居率も道内の中でも上位にあります。小樽の方々が、どのように地域で生活されたいのか、済生会の看護師として何が求められているのかを職員と模索しながら前進したいと考えます。

文責 看護部長 菅原 実夏



3A病棟

【スタッフ】

杉崎 美香 看護課長
齋藤 亜妙 看護係長
砂川 友紀 看護係長

看護師：29名

（うち短時間正職員：3名 パート：3名 夜勤専従：3名 糖尿病療法指導士：1名）

看護補助者：9名

（うち夜勤専従：1名 看護事務：1名 医療クラーク：1名）

【実績】

入院患者数	退院患者数	稼働率	平均在院日数	手術件数	内視鏡件数	化学療法件数
770人	847人	86.2%	18.2日	355件	230件	79件

【令和4年度の取り組み】

今年度も前年度に引き続き、「患者・家族と意思を共有し、看護過程を展開する」「自己の役割を認識し行動できる」という目標を立て、看護活動を行ってきました。患者・家族と意思を共有するためには、詳細なデータベース聴取・分析を行った上で看護計画を立案し、それらを患者・家族と共有する必要があります。また、看護計画に沿った看護の提供は、看護の専門性の発揮につながり、それが質の高い個別性のある看護へとつながります。看護部の目標である「看護計画を展開し、患者中心の看護を提供する」ために、係長による定期的な記録監査や勉強会、固定チームによる活動を行ってきました。1年目からベテランまで幅広い年数の看護師が協働する中で、各自の経験年数・立場によって役割が異なります。各自が自己の役割を遂行するために必要とする分野のe-ラーニングの視聴や定期開催する学習会に参加し、レベルアップに努めました。

【部署の特徴】

3A病棟は外科・循環器内科・消化器内科・緩和ケア内科の一般急性期混合病棟です。

患者は、手術目的・検査目的・薬剤調整・緩和目的等様々な理由で入院されています。あらゆる健康問題を抱える患者の傍らに立ち、声に耳を傾け、患者・家族にとって最善のケアを提供するために多職種と連携し定期的にカンファレンスを開催しています。「この病院に入院して良かった」と感じていただけるような看護の提供を目指し、日々活動しています。

【今後の目標】

当病棟は4科の混合病棟であり、入院理由も多岐に渡っています。1人1人の患者に合った看護を提供するために、今後も学習の機会を設け、看護師全員がレベルアップしていきたいです。そして「看護計画の充実」「倫理的配慮のある看護の提供」「安心・安全な看護の提供」を目指し、受け持ち看護師としての役割を発揮できるよう取り組んでいきたいと思っています。特に、今年度はレベル3b以上のインシデントが起きてしまったため、対策を強化し安全な看護の提供に努めていきたいです。

文責 看護課長 杉崎 美香



3年目になって

3A病棟 伊藤 玲奈

様々な疾患が入院することが多い病棟に勤めて気づいたら早3年間が経っていました。入職時はコロナも流行しており、1年目の頃は様々なことにぶち当たり、休職していたこともありました。当時は自分の知識量が足りなかったり、報告・連絡・相談が出来てなかったりと悩む事が多く、プライベートの時間まで勉強に費やしていました。無駄にストイックな日を送っていたなー、それは病むよなーと今振り返れば淡淡と思うことが出来ます。プライベートの必要性を重々分かった今は、友人と居酒屋巡り、はしご酒、釣りや道内旅行などでリフレッシュしています。仕事ではまだまだ未熟ではありますが、病棟内の先輩・後輩方と楽しく、忙しく仕事させて頂いています。これからも仕事と私生活の均衡が保てる立派な看護師になれるよう精進していきます。



仕事と猫

3A病棟 坪内 亜優

入職して10か月目に入りました。中途採用で同期や知っている人がいない中3A病棟に配属されたときは、緊張と不安が大きかったのですが、今は毎日楽しく笑って仕事することができています。3A病棟の皆さんが優しく丁寧に教えてくれるため、怖がらず前向きに学ぶことができています。そのためか半年を過ぎたあたりから出来ることが増え、やりがいを感じることも多くなり、あっという間に時間が過ぎていきます。そんな中でもミスが続いた日や思うような動きができなかった日は気持ちが沈んで暗い気持ちになる日もあります。

そんな中猫と2人で暮らして3年目に入りました。ドライブが大好きな猫なので、休みの日は30分～1時間ドライブをしたり、実家で飼っている犬に会いに行くなど猫中心の生活を送り気分転換をしています。高い所からジャンプして足を怪我するようなまぬけな猫ですが、賢いときもあるようでドライブに行くよ、実家に行くよと言ったら、急いでご飯を食べてトイレをして準備をしてくれます。小さい頃に実家の犬と育ったので自分を犬だと勘違いしているのかもしれませんが。

そんな愛猫ですが、7kg近い大型猫であるため、毎月食費でお金が無くなっていきます。なので、これからも看護師として多くのことを学び精進していくとともに愛猫の食費のためにも日々頑張頑張って働いていきたいと思っています。



ドライブする猫



だらしない猫



変な服を着せられた猫

3B病棟

【スタッフ】

岡本 麻理 看護課長
仙保 知子 看護係長 糖尿病療法士
宮下 めぐみ 看護係長
看護 師 27名
准看護 師 1名
看護補助者 8名

【部署の特徴】

3B病棟は整形外科と泌尿器科の混合病棟となっており、当病院の中でも入退院・転出が多い病棟です。予約入院は、規定は4人までですが場合により6人の時もあります。その他臨時入院も受けいれているため、多い日では9人の入院者患者が日勤業務だけで入ることがあります。その他夜間の緊急入院も備えており、日曜日の予約入院も受け入れを行っております。

整形外科は、骨折や変形性股関節症、変形性膝関節症、腰部脊柱管狭窄症、頸髄症、アキレス腱断裂などの周術期を中心とした急性期看護を行っています。

泌尿器科の主な疾患は、尿管結石、腎結石、前立腺がん、膀胱がん、腎がん、慢性腎不全です。検査や手術、化学療法、ターミナルケア、透析療法を行い患者の希望により添えられる看護を提供できるよう心掛けています。

【実績】

【令和4年度の取り組み】

全世界的に悪影響を及ぼした新型コロナウイルス感染症の爆発的な増加により、スタッフの人数も減る中、入院、手術の件数は減らさず、医師、看護師、看護補助者、薬剤師、栄養士、リハビリテーション科と一丸となり守り抜いた一年でした。患者様におかれましては、新型コロナウイルス感染症により家族との面会制限があり、不安なお気持ちがあったと思います

が、オンライン面会や家族に簡易式の検査で陰性を確認した人は個室で面会できる環境を作り、少しでも患者様や家族の不安が軽減できるように努めました。

今年度の看護部の方針から病棟目標を設定し、「1.看護計画を展開し、患者中心の看護を提供する」「2.入退院支援において、地域と連携しチーム医療の中心的役割を担う」としています。1.については患者の現状をアセスメントとし、必要な看護を展開し、看護ケアに尽力できるようにしました。2.については、患者に寄り添えよう倫理カンファレンスを開催し患者の希望を取り入れ患者中心に看護を提供できるように取り組みました。

【今後の目標】

急性期である3B病棟は、短期間の患者様と向き合うためにも、看護過程に注力し、綿密なカンファレンスを行い、個別性のある看護を展開できるように努めたいと思います。また安全な医療の提供としてインシデントから小チームを発足しインシデントの分析、対策、強化したことを固定化できるように努めていきます。タスクシフト・タスクシェアでは、看護補助者との共同業務として統一した基準を作成し実施をしたいと考えています。

文責 看護係長 宮下 めぐみ



転職し育児と仕事の両立～家族協力の大切さ～

3B病棟 木谷 由香里

令和4年10月より地元であった当院へ転職し以前の病院では短時間・平日のみの勤務体制でした。

今回、転職を機に実家での生活となり、母・父、別居している兄の協力もあり3交代での勤務ができています。

子供たちは長女6歳、次女3歳、三女1歳ではありますが私の母・父・兄にとっても懐いており、私が夜勤の時でも「ママ、行ってらっしゃい」「お仕事頑張ってるね」と見送ってくれます。

夜勤で夜中に帰宅した際は、疲労困憊ではありますが子供たちの寝顔を見ると頑張ろうと背中を押してくれます。私の活力となっています。

私が、夜勤の際は寂しい思いをさせていると思いますが、休みの日は庭のプランター菜園やお菓子作りなどして、家族みんなで楽しめるイベントを日々考え開催しています。

毎月、兄は子供たちの面倒や遊びのために実家に帰省してくれており、子供たちも待ち望んで待っています。

私も6年ぶりの夜勤で最初の頃は3交代での深夜・準夜で、いつ寝たらいいのだろうか？夜勤が務まるのか？ととても不安でした。

しかし3B病棟のスタッフ皆さん、何もわからない

私を優しく、的確にわからないことに関して指導して頂き安心して夜勤をすることができました。

日勤の際も、1日の流れなど把握できていなかった際も、1つ1つ教えていただき安心して働くことができました。

これからも、地元で子供たちの成長を見ながら家族と協力し仕事・育児の両立をしていこうと思います。



ひな祭りパーティー

1年間を振り返って

3B病棟 竹下 仁依菜

看護師として働き始めて2年目になりました。1年間を振り返ってみるとあっという間だったと感じます。最初のころは覚えることが多く、分からないこともたくさんあり、新しい環境に慣れるのに精一杯でした。看護技術の習得や毎日帰宅してから実際に患者さんを見るにあたっての学習が大変でつらい毎日で体調を崩すこともよくありました。先輩看護師や指導者にできなかったことや分からなかったことを相談し、優しく教えてもらったことで少しずつ不安が解消され日々の業務に慣れていきました。また、最初是要領よく部屋回りもできませんでした。徐々に患者さんの観察するポイントが学習したことで見えてきて、部屋回りもスムーズにできるようになり自信につながったのを覚えています。

2年目看護師として、自分から積極的に学習したり、先輩看護師に聞いて分からないことは分からないままにしないで日々仕事に取り組みたいと思っています。また、1年目は自分の業務に慣れることや学習で精一杯であったため、患者さんともっと関わり、思いを知り、退院後の生活を見据えた援助をできるように日々看護していきたいと思っています。



高校からの大好きな子たち

4 A病棟

【スタッフ】

佐藤 悦子 看護課長

佐野 舞 看護係長

丸岡 貴子 看護係長

看護師：27名 准看護師：2名 看護補助者：7名

医療クラーク：1名 看護事務：1名

（うち短時間正職員：2名 パート：1名 看護師
夜勤専従：3名 看護補助者夜勤専従：1名）3学会合
同呼吸療法認定士：1名 特定看護師：1名

【部署の特徴】

4 A病棟は、消化器内科、脳神経内科の急性期病棟です。予約入院のほか、他医療機関からの紹介患者の受け入れを行っています。

消化器内科では、糖尿病（教育入院）や肺炎、胆膵疾患に対する内視鏡的乳頭切開術（EST）、内視鏡的胆道ドレナージ術（EBD）治療内視鏡では胃や大腸の腫瘍に対する内視鏡的粘膜切除術（EMR）消化管閉塞に対するステント留置術、出血性疾患に対する止血術を行っています。

脳神経内科は、後志圏内では数少ない急性期病院として、脳脊髄、末梢神経、筋肉に関連した疾患の診断と治療を行っています。患者平均年齢79.3歳、認知症ケア加算1対象者70%であり、脳卒中やアルツハイマー型認知症をはじめとする認知症疾患、パーキンソン病および関連疾患も増えています。認知症の患者が増加し、身体疾患を持った認知症患者は、せん妄や行動・心理症状を起こしやすく治療に難渋する事が多いです。受持ち看護師を中心にチームで情報共有しながら、患者・家族の思いに寄り添い意思決定支援をし、多職種で連携しながら地域へとシームレスな対応ができるように看護ケアを実践しています。

【実績】

新入院患者数	628人
退院患者数	613人
平均在院日数	25.3日
稼働率	81.7%
在宅復帰率	88.7%
内視鏡件数	399件

【令和4年度の取り組み】

1. 患者・家族の思いに寄り添い看護計画を見える化する
2. 多職種と連携し、患者や家族の意思を尊重した退院支援を行なう

超高齢化社会を目前に、入院される患者も複数の疾患を併発し医療の高度化を求められる時代を迎えま

す。新型コロナウイルス感染症により面会も制限され閉鎖的な環境の中、家族からの聞き取りを行い、入院時や入院中に患者や家族の意思を確認していかなければいけません。アセスメントを行い、早期の段階で受け持ち看護師を主体としながら、多職種やケアマネジャーと連携し、療養先の選定を行い、退院後の生活の場の調整を率先して整えることができるようになりました。倫理原則の4分割法活用し3件の倫理カンファレンスを開催することもでき、倫理カンファレンスの必要性について、病棟スタッフ全体に浸透することができたと考えます。次年度は、倫理カンファレンスの充実化を図り個々にあった看護過程を展開し、患者の意思を尊重した看護を提供できるようにチーム一丸となり取り組んでいきます。令和3年度の退院調整の基盤づくりを生かし、令和4年度は患者・家族の思いに寄り添い看護計画を見える化することで、個別性のある看護の提供、時代のニーズに添った退院支援の充実化を図っていくことが重要となっていきます。入院時から退院後の生活を見据え患者参加型の看護計画立案、スタッフ1人1人が、退院支援に向けてのスキルや知識が統一し、一貫した方向性になるように、退院前カンファレンスを開催し次年度は更に多職種と協力し取り組んでいく必要があると考えます。

3. 看護の質の向上を目指しスタッフの積極的な研修の受講を勧める

研修や自己研鑽に関しては「やらされている感」を感じているスタッフも多く、研修参加に関しては消極的な状況です。認知症患者の対応で疲弊、業務が多忙を極め学びの意欲が低下してしまう傾向にあります。高齢化社会に伴い、多種多様の疾患に対応するためには最新の治療や看護について知識の習得が看護の質を高めるにあたり重要となってきます。ともに、自律心を養い、研修で習得したことを実践出来た際は、承認や称賛することでスタッフのモチベーションの向上につながるように環境の整備を行っていくことが大切となります。

4. スタッフ間の協力体制を強化し、業務の効率化を図り、時間内に業務が終わる

年代・キャリアバランスはとれており、その強みを生かしベテラン看護師が的確に指示・采配を行う環境・ロールモデルとなる看護師の育成、アサーティブなコミュニケーションを図り、気持ちよく働ける雰囲気を作ることで、離職率の低下を目指しています。令和3年度は、無投薬インシデント発生が14件と多く、対策をした後もインシデントが続いたため、患者の知力の不利益になるようなことが無いように対策を継続しインシデントの予防に努めています。

ライフワークバランスをとりながら、仕事に意欲的

に取り組めるように、次年度はお誕生日有休や定時上がり制度を設けて帰る風土づくりを意識づけし、1日平均12時間とし時間外削減にも結びつける取り組みを行っています。

【今後の目標】

1. 患者・家族の思いを反映した看護過程を展開する。

令和元年度から看護管理者の倫理研修や倫理事例検討を継続し倫理的配慮のある看護の提供を目指しています。また、リーダーシップを発揮できる自律した看護師の育成、リーダー教育や人材育成にも力を入れています。ケア項目が中心となって業務を遂行するだけの看護になり、看護記録監査の分析結果からも患者や家族の思いに寄り添った看護の提供・看護過程の展開どころか、見える化も令和4年度もできなかったのが現状です。

安心できる質の高い看護の提供のためには、看護行為が専門的知識に基づき判断され、計画的に提供されなければならないと考えます。そのため、看護の基本である看護過程の重要性を再認識し、受け持ち看護師を中心とながら、看護過程の展開ができ、チームで情報の共有がされ、患者の看護に最善を尽くして協働することが必要であると考えます。

2. 多職種と協働し、入院前後の患者・家族の意向に則した支援ができる。

新型コロナウイルス感染症により面会が制限され閉鎖的な療養環境、家族からの聞き取り時間が制限されている中、入退院支援を計画的に行い、患者や家族の意思を早期の段階で確認しなければいけません。そのため、外来・入院治療が継続され、経過と共に予測さ

れる結果のアセスメントを行い、療養先の選定を行っていく必要があります。そのため、今後も受け持ち看護師を主体とし、地域を含めた多職種連携を行い、退院後の生活の場の調整をシームレスに整えることが継続的に必要であると考えます。退院前カンファレンスや倫理カンファレンスの必要性は、病棟スタッフ全体に浸透することができ、令和5年度も継続して、多職種と協働する環境を作り、退院前カンファレンスや倫理カンファレンスの充実化を図っていきます。

3. 専門性を発揮しながら安全な医療を提供するために、タスク・シフト/シェアしながら、患者に合わせた安全な療養環境を提供する。

年代・キャリアバランスはとれており、その強みを活かし看護師が指示・采配を行う環境・リーダーシップがとれる人材育成が必要であると考えます。その中で、看護師が専門性を発揮することが今後さらに求められます。

患者が安心して安全に入院生活を送れるように、感染対策やインシデント減少、医療安全にも力を入れます。

看護補助者と協働した業務改善・タスクシフト/タスクシェアの実現、ABチームに看護補助者を配置することで、リーダーシップやメンバーシップ教育を実施し、看護師の指示の下、協働して業務を行います。アサーティブなコミュニケーションを図り、気持ちよく働ける雰囲気を作り、ワークライフバランスをとりながら、仕事に意欲的に取り組めるように、定時上がり制度を継続して帰る風土づくり行ないます。

文責 看護課長 佐藤 悦子



学校と仕事の両立

4A病棟 北崎 葉月

私は現在4A病棟で准看護師として働きながら、正看護師の資格取得に向けて夜間は学校に通っています。勉強することが苦手であり、多忙を極める当病棟で働きながら学業の両立ができるか、入学当初は不安が強かったです。

実際学業との両立が始まると、私の思いとは異なり、所属部署が4A病棟で良かったなと感じる場面が多々ありました。病棟で経験した看護技術が、学校での学びに繋がり自分自身の復習に結び付いたこと、日々の受け持ちで関わった患者の疾患について学ぶことができ、疾患に対しての理解が深まりました。

また、4A病棟の先輩看護師は、親切な方が多く、忙しい毎日の中でも「看護の仕事にやりがい」をもって働くことができます。私が少しでも困っていることや不安に感じていることがあると、すぐに気づき声をかけてくれ、相談や適切なアドバイスをもらうことができます。学業と両立できるように、業務での配慮をしてくれ、恵まれた職場環境で過ごすことができます。たくさん助けていただく機会が多くありました。2年目になったら、できるだけ自分の仕事を早く終わらせ、先輩たちの役に立てることはないかと考え行動していきたいと考えます。

先輩たちの中にも、私と同じ道で看護師の資格を取得した方もおり、学業との両立で苦労をしているのは自分だけじゃないと言い聞かせ、日々の頑張る活力にしています。正看護師まで道のりは長いですが、自分が選択した道は正しかったと思えるように、2年後の国家試験で合格がとれるように、日々精進していきます。



名前はイチバンです。



名前は口口です。



とっても仲良しです。

小樽に来てから1年

4A病棟 山谷 香菜未

小樽に移住し済生会小樽病院に転職してから1年が経ちました。以前は札幌の脳神経外科の病院に4年近く勤めていました。脳外科の急性期病棟で、脳卒中の発症間もない患者が多く、障害受容のメンタルケアや、残存機能を維持・向上させるべくセラピストと協働して看護を行っていました。ご縁があり済生会病院に勤務することになり4A病棟に配属されました。内科・消化器内科の患者を受け持つのは看護学生以来で、最初は不安な気持ちがありました。今では病棟の先輩方のサポートも受けながら、日々自己研鑽をしながら過ごしています。

私が看護師になろうと思ったのは、「看護師になりたい」という友達が周囲に多かったこと、両親からも小さい頃から勧められており、看護職への興味を感じるようになりました。その気持ちは、看護体験や看護学校の見学に行くうちにさらに強くなっていきました。しかし難点があり血が苦手で、小学生の頃は自分の鼻血を見るだけで泣いていました。今では血も克服し、「看護師の仕事は楽しい」と思えるようになりました。

看護師という仕事は「一期一会」様々な人に出会い、多様な感情や考え方を知ることができます。患者の気持ちに寄り添って思いを組みとることや、共感しながら接することで、安心感や複雑な感情を表出する環境を作り、安心した療養環境を提供することにやりがいを感じます。

小樽へは結婚で嫁ぎにきました。1月に前職場を退職し、2月に結婚、3月にこちらで働きはじめ、短い期間にたくさんの変化と手続きがあり、目まぐるしく過ごしていました。仕事もプライベートも慣れないことばかりでしたが、最近は気持ちにも余裕ができ、やっと小樽の生活にも慣れてきて、朝は散歩に出かけ、休日はたまに体育館に行ってランニングマシーンで走ったり、坂のゆるやかな場所を探してたまに外を走ったりしています。小樽は坂が多く、ちょっとした坂を上るとすぐ海が見えるところがとても好きです。天気がいい日は病院の窓から見える海がとてもきれいでついつい見入ってしまうことがあります。

これからも日々勉強していくことと、初心を忘れずたまに息抜きしながら頑張っていこうと思います。



餃子が大好きでよく食べにいきます



家の横の木が桜の木でした！
春は寝ながらお花見をします。



疲労困憊の時は海を見に積丹へいきます

4 B病棟

【スタッフ】

伊井 洋子 看護課長
中山 優子 看護係長
大崎 朱美 看護係長
看護師 12名

【部署の特徴】

4B病棟は地域包括ケア病棟として、小樽市内外の急性期病院、施設、在宅からポストアキュート（治療・リハビリ）を目的に積極的に患者を受け入れています。令和2年には小樽市内の高齢化率が40.8%となり、全国に先駆けて高齢者人口の増加、慢性疾患の増加となっています。当病棟の役割は、住み慣れた地域と時々病院の橋渡し「生活の場へ戻るため」医師・薬剤師・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・社会福祉士などの専門的知識や技術を出し、話し合い、地域とつながりながら「これまでの暮らし」「そしてこれから」をみすえてかかわる支援をしています。

【令和4年度の取り組み】

令和2年からコロナ専用病棟として2年が経過した春

【実績】

	コロナ感染者総数	最高年齢	最低年齢	平均年齢	65歳以上
2021年	81名	107歳	23歳	68.5 歳	—
2022年	202名	101歳	38歳	77.64歳	80.9%

【今後の目標】

令和5年度5月8日から国の指針でCOVID19ウイルスは5類感染症となりますが、COVID19ウイルスは変異を続け、感染予防は今までと同様に接触・飛沫感染に対応することが求められます。9月まではコロナ専用病棟は維持されますが、現在の小樽市は観光客も増え人の往来も多くなります。高齢者が多い小樽においてコロナウイルス感染の重症化リスクは高く、今

は、感染症収束の兆しが見えないまま第6波に突入し、全国的に感染者が増え続け、当院でのクラスターも経験しました。その対応のなか病棟目標は「カンファレンスを充実させ、看護計画に反映される」「看護の専門性を発揮して、多職種チーム内で中心的役割を果たす」とし昨年度活動できなかった。固定チームの小チームを始動しました。蔓延するコロナ感染は軽症から中等症（肺炎があり酸素療法を必要とする）の治療を始めましたが、面会が規制される中での入退院支援は、受け持ち看護師が役割を発揮できにくい環境でしたが、管理者を含む看護師12名が毎日看護計画カンファレンスと退院支援カンファレンスを繰り返し、患者、家族が望む支援に取り組みました。医師、リハビリテーション、薬剤師、管理栄養士等の知識と技術の力を集結することで、コロナ感染の不安と隔離された入院生活のストレスを解消するためのコミュニケーションやケア、患者、家族の思いに寄り添う看護をスタッフ一同一丸となり継続できたと考えます。当病棟スタッフはこの1年で感染予防、個人防護具をつけながらのケアは、防具をつけていない時と差がないといえるほど専門職としての力を発揮できていたと思います。

後も看護の専門職として感染予防対策はもちろん感染拡大にいつでも対応していきます。本来の地域包括ケア病棟の役割として入退院支援を積極的に実践し、多職種連携において中心的役割を担えるよう邁進していきます。

文責 看護係長 中山 優子



コロナ病棟での葛藤と成長、そして・・・

4 B病棟 北村 光

新人看護師として入職して10ヶ月目に、突如として始まったコロナ病棟での勤務。それから約2年半、コロナ病棟で勤務をする。

今思えば、様々な初体験をすることができたと思う。次々と出てくる変異株、目まぐるしく変わっていく治療方法、そして何よりも、初めて个人防护具を装着して、レッドゾーンの中へと足を踏み入れたあの不安の入り交じった感覚は忘れない。

レッドゾーンの中では様々な患者さんとの出会いがあった。20歳前半の若者から100歳以上高齢者まで、多くの方が入院してきた。元気になって退院された方もいれば、残念ながら亡くなってしまった方もいた。比較的元気な患者さんとは、ちょっとしたお話でお互いに笑顔になった。目の前で苦しんでいる患者さんとは、これ以上何もできないという無力感・悔しさがこみ上げたこともあった。

しかし、多くの患者さんとの出会いで、自分の看護師としてのモットーが形成され、将来的に目指して行きたい看護師像も形成されてきたと思う。これからも、自分の看護師としてのアイデンティティを大事にしていきたい。

さて、堅い話以外に砕けた話をする。コロナ病棟での勤務中は、昼食のとき、食堂や売店に行くことができず、コロナ弁当(病院食)が提供されていた。当然決まったエネルギー量であるため、労働量に対して明らかにカロリーが足りなかった。おかげさまで運動せずに6kg痩せることができた。そんな僕にとっての元気の源が、汁なし坦々麺を食べることであった。札幌にある小さなお店なのだが、隠れ家風で居心地がよく、坦々麺は強烈な旨味とスパイスが香ってとても美味。そしてシメの追いライスもこれまた旨い。自家製の杏仁豆腐も美味しく、すっかり虜になってしまった。

他にはコーヒーを淹れて飲むことも趣味で、手引きのミルでコーヒー豆を粉碎している時が何も考えずに虚無になれる時間。もちろん、カフェに行くのも好きで、1人でコーヒーと食事を楽しみながらボーッとするのが心地よかった。食事以外では、ウマ娘に熱中し、仕事が終わって自宅に帰ってからは毎日のように育成をし、推しキャラが手に入るまでガチャを回し続けたり・・・。

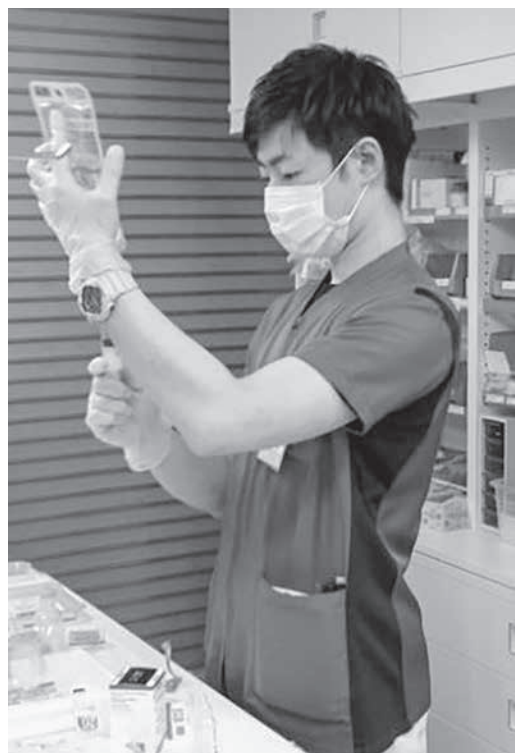
こんな感じで、仕事とプライベートの両方が充実した1年間であった。これからも、おいしいものをたくさん食べ、健康面に注意して仕事を頑張りたいと思う。



元気の源、汁なし坦々麺 これに尽きる



行きつけのカフェ コーヒーとエビカレーが旨い



これからも頑張ります！

コロナ禍に学びを深める

4 B病棟 林 裕美子

令和2年、新型コロナウイルス感染症が広がり、暗い日々が始まりました。私は第2波で家庭内感染し、約1カ月の自宅療養を余儀なくされました。その間、職場に迷惑をかけてしまったことに対して、申し訳ない気持ちでいっぱいでした。

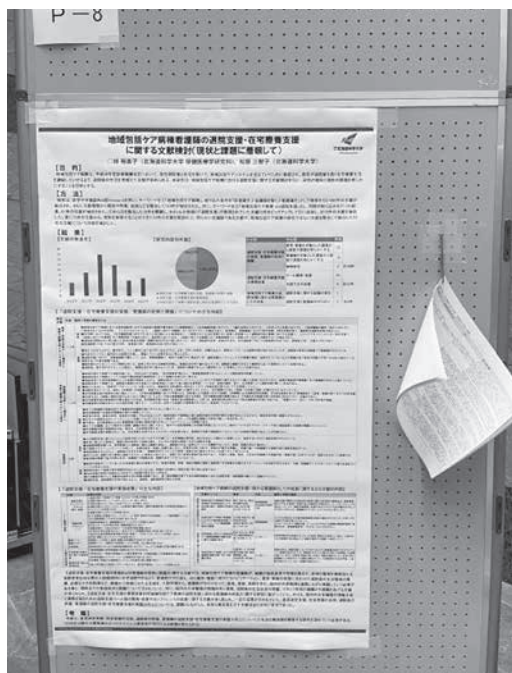
思いがけずまとまった時間を得て、せめて自己研鑽をという気持ちもあり、今までなかなか出来ずにいた学会誌への論文投稿に挑戦することに。地方学会誌ではありますが、大学での研究をまとめなおした論文を掲載して頂くことができました。これをきっかけに恩師から修士課程進学を勧められ、令和3年4月から北海道科学大学大学院で学ぶことになりました。

4B病棟はコロナ病棟となったことで、通常と勤務

内容・体制が大きく変わっていました。PPEフル装備での看護は体力的には辛い面もありましたが、少人数体制のため夜勤が多くなった事で日中動ける時間が増え、大学院での勉強や研究は進めやすかったです。コロナ禍の外出自粛によって遊びに行く機会が減った事も勉強するには良かったかもしれません。

4B病棟では地域包括ケア病棟としての活動はほとんど出来なくなりましたが、大学院では「地域包括ケア病棟の退院支援」を研究テーマとし、その知見を少しでも地域包括ケア病棟再開後の看護に活かしていければと考えながら取り組みました。

そして令和5年、コロナ禍が終息に向かうとともに4B病棟も地域包括ケア病棟の一部を再開し、退院支援の機会が増えてきました。来年3月に修士課程卒業を目指し、現在は研究と修士論文の仕上げに取り組んでいます。自身の学びや研究が臨床でどれほど役立てられるかはわかりませんが、常に向上心を持って頑張りたいと思っています。



令和4年の北海道公衆衛生学会で示説発表



北海道科学大学の構内風景

5 B病棟

【スタッフ】

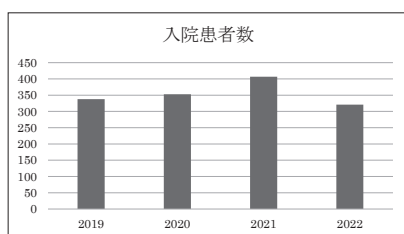
兒玉真夕美 看護課長
 佐藤由紀枝 看護係長 認知症ケア認定看護師
 小野 智子 看護係長
 看護 師 23名（うち夜勤専従 2名）
 准看護 師 2名
 介護福祉士 6名（うち夜勤専従 1名）
 看護補助者 3名
 看護事務 1名

【部署の特徴】

5B病棟は、急性期の治療を終えた主に大腿骨骨折の手術後や脳血管疾患の患者を対象に家庭復帰・社会復帰を目指して365日リハビリテーションを重点的に行なっています。自院だけではなく、他院からの紹介患者も多く、全国各地からの転院もあります。医師、看護師、介護福祉士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、薬剤師、管理栄養士、医療ソーシャルワーカーなどの多職種がそれぞれの専門性を最大限に発揮し、一つのチームとなって患者・家族の想いに寄り添いながら質の高いサービスの提供を日々目指しています。

【実績】

入院患者数	稼働率	平均在院日数	在宅復帰率	院内転病棟患者数	他院からの紹介患者数
323名	97.5%	59.2日	90.4%	200名	211名



	入院患者数
令和元年度	338名
令和2年度	353名
令和3年度	407名
令和4年度	321名

【令和4年度の取り組み】

令和4年度の診療報酬改定によって病棟運営も大きく変化した。重症度30%から40%への引き上げによって術後早期、認知症、介助量が多い日常生活機能評価で10点以上となる重症な患者を中心に受け入れてきた。紹介患者数も年々増え続け、コロナ禍でありながらも高稼働を維持し続けることができたが、昨年度と比較すると入院患者数は86人減少となった。回転率上昇は重症度に大きく影響を与えかねない。適切な病棟運営によって入院料1を取得し続けながら、選ばれる病院を目指していきたい。そのためには、一人一人の患者にどのようなリハビリテーションが提供できるか、多職種で話し合い入院決定は慎重に行なっていくことも今後の課題である。

【今後の目標】

コロナ禍のため、今年度は大勢で集まるようなレクリエーションを行なうことができなかったが、四季折々の飾りを病棟内でも行なってきた。入院期間の長い患者に四季を感じられる工夫をし、療養生活の中でも楽しさを見出せるよう多職種で協力し努力していきたい。地域住民の方々がリハビリテーションを受けるなら当院でと選ばれる回復期リハビリテーション病棟であり続けながら、住み慣れた望む場所や自宅へ戻れるよう、今後も多職種で協働し質の高い医療の提供を目指していきたい。さらに、ADL向上に伴う転倒、転落防止への取り組みを強化し、安全で安心できる療養環境を提供できるよう努めていく。

文責 看護課長 兒玉 真夕美



看護師 1 年目を通して感じたこと

5 B 病棟 石黒 真帆

新人看護師として入職し、早1年が経ちました。看護学生時代は新型コロナウイルスにより、臨床実習を経験できず不安ながらに入職しました。病棟勤務が始まり、挨拶の仕方からパソコン操作、看護師としての役割を指導していただく中で、自身の知識や技術不足を強く感じる事が多くあり、1年経過した今でも緊張と不安の中日々学んでいます。勤務する中で学生時代とは異なる社会人としての自覚や、看護師として患者様の生命、ご家族の想いを預かっていることへの責任の重さを感じています。何度も指導していただいたことをうまくこなせず、落ち込む日もありますが、わからないことがあれば優しい励ましの言葉や指導をもらい何度も心が救われ、またがんばろうと前向きになりました。そして些細なことでも「ありがとう」と笑いかけてくださる患者様の一言が、今の私の何よりの原動力となっています。社会人として、看護師として、1歩1歩成長できるよう今後も学びの姿勢を忘れ

ずに自身と向きあっていきたいと思います。そして固定概念に囚われずに、視野を広く持ちながら、患者様の想いや自分以外の方の意見を聞き入れることができる、周りを笑顔にできる、そんな看護師になれるよう精進していきたいと思います。



5B病棟の先輩方と

看護師 2 年目になって

5 B 病棟 久保 茂栄

私は今5B病棟のメンバーとして働いていますが、所属は4B病棟です。4B病棟は現在コロナ病棟として稼働しており、新人の頃に1度だけ病棟に上がり説明を受けましたがその後は病棟に行っていない。

新人の頃は「いつ4Bに戻れるのか」と正直コロナが収まれば早く戻れるのだらうと思いながら日々働いていました。気づけば5B病棟で働き1年が過ぎ私も看護師2年目として後輩もでき、新人の頃とは違う仕事への責任感、更にチーム編成により、一から患者さんの情報収集をする事がとても大変でした。また、受持ち患者さんの人数も増え、退院に向け患者さんにとって何が問題でどのような支援が必要なのか看護目線と考え、多職種とも連携し退院支援に繋げていく事がとても大変でした。そのような中、先輩方に、私の足りない部分には的確にアドバイスいただきながら支えてもらい、退院支援について多くの事を学ぶ事が出来ました。それと同時に自分の知識不足や課題も多く

落ち込み、辛いと感じることもありました。ですが、家に帰れば愛猫が待っており一緒に居るだけで何もかもが吹っ飛んで行くくらい癒してくれる存在です。そのお陰もあり、リセットし日々前向きに頑張る事が出来ています。

5B病棟には同期が5人も居てとても心強いです。同期と、優しい先輩方と一緒に働けて嬉しいです。

今はもう4B病棟へ戻るという感覚から他病棟へ異動するとの感覚に変化しています。今後、どの病棟に行っても今までの学びを活かしつつ、患者さんを第一に考え寄り添える看護、ケアを実践していきたいです。



猫じゃらしで遊んでいる愛猫

外来看護課

【スタッフ】

伊藤 瑞代 看護課長
吉田真知子 看護係長
中山 祐子 看護係長

正職員看護師 7名

(うち資格取得者：糖尿病療養指導士 1名
内視鏡技師 4名
NST専門療法士 1名)

短時間正職員 5名 (うち准看護師1名)

パート職員 5名 (うち准看護師2名)

嘱託職員 2名

【部署の特徴】

当院外来は内科・外科・整形外科・泌尿器科・循環器内科・脳神経内科・リハビリテーション科・精神科と8診療科に分かれており、看護活動を行っています。患者の症状を聞き取り、診療科を選択する相談や診察時の介助、採血、検査説明や検査介助、治療内容や入院説明、その他様々な業務やケアを実施しています。

外来は患者が病院に来て最初に足を踏み入れる場所であり、初めて医療従事者に接する場所でもあります。その為、安心して診療や検査を受けて頂けるように看護スタッフは患者の話をよく聞き、よく見る事を心掛けています。また、自身の看護知識・技術の向上を目指し、多職種とも連携し「質の高い継続した看護」が提供できるよう日々努めています。

【実績】

令和4年度外来患者数

科別	外来患者延数(人)
内科	23,719
外科	2,230
整形外科	43,517
泌尿器科(透析科含む)	16,283
精神科	747
循環器内科	7,562
脳神経内科	5,677
リハ科	330
総計	100,067

令和4年度内視鏡・化学療法件数

内視鏡検査	1,271
内視鏡手術	215
化学療法延件数	389

令和4年度 発熱外来患者数

発熱外来患者数	1,351
---------	-------

【令和4年度の取り組み】

「チーム力・組織力UP!!」を目標に継続的な看護の提供、入退院時の支援・対応力強化、看護の知識・技術の向上に向けて取り組んできました。継続されたカンファレンスの開催や意思決定に関わる看護記録は前年度より充実しており、多職種による倫理カンファレンスも実施することができました。看護対応力の強化として、救急対応・災害対応訓練を実施する予定でしたが、長引くコロナ禍の影響により行うことができませんでした。今後も外来という流動的な環境の中でも継続可能な活動を模索し、知識・技術の向上と対応力強化を目指していきたいと考えています。

【今後の目標】

継続された看護の提供を目指して、退院支援に関わる多職種カンファレンスに参加し、病棟・外来間における継続看護を行っていきたくと考えています。さらに外来においても看護計画を立案し、患者さんに寄り添った個別性のある看護の実践を目指します。

文責 看護係長 中山 祐子

SAKURA・桜・さくら

外来看護課 本間 未知

私は桜が好きだ
ソメイヨシノは淡いピンク色の花で可憐だ
八重桜は濃いピンク色の花がぼんぼりのようになっていて可愛い
花より団子とよく耳にするが、私は花も団子も大好物だ
北海道の長い冬の中、毎年2月下旬からスタバのSAKURAフラペチーノが発売になる
フラペチーノを飲みながら、春を待ち遠しく思う
3月になると、店頭では和洋と桜をモチーフとしたお菓子が次々と並び、ペットボトルのお茶やビールまでもが桜に彩られ並んで来だす
100均では桜コーナーが設けられるほどである
桜好きの私の心は、あれもこれも欲しいとウズウズしてくるのだ
2月から4月にかけて、桜貧乏生活突入となるのは毎年のこと
桜好きを知る友達からのプレゼントも、大喜びでいただいている
雪降る現実の中、早く桜咲かないかなあと春を待ちわびている
街路樹の木々が芽吹き、桜の木が何となく赤っぽく見えてくるとワクワクしてくる
毎日の見慣れた景色も桜が、三分咲き・五分咲きと少しずつ彩られてくると特別な景色となる
今年は、小樽中央小公園に何度も立ち寄った
南小樽駅の桜も天上寺の桜もすばらしい
住吉神社の桜と花手水のコラボは見ものである
笑っているような顔の狛犬と桜は、心穏やかにほっこりするので私のおすすめです！
どこの桜を見に行っても、必ず先客がいて沢山の人が笑顔で見物している
みんなを笑顔にし、ほっこりさせる桜って可愛いのにすごいなあと思う
今、初夏を迎えカフェで、まだメニューに残っていたことに喜びを感じながら、桜のパフェを食べ来年の桜に思いをはせている



桜味煎茶とねこ



さくらと狛犬さん



幻の桜パフェ

腰椎椎間板ヘルニアと、編み物と、最近…腱鞘炎

外来看護課 渡邊 詩子

済生会に勤務して30年弱がたちました。27年間勤務した手術室を離れ、外来に来て1年半が過ぎました。

少しずつですが、外来業務にも慣れ、患者さんと笑顔で接することを心がけ、時間に追われ、忙しさから余裕がないと自身で感じることもあります。が、「外来看護」・「外来看護師の役割」を意識しながら、勤務しています。

そんな中、思いもよらぬ出来事が、、、

それは、今年の2月のこと、、、元々、腰痛もちで薬を飲んでいたのですが、いつもとは違う痛みが私の左足を襲いました。病名は外側ヘルニア、痛みはスケールで12（いえいえ10までですよ笑）くらいはあるだろうと思うほどで、歩くことも、立っていることも辛い日々、、、泣きたくなる痛さと、足をもいでくれ—————いと思ってしまいました。自宅での療養となり、動かたくても動けず、縦にもなれず、横で過ごすことが多くなってしまい、それでも何かしたくて、、、うずうず、、、家にいるネコずに癒されながら、編み物をすることに。

すると、なんとということでしょう！編み物が楽しくて！楽しくて！できていく物が増えていくうちに、もっともっと楽しくて^-^

携帯ケースやポーチ、コースター、バックなどなど、どっぷりハマってしまいました。そんなこんなで、下肢症状も少しずつ良くなり、仕事に復帰しましたが、今度はまさかの右母指痛出現です。

♪♪悲しき現実、腰の次は母指、編み物での腱鞘炎到来・襲来、病院に往来、気分はAll Right、整形疾患万歳、Ah Yeah！！（韻・踏んでみました笑）
♪♪

今後の目標は、リハビリと自主トレを頑張って、渡辺直美のようにキレッキレでビヨンセを踊りたいと思います！髭内さん、お願いします^-

毎日、あっという間にすぎ、患者さんにできることが何かと考えながら、次は何を編もうかと考えながら、美味しいものを食べることを考えながら、楽しく過ごしていきたいと思っています。

写真は白黒で残念です（T T）カラーで見たい方、小物が欲しい方、整形外来 渡辺まで
おいしいものと交換で笑 ビックマックでも可
（仲介人 早川）



愛するものたち

透析看護課

【スタッフ】

松江知加子	看護課長
本間美穂子	看護係長 フットケア指導士
井上 晶子	看護係長
看護 師	6名（慢性腎臓病療養指導看護師1名）
看護補助者	3名

【部署の特徴】

当院透析室では、末期腎不全患者さんの透析導入から維持透析まで継続して血液透析治療を提供できる施設です。透析室内に25台の透析監視装置を有し、最大75人の透析患者さんに対応することができます。また、4B病棟内に透析用個人機を2台配置し、新型コロナウイルス感染患者さんへの透析も対応可能となっています。

透析看護課は一生涯続く透析治療を受ける患者さんへ、身体面、心理面、社会面など患者さんが安心して生活を続けられるためのサポートを、医師や臨床工学技士などの多職種と協働しながら行っています。

【令和4年度の取り組み】

令和4年度部署目標

1. 患者を生活者として捉えた看護計画を立案し、患者に合った看護を提供する
2. 多職種連携でリーダーシップをとり、外来透析を支援する
3. カンファレンスの進め方、内容を検討し、チームワークよく業務を効率化する

全国的にみても透析患者さんの高齢化は著しく、当透析室でも65歳以上の高齢者の割合は73%であり、令和4年度に新規に透析を始めた人のうち67%は後

期高齢者となっています。加えて独居、高齢夫婦世帯、認知症を有するなど、透析通院をしながら住み慣れた家で暮らすことが困難となる患者さんが年々増加しています。患者さん、ご家族、ケアマネやヘルパーなど多職種とも情報を共有し、患者さんが安心して透析通院を継続できるための援助を私たち透析看護師は行ってきました。受け持ち看護師が中心となりチームメンバー全員で、透析患者さんの思いを尊重しながら望んだ生活を送り続けることができるよう、これからも引き続き取り組んでいきます。

前年度から引き続き新型コロナウイルスが蔓延している中、当院の透析患者さんにも感染者が出るようになりました。以前は新型コロナウイルスに罹患した患者さんは、小樽市立病院へ入院し透析を受けていただいていたのですが、令和4年度は院内コロナ病棟内に透析用個人機を設置し専用の治療環境を整備しました。新型コロナウイルスの治療を行いながら、慣れた透析スタッフのもと透析を受けることができ、患者さんの安心感につながったのではないかと思います。また、当院の透析患者さん以外にも他施設からの受け入れ実績が1例ありました。

【今後の目標】

今後も、透析患者さんの生活を影となり日向となり支えていく、頼れる伴走者でありたいと願っています。少ないスタッフ数の部署だからこそ、協力し合い、相談し合い、お互いの良さを認め合いながら、日々の看護に努めていきたいと思っています。

文責 看護係長 本間 美穂子



高校生から社会人へ

透析センター 岩間 広佳

地元は、岩内町、高校は倶知安農業高校出身です。高校を卒業し、この度ご縁があり私は透析室の看護助手として勤務が決まりました。

長い学生時代に幕を閉じ、社会人へ。働いていると、学生時代を、ふとした瞬間に思い出すことがあります。入学式の思い出や、学校生活の日常、部活動に励んだ日々。特に印象に残っているのは、高校生の時の思い出です。花、家畜の肥育、野菜、食品加工、販売など、自分たちの専門分野で大会や、商品販売、地域交流などに勤しんだ3年間。期末や中間テストとの農業学習の両立はとても大変で畑から校舎まで走って往復していました。悩んだり、笑ったり、泣いたり、時には担任の先生と衝突することもありました。今では、笑い話です。ここには書けないくらい12年間の学生時代は、濃い時間だったと感じています。

最近では、家族との会話が変わってきました。家族構成はというと、母、父、妹2人、弟1人、祖母、そして、長女の私、といった家族構成です。「最近、仕事順調かい?」「ひろか体調大丈夫か?」「今日の仕事は、どうだった?」と聞かれることも増えました。この何気ない、会話の中に温かさを感じます。家族がどれだけかけがえのない存在かというのを社会人になり実感しました。

家を出るとき「いってらっしゃい」といつも言ってくれる祖母。この言葉が私を、元気付けます。それだけでは、ありません。透析患者さんからの挨拶です。患者さんが、1番最初に対面するのは私です。「おはよう」「今日もよろしく」とときには「今日も頑張っているね。見ていると元気が出てくる」患者さんからの温かい言葉や挨拶で私も元気がでます。

私は、穿刺や、輸血、薬品を扱うことはできません。ですが、看護助手にしか出来ないことや、発見もあります。看護師と患者さんの架け橋となることです。

まだまだ、未熟な私。皆さんとの関わりを大切に、毎日業務に励みたい。そう思いながら、成長できるよう頑張っていこうと思っています。



手術・中材看護課

【スタッフ】

谷川原智恵子	看護課長
臼杵 美花	看護係長
佐々木雪絵	看護係長
スタッフ	8名
臨床工学士	3名

【部署の特徴】

当手術センターは、今年度、手術室勤務経験者の採用がされた。それにより、スタッフの層も厚くなって来ました。

患者を1番に考える看護、安全に手術が受けられる環境作りを目指しています。

手術前訪問の実施に向け時間調整等を行い患者の元に行くという目標をたてました。

まだまだ十分ではありませんが患者の不安を軽減し手術に望める看護が少しずつ行える様になりました。行った看護が見える記録をすることも目標としました。

断らない医療の実践の中、553例の臨時手術もありました。

【実績】

今年度の手術件数は、1490例（整形外科:1126件、外科：160件、泌尿器科：204件）

コロナ禍であり手術の調整を行いながらではありますが手術件数が減少することはありませんでした。COVID患者の手術も2件行いました。マニュアルの整備を行いながら試行錯誤しながらの対応でしたが患者にとって待機せず手術ができたことは、私たち看護師も達成感を持つこともできました。

術前訪問の実施率は、30%から50%を目指しましたが38%にとどまりました。

【令和4年度の取り組み】

手術前訪問、看護計画立案、カウント業務の完全実施を目指します。

手術前訪問の実施は、少しずつ行えるようになりましたが看護計画につなげていくことは、できませんでした。今後の継続課題として取り組んでいかなければなりません。

カウント業務のプロジェクトを立ち上げ完全実施に向け活動計画を立てています。

他職種での業務の中、カンファレンスの実施にも取り組んでいこうと思います。

【今後の目標】

- ・カウント業務も完全実施
- ・手術前、後訪問の実施、看護計画立案
- ・タスクシフト・シェアの業務整備

文責 看護課長 谷川原 智恵子

手術室について

手術室 木村 明香梨

私は看護師になって6年目、当院に来てから1年が経ちました。病棟経験はなく新卒から手術室で勤務しています。友人などに手術室勤務だと伝えたと百発百中で「メスって言われて渡すやつでしょ!!」と言われます。世間的に手術室はそういうイメージなのです。きっと他部署の皆さんも手術室は閉鎖的で何をやっているかわからない、帽子とマスクをしていて目しか見えてないし怖いな・・・と思っている方も多いのではないのでしょうか。

今回は少しだけ手術室についてお話したいと思います。手術室看護師は直接介助と間接介助の2つの役割があります。直接介助は器械出しと呼ばれ、手術がスムーズに行えるよう流れを読み、医師に器械を渡しサポートします。一度手を洗って清潔になってしまうと腰より上胸より下の範囲でしか手を動かすことができず、滅菌された清潔なものしか触れません。ですので、疲れてきた足を叩いてほぐすのも足、床に置いてあるものを動かすのも足を使うので手術室で働くと足癖が悪くなると言われています。

間接介助は麻酔介助や患者さんの全身状態の観察、

看護記録の記載、術野に追加物品を出したりなど清潔野以外の業務を行います。ドラマなどで見かける医師の額の汗を拭くのは間接介助の役割です。

このように様々な業務を行う中で私が考える手術室の1番の魅力は、患者さんがよくなる瞬間に立ち会えることです。腫瘍を切除したり、折れた骨を元に戻したり患者さんはここからよくなっていくのだな、というのが間近で感じることができます。患者さんにとって人生における一大イベントの手術ですが、全身麻酔で手術をすると入室しすぐに麻酔をかけ、退室時も麻酔で意識が朦朧としているため、手術室スタッフのことは記憶に残らないことも多いです。しかし、忍者のように正体を知られず任務をこなす感じがカッコいいと思ったりもします。

長時間手術の器械出しの担当になると5時間飲まず食わずで立ちっぱなしなんてこともあり、足は浮腫むし、のども渇くし、顔が痒くても掻けないし、トイレにも行けない・・・もちろん辛いこともありますが、そういう時の仕事終わりに飲む一杯が格別なもの魅力の一つなのかもしれません。

まだまだ伝えたいことはたくさんありますが、これを読んで少しでも手術室に興味をもってもらえたら嬉しいです。

わからないことばかりですが、頼もしいスタッフと力を合わせ日々精進していきたいと思います。

地域看護課

【スタッフ】

松江知加子	看護課長（透析看護課長兼務）
千坂あかね	看護主任（～7月）
今野 晶子	看護師
尾垣 華誉	保健師・看護師（8月～）

【部署の特徴】

地域看護課の役割は主に、入退院支援・調整、在宅療養支援です。院内外の高職種と連携・協働し、患者・家族へよりよい看護・医療を提供することを目指して、病気との付き合い方、生活上の工夫、地域サービスの利用などの情報提供、相談・調整を行い、患者・家族ができるだけ自分らしく療養生活を送ることができるような支援を目指しています。

【実績】

入院支援実績 総数353件（4月～3月）

	入院支援介入数／ 予約入院数	介入割合
整形外科	237人／751人	31.5%
泌尿器科	55人／217人	25.3%
外科	61人／155人	39.3%

【令和4年度の取り組み】

地域看護課では令和元年から入院支援を開始しており、科の拡大を経て今年度も昨年同様に外科系3科（整形外科、外科、泌尿器科）の手術予定患者さんの入院支援を実践しました。入院支援は入院時支援加算の算定に繋がりますが、予定入院は比較的自立した患者さんが多く、入退院支援加算の合算である本加算の算定割合は入院支援総数の5.6%でした（7～1月）。

入院支援は外来診療後に行うため時間的に集中し、介入する患者さんがある程度選定する必要があります。そのため、高齢者や独居など退院支援の必要性が高い方や複合的に疾患を持つ方、入院生活に不安をもっている方などに優先的に介入してきました。また、休日入院や入院当日に手術が行われる患者さん等に可能な限り介入し、患者さんのみならず病棟の負担軽減に繋がるよう尽力して参りました。

また、今年度は人員の入替にて退院支援の経験者が不在となり退院支援は休止致しました。同時に、数年

継続していた在宅看護学実習の受け入れも休止とさせていただきます。

さらに、4月に看護課長が交代、かつ他部署との兼務でした。年度途中に退職者もあり一時期は看護課長とスタッフ1名の2名体制の時期がありました。そのような中、前任者にて設定されたアクションプランを手探りながら実践して参りました。看護課長が兼務部署へ行き不在がちの中、新たに迎え入れた新入職員はベテランスタッフの丁寧なサポートのもと、めきめきと成長してくれました。今ではとても頼りになる有能な実践者となっています。

【今後の目標】

入退院支援部門の一つとして、今後は休止している退院支援に取り組んでいくことが重要と考えますが、病棟スタッフにおいても退院支援が実践されている今、地域看護課が行うべき退院支援の在り方について再考していく必要があると考えています。

さらに、安心した入院生活を送っていただけるよう入院支援を継続すると共に、患者さんが望む暮らしの形に少しでも近づけるようその思いに寄り添い、入院前から退院後の生活を見据えた地域につながる看護を提供していきたいと考えます。

当部署の強みは“良好なコミュニケーション”です。この強みを武器に、今後も皆で話し合い、協力しながら進んで参ります。

文責 看護課長 松江 知加子



教育看護課

【スタッフ】

浅田 孝章 看護主幹

教育委員会

委員長：浅田孝章（看護主幹）

委 員：岡本麻理、佐藤悦子（以上課長）

白杵美花、中山祐子、砂川友紀、小野智子
（以上係長）

新人教育検討委員会

委員長：兒玉真夕美（課長）

委 員：浅田孝章（看護主幹）、吉田真知子、
本間美穂子、中山優子、白杵美花、
斎藤亜妙、佐藤由紀枝、丸岡貴子、
宮下めぐみ（以上係長）

【部署の特徴】

教育理念「済生会の看護理念を理解し、安全で安心できる質の高い看護を提供できる看護師を育成」のもと、一人ひとりにあわせた、臨床現場で活かせる研修

を行うため、教育委員会と新人教育検討委員会が中心となり「新人研修」と「ラダー研修」の2本柱で1年間計画的に研修を企画・運営・評価を行っています。

新人研修は、基本的な看護技術を早く習得できるように演習を多くし、研修後個人練習、個人指導を行える体制を整え、職場でのリアリティショックが少なくなるよう工夫しています。また、新人指導プログラムの進捗と、メンタル面の変化に合わせ、新人に寄り添う研修で1年間の成長をサポートしています。

ラダー研修では、高度な社会のニーズに応えられる看護職員の育成を目指し、理念や基本方針に基づき体現できるように、看護実践（クリニカル）の能力に焦点化した4つの力（ニーズをとらえる力・ケアする力・協働する力・意思決定を支える力）と、済生会の組織人として幅広く看護実践の研鑽と積み上げができるよう研修を組み立てています。また、院内の研修にとどまらず済生会本部研修(東京)、看護協会の研修など院外研修の参加も、積極的に支援しています。

【実 績】

	研修時間	研修参加人数
新 人 研 修	156時間00分	9名(看護師8名、准看護師1名)
ラダー研修	80時間00分	ラダーⅠ：28名 ラダーⅡ：21名 ラダーⅢ：20名

令和4年度ラダー研修 参加者一覧											
ラダー レベル	院内ラダー要件研修	部署	3A	3B	4A	4B	5B	外来	地域看護	透析室	手術室
Ⅰ	看護過程④ (2022/5/12 PM 延期 →2022/9/16 PM)	工藤 祐華		葛西 翔暉	北村 光	磯部 真奈 久保 茂栄 三浦 優花 浜田 由希 坂東 夕維					野 達也
	メンバーシップ② (2022/9/28)	工藤 祐華		宮本 洋祐		三浦 優花 久保 茂栄 磯部 真奈 浜田 由希 坂東 夕維					木村明香梨
	フィジカルアセスメント① (2022/8/2 PM)	松永 菜々 工藤 祐華	山下 夕希	葛西 翔暉 宮本 洋祐 山谷香菜未	林 裕美子	久保 茂栄 坂東 夕維 磯部 真奈					野 達也
Ⅱ	フィジカルアセスメント② (2022/10/5PM)	小野 慧佳 田中 幸希	田村 政了	澤田 涼子		清水 美空	早川恵美子				
	看護過程⑤ (⑤-1 2022/6/8) (⑤-2 2022/8/19PM)	安藤 優花	本間 沙羅	野上 麻里		清水 美空					松木まさき
	リーダーシップ① (2022/7/7) 実践報告会 (2022/12/1・8)	田代 季 増田 沙織	馬場くるみ 太田 聖子	澤田 涼子 野上 麻里		小松田まどか 金田 匡代			高橋 知子	中村 美幸	
Ⅲ	退院支援② (2022/7/14PM) 実践報告会 (2022/11/1)	見澤 早苗	小路 深雪		青木 昭人	石田ゆかり 田中詩緒梨	渡邊 詩子			安達奈那子 山口 千恵	
	リーダーシップ② (②-1 2022/6/2PM) (②-2 2022/7/25PM) 実践報告会 (2022/10/24 PM延期→ 2022/12/8)	福島 陽子		平元 昌恵		浅香 香織 渡辺 瑞季			田中 葉子		
	看護倫理 (2022/6/22) 実践報告会 (2022/9/26PM)	柴田 祐希	佐々木知美	成田 若菜	渡邊千恵美	藤林茂鈴恵	沼山奈緒美			山口 千恵	

【令和4年度の取り組み】

1. 新人看護職員入職時研修

新人看護職員のリアリティショックの軽減、職場適応を促進し、早期離職防止、臨床で指導をする看護職の負担軽減を図ることを目的として、入職後すぐに部署へ配属するのではなく集合研修を実施しています。

昨年度は、入職時研修を10日間かけていましたが、OJTでの取り組みやコロナ禍で感染対策上、集合研修も難しいこともあり入職時研修の日程を見直し、4月4日(月)～8日(金)の5日間で実施しています。

今年度は新人9名が入職し、入職時研修から配属部署の実地指導者と関わることで新人と良い関係性を構築することに繋がったと思います。

2. 新人研修

新人研修は新人看護職員研修ガイドラインをもとに、当院の「新人看護職員指導計画」に合わせ研修計画を立案しました。今年度は、コロナ禍で研修が延期や中止となることがありましたが、日程を調整しながら、ガイドラインに沿った技術演習を実施できています。退院支援の研修は中止となりましたが、研修担当者と部署が連携を図り、OJTで取り組んでいます。4月は入職時研修の他に2回、5・6・7月も月に2回研修を企画し、新人同士が交流を持ち、お互いの成長を確かめ合う場ともなりました。

3. ラダー研修

ラダー要件研修として、ラダーレベルⅠ～Ⅲ毎に3テーマずつ研修企画しています。Ⅳ・Ⅴについては外部研修を活用していくことになっています。昨年度の

評価を基に担当者が中心となり内容を見直し、OJTに繋げていくために実践研修を多く取り入れていきました。また、監督職にも実践での指導を協力依頼して取り組みました。

コロナ禍で日程を変更することもありましたが、ZOOMの活用を試みたり工夫しながら、ほぼ計画通りに実施できました。

4. なでしこサポートルームを開設

昨年度から新人職員のリアリティショックを緩和するために、なでしこサポートルームを設置しました。3ヶ月毎の面談、毎月のアンケートを実施し、さらに面談前にアンケートを実施していましたが残念ながら、昨年度新人の離職率は44.4%で高く早期離職の軽減には繋がりはしませんでした。しかし、そうしたリアリティショックを軽減していくための関りは必要であり、今年度も継続していきたいと思います。

【今後の目標】

リーダーシップの発揮や看護過程の展開について課題があると考えます。教育と管理が同じベクトルに向いていくことが継続教育で重要です。構造化していったものを見直し、再確認していくことも必要で、PDCAサイクルを回していかなければなりません。課題は山積みにはありますが、教育と管理で課題を共有し、最終目標をどこに設定するかの結果点を決め、できるところから一つずつ取り組んでいきたいと思います。

文責 看護主幹 浅田 孝章



ラダーⅠ フィジカルアセスメント研修①



ラダーⅢ 看護倫理 実践報告会



新人研修 点滴静脈内注射研修



新人研修 救命救急処置技術

事務部

■ 総 括

【事務部の体制】

(組織体制)

- ・管理事務室：総務課、経理課
- ・医療支援室：医事課、地域連携課、
医療クラーク課、健康診断課
- ・情報システム課
- ・院内保育所

(職員数)

正職員 46名 (内、保育所 1名)

常勤雇用契約職員 29名 (内、保育所 4名)

非常勤雇用契約職員 21名 (内、保育所 7名)

計96名 (内、保育所12名)

(役職者)

部長 1名、室長 2名、課長 3名、主幹 1名、
係長 2名、主任 10名

(主な保有資格)

診療情報管理士、社会福祉士、精神保健福祉士、社会
保険労務士、医療クラーク、医療メディエーター、医
療経営士、医療情報技士、保育士、看護師

※令和4年3月31日現在

【令和4年度の取り組み】

令和4年度は「コロナ診療と一般診療の両立、with
コロナ・postコロナへの対応と備え」を戦略テーマ
として以下の事業計画を策定し取り組みました。

1. 学習と成長の視点
 - ①病院理念・ビジョン、事務部理念の浸透
 - ②職員個別の力量評価・研修計画
 - ③標準的な業務の把握・習得
 - ④業務の棚卸・課題の見える化
2. 内部プロセスの視点
 - ①DXによる院内ビジネスモデルの変革
 - ②令和4年度病院事業戦略の実行
3. 顧客の視点
 - ①職員満足度の向上
 - ②患者満足度の向上
 - ③地域満足度の向上
4. 財務の視点
 - ①安定経営

令和4年度計画策定当初はコロナの収束・通常診療
への移行を想定していましたが、結果として令和4年

度は7月から第7波、11月末より第8波の大流行が
あり、当院では院内クラスターが発生しないよう感染
対策を図りながらコロナ診療と一般診療の両立に注力
する一年となりました。

一方で令和6年度からスタートする医師の働き方改
革の対応、ポストコロナを見据えた準備として、定型
的な業務を電子化・自動化することによる生産性の向
上、医療の質の向上につなげるようDX推進を本格的
に進め始めた一年でもありました。

医師の働き方改革に関しては、勤務実態の把握、業
務・自己研鑽の把握の電子化を開始しました。DXの
推進に関しては、まずは定型的な業務の電子化、自動
化を計画的に進めることとし、タブレット問診、通院
支援アプリ（検査結果の閲覧、会計後払い等）、地域
連携システム、感染管理システム等を導入しました。

【今後の目標】

今後、新型コロナウイルス感染症は5類感染症に分
類され、病床確保など国の対策も縮小、終了が見込ま
れます。感染対策を行いながらも医療機関に関しては
補助金に頼らない運営が必要不可欠となります。また、
令和6年度には医師の働き方改革がスタートしま
す。これらを乗り越えるには、医療DXによる働き方
改革・仕組みの改革が急務であり、引き続き取り組ん
で参ります。

文責 事務部長 五十嵐 浩司

管理事務室

総務課

【スタッフ】

蝦名 哲行 課長（管理事務室長兼務）
 秋元かおり 人事・給与グループ、臨床研修・秘書グループ（主任）
 内山 泰男 人事・給与グループ（主任）
 小野 翔平 人事・給与グループ、臨床研修（主任）
 石橋 慶悟 庶務グループ（主任）
 川畑 有香 庶務グループ、臨床研修・秘書グループ
 中川 雅美 庶務グループ
 吉田 理恵 臨床研修・秘書グループ
 成田 明美 電話交換グループ
 寺島 光代 電話交換グループ
 吉田 悦子 電話交換グループ
 神山 拓也 施設管理グループ（主任）
 豊川 哲康 施設管理グループ
 坂井 駿介 施設管理グループ
 古田 順一 施設管理グループ
 松原 明 施設管理グループ
 《委託職員》 中央監視スタッフ 3名（夜間・休日）
 警備スタッフ 5名（夜間・休日）

【部署の特徴】

総務課は、大きく4部門に分かれて業務を行っております。

- ① 人事管理、労務管理、給与計算、文書管理、庶務関係
- ② 臨床研修事務、医局秘書業務
- ③ 電話交換、防災センター業務・窓口受付、制服の在庫管理
- ④ 施設管理、法定検査・自主検査の計画及び実施、備品の点検・修繕対応、中央監視室・防災センターの管理、委託業務の管理

【実績】

常勤職員数の推移

（単位：人）

区分	令和2年4月	令和3年4月	令和4年4月
医師	25.8	26.4	28.4
看護師・准看護師	165.8	177.4	177.6
看護補助者	49.2	45.9	43.9
医療技術職	110.0	111.1	113.3
事務職員	66.3	71.7	66.0
その他職員	24.0	21.9	25.6
合 計	441.1	454.4	454.8

光熱水使用量実績

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
電気使用量(kWh)	2,531,846	2,544,260	3,253,294	3,397,594	3,295,762
ガス使用量(m³)	384,411	390,815	526,559	579,137	552,925
水道使用量(m³)	31,708	31,796	35,776	41,086	41,277

※令和3年9月以降、みどりの里増築棟光熱費含む

【令和4年度の取り組み】

○労務管理業務の効率化と新制度への対応

- ・新勤怠管理システム「勤次郎」導入
打刻システムにより、客観的な出退勤時間を把握、給与ソフトへの取り込みによる給与計算一部自動化、出勤簿のペーパーレス化、職員の在院状況の把握、院内統一の勤務表、様式9の自動化の実現、職員が利用しやすい環境構築の為にメーカー交渉、有休取得率の把握、看護休暇・介護休暇の時間単位年休取得、緊急連絡先の把握
- ・職員満足度調査の実施
- ・ストレスチェックの集団分析の実施
- ・対象職員への生活習慣病予防健診の実施
- ・保健師による無料の特定保健指導の実施
- ・新型コロナウイルス感染症に関する職員周知
 - ▶受入体制情報の外部提供禁止について
 - ▶職員本人及び家族発熱の際の対応について
 - ▶対応職員の手当等について

○研修管理体制の強化

- ・専門医制度内科専門研修プログラム
2名開始（令和4年4月）
- ・初期臨床研修（たすき掛け）
1名開始（令和4年4月）

○電話交換業務の更なる応対力の強化と顧客サービスの向上

- ・「不審電話対策マニュアル」の院内周知

○施設管理

- 《法定点検》
建築設備定期報告
消防設備点検（総合点検、機器点検）
防火対象物点検
防災管理定期点検
簡易専用水道検査、受水槽清掃
作業環境測定（ホルムアルデヒド、エチレンオキシド）
煤煙測定（冷温水発生器2基、温水ボイラー1基）
事業場排水測定結果報告
医療ガス設備点検
第一種圧力容器性能検査（貯湯槽2基、滅菌機2基）
非常用発電機負荷試験
- 《その他》
自衛消防訓練の実施（年2回）
備蓄飲料水の更新
送迎バスの入れ替え（新規リース契約・旧車両売却）
送迎バスダイヤ変更
正面道路アスファルト修繕工事
冷温水発生器冷媒配管交換工事

院内保育所の非常災害対策計画の策定

インフラ長寿命化計画の策定

暴力対応マニュアルの更新

【今後の目標】

令和5年度では新型コロナウイルス感染症が5類移行されるため、学生の病院見学の受け入れや講演会等のイベントの再開が予想されます。今後はそれら対応について、関係部署と横断的な連携を行い、スムーズに開催できるよう努めたいと考えております。また令和6年度に施行される医師の時間外・休日労働時間の上限規制（医師の働き方改革）に向けて、勤怠システムの見直し、または更なる活用を行い、現状の医師の業務負担の軽減を図って参ります。

次年度も、外部との調整や病院組織の適正な管理など、多岐にわたる業務について丁寧に対応していき、「信頼される総務課」として柔軟な対応を心掛けて参ります。

文責 事務主任 石橋 慶悟

部署異動と2人の子育て

総務課 小野 翔平

令和4年度を振り返ると仕事・プライベート共に大きな変化があった年でした。

私は令和元年に済生会小樽病院へ入職し、用度購買グループ・医事課と経験をしてきました。そして令和4年度10月より総務課へ異動となり、人事・給与グループの担当となりました。

総務課へ異動となって令和4年10月に第2子誕生もあり、個人的にはかなり慌ただしい時期でした。医事課への引継ぎ、総務課での新しい業務の把握、家に帰った後は新生児と3歳のお姉ちゃんの子育てでなかなか眠れない時期もありました。

でも家に帰ると慌ただしく、バタバタした時間の中にも2人の子供から癒しがあったり、毎日いろんな発見があったり楽しいことも見出すことができ幸せな

気持ちでした。

1つ、我が家に赤ちゃんが産まれるにあたり心配だったことは3歳のお姉ちゃんが赤ちゃん帰りしないか妻と心配をしていました。

出産後、妻と赤ちゃんが退院して初めてお姉ちゃんと対面したときは恐る恐る接していた感じで、夜寝るのが遅くなったり少し不安なこともありましたが、次第になれてきてオムツを持ってきてくれたり、泣いてるときやミルクを吐き戻しているのを見て「パパ、ママ大変だー!」と大慌てで教えてくれたり、とても頼りがいのある素晴らしいお姉ちゃんになってくれました。

今では下の子はいつもお姉ちゃんをニコニコしながら見つめていて、仲のいい2人で妻も私も安心していきます。職場の皆さんには子供の通院や幼稚園行事などでお休みをいただくことも多く迷惑をかけていますが、総務課として職員の働く環境の整備や業務を効率よく行うために日々仕事もプライベートも努力したいと思っています。



経理課 経理グループ

【スタッフ】

氏 名	役職名	職 責
蝦名 哲行	管理事務室長	現金保管責任者
堀 博一	事務課長	固定資産管理担当者
佐藤 緑	事務主任	出納員

【部署の特徴】

主な業務は、出納（現金・預金の管理）、旅費計算、会計システムへの入力・帳票の作成、郵便物の発送、予算・決算業務、借入金、経営分析、財務諸表作成、未収金管理、固定資産管理など 病院の『資産』に関する業務全般となります。

令和4年度も、昨年度と同様に 新型コロナウイルス感染症に関する補助金の入金管理やWebによる会議や各研修会の開催など例年とは違った1年となりました。

【実 績】＜令和4年度 経理課関係行事＞

- 4月 令和3年度決算報告、支部監事監査
- 5月 令和3年度消費税報告、支部理事会
- 6月 令和3年度法人税報告
- 11月 済生会本部業務監査（新型コロナウイルス感染拡大の為延期）
- 11月 有限責任監査法人トーマツ訪問往査
- 1月 支部理事会(令和4年度事業計画、予算)
- 2月 済生会本部業務監査
- 3月 有限責任監査法人トーマツ訪問監査

【令和4年度の取り組み】

以前からの目標である月次決算・集計・分析作業等の迅速かつ正確に行えるよう業務の平準化、簡略化、作業分担の見直しなどにより他部署との連携強化さらに時間外勤務の減少など成果がみられました。

特に月次決算の処理については業務システムと日程の見える化によるスピード戦略を行い適正な処理を進めてきました。また、未収金の各部門との調整を図り整合性をとれる金額を確認できるまでとなりました。

【今後の目標】

人事異動による業務効率の低下がある事を踏まえた詳細な業務マニュアルの作成、業務の可視化、さらに作業効率を考えた自動入力システムの構築を進め日常業務を軽減し経営管理と経費の増減を分析できる環境を構築する事が当面の課題と考えます。さらには今年インボイス対応請求書や電子帳簿保存法に対応するシステム構築を考えていきます。

文責 事務課長 堀 博一

【スタッフ】

堀 博一	課長
木村 卓司	係長
土谷 浩大	
荒木亜由美	SPDスタッフ
碓井あさこ	SPDスタッフ
山澤 啓子	SPDスタッフ
本間 佳歩	SPDスタッフ
須貝 洋子	SPDスタッフ
吉田 有希	SPDスタッフ

【部署の特徴】

購買業務を主とし、SPDスタッフと共に各部署で使用する診療材料、医薬品、日用品などの物品管理・院内配送・受発注を行っています。

その他、売買契約、保守・委託契約の窓口として、各部署と調整し取引業務の最前線で日々業務を担っております。

また、各部署の業務改善や患者サービス向上に向けた取り組みのサポートを行う部署です。

【実績】

診療材料購入実績：376,628千円

医療機器・器具備品購入実績：25,339千円

医薬品購入実績：300,181千円

入札実績：

令和4年 6月 給食業務

令和4年 7月 一般X線撮影装置(第1撮影室)一式

令和4年11月 デジタルX線テレビ室1更新

令和4年11月 地域連携システム

令和5年 3月 麻酔器更新

【令和4年度の取り組み】

未曾有の感染症、新型コロナウイルスの影響から、物品供給不安定は継続し、欠品や代替品対応の調整が

続きました。

新型コロナウイルス時代4年目を迎え、withコロナに向けた国の方針も示されましたが感染の脅威は収まらず、当院でも感染対応が続きました。

今年度も、重点医療機関として、より強固で安全な医療体制を担うため、補助金を活用した医療機器の購入も多くあり、大型医療機器の整備を行いました。

また、昨年同様、PPE用品の購入量が増加しており、物品の安定供給を第一にICTはもとより、各部署の協力があり、乗り切ることが出来ました。

契約関係では、患者給食業務委託の更新があり、当院では初の試みとなる総合評価落札方式一般競争入札を実施しました。

患者満足度の向上や質の担保を目的とし、価格面と技術面を評価し、業者選定を行いました。

結果、委託業者変更など、切り替えに係る部署への負担は大きいものでしたが、部署長をはじめ、しっかりと対応頂き、患者様への影響が最小限となったことは、大変誇らしく感じます。

今回、契約に係る委託業者へ競争力を促せたこと、当院の柔軟な対応を経験したことで、次回の契約に活かせることは当院にとって大きな利益をもたらしました。

【今後の目標】

用度購買部門は、多種多様な業務を担当することが多くあります。

先に述べた通り、特に他部署の協力無くしては、成せない案件が多く、各部門間のパイプ役として調整力の重要性について意識を持ち業務に取り組んで参ります。

また、全体把握を行った上で、判断する必要があり、情報収集を怠らず、適切な対応を心掛けます。

次年度は、病院経営に影響するコスト抑制に対し、費用削減についても一層取り組んで参ります。

文責 事務係長 木村 卓司

医 事 課

【スタッフ】

村上 義明 課長
 森 雅之
 平澤 慎吾 診療情報管理士 医療経営士3級
 伝法 俊和
 館林くるみ
 太田 歌子
 小泉 幸代
 世戸 収子
 本間 美江
 (その他 雇用契約職員7名)

【部署の特徴】

患者様が病院を受診する際に最初と最後（受付と会計）に係わりを持ち病院のイメージにも大きく影響する部署です。きめ細やかな対応はもちろんのこと苦しい立場である患者様によりそい診療部門や看護部門等とは違ったサービスを提供していく部署になります。

また、医事課は院内で行われる医療行為を診療報酬請求ベースに医療収入へ置き換える中心的な役割があり病院経営にとっても重要な業務を病院全体と連携し担っています。

それ故に日々の業務では課題が山積しております。今後もチーム一丸となり、院内連携・院外連携を意識し医療への貢献と病院経営への参画をとおり地域社会に貢献していきます。

【実績】

新型コロナウイルス感染症 入院患者延べ患者数 1,861人
 新型コロナウイルスワクチン接種回数 2,652回

【令和4年度の取り組み】

新型コロナウイルス感染症再拡大のため発熱外来・ワクチン接種・陽性者対応などを引き続き取組んだ1年となりました。また、新型コロナウイルス感染症の入院に伴う患者対応から施設基準管理・補助金対応・G-MISやHER-SYSの登録・請求管理など各種業務の増大により、通常業務と両立をはかるため業務効率化の取り組み活動も行いました。

【今後の目標】

引き続き各種業務の精度向上・医療DXを推進し、会計待ち時間の短縮を図り患者満足度の向上に力を入れていきます。併せて職員の人材育成にも力を入れていき、患者様が安心して病院にかかって頂けるような環境作りを行っていきたいと考えております。

文責 事務課長 村上 義明

未経験1年目を振り返って

医事課 宮下 未来

私は入職して2年目になります。美容専門学校を卒業後社会人になってからは、接客業でしか働いたことがなかった私にとって病院での勤務、事務お仕事は初めてのことばかりでした。

会計窓口の一員として働き始めてからは、毎日があっという間に過ぎていきました。

窓口業務では色々な方が訪問に来られ、会計業務以外にもたくさん覚えることがあり初めての経験の私はわからないことだらけで戸惑う日々でした。

そんな中、仕事を少しでも覚え対応出来るようになる為に自分なりに考えました。

まず、先輩方がどの様に患者さんと接し何を話しそれに対してどの様に対応しているのかをたくさん聞くようにしました。

覚えたことをすぐに実施する様に心がけ、解らないことはその都度教えて頂く様にする事で次第に理解できるようになってきました。

まだまだ、勉強中ですが一つずつ解らない事を解決し少しでもお役に立てるように努力しこれからも今以上に頑張っていきたいと思っております。

写真はいつも散歩がてら行っている水族館での写真です。何気ない日常でも毎日小さな発見を見つけ日々成長していく子供たちと一緒に過ごす時間を大切に過ごし、日々一緒に成長できればと思っております。



医療クラーク課

【スタッフ】

浦見 悦子 事務課長
・医師事務補助グループ 16名
葛西 淳子 事務主任 (R5.1.30迄)
ドクターズクラーク
平尾 愛 ドクターズクラーク
焼田久美子 ドクターズクラーク
田宮 千晶
伊藤紀美江 ドクターズクラーク
吉田 幸恵
他、雇用契約職員10名のうちドクターズクラーク5名
・外来受付グループ 6名

【部署の特徴】

医療クラーク課では外来診察補助業務、医療文書の作成補助業務、回復期リハビリテーション病棟専従医師の事務作業補助業務、医療の質の向上に資する事務作業業務、予約センター業務等を行っています。

1. 外来診察補助業務

業務の中心となる外来診察補助業務では各ブロック受付、各外来診察室、内視鏡室、中央処置室にスタッフを配置し診療がスムーズに進められ、医師・看護師の事務的な作業負担軽減が出来るよう各種検査・処方・リハビリ等のオーダー代行入力、次回予約入力、検査説明等を行い多職種と連携し業務を行っています。

2. 医療文書の作成補助業務

各種診断書、介護保険主治医意見書、医療要否意見書等の作成依頼・作成代行及び医師が作成した完成書類の処理、問合せ等に対応しています。

3. 回復期リハビリテーション病棟専従医師の事務作業補助業務

医師の回診に同行し、各種検査・診察記録等のオーダー代行入力や入院退院に係る文書作成代行業務を行っています。

4. 医療の質の向上に資する事務作業業務

診療に関するデータ整理、手術の症例登録等を行っています。

5. 予約センター業務

平日14～16時まで患者さんからの診察予約や予約変更等の電話連絡に対応し、患者さんに寄り添いご希望にお応えできるよう努めています。

【実績】

文書取扱い件数 (件)

診断書(入院証明書・通院証明書)	1,020
診断書(当院書式)	597
傷病手当	407
身体障害者診断書	140
特定疾患個人調査票	239
労災(照会・意見書)	361
介護保険主治医意見書	914
医療要否意見書(生保)	974
訪問看護指示書	266
計	4,918

予約センターでの予約件数 (各外来での対応も含む) (件)

予約	4,432
予約キャンセル	932
予約外案内	916
その他	1,680
計	7,960

【令和4年度の取り組み】

引き続き新型コロナウイルス感染症流行による感染症拡大防止対策として、症状が安定している慢性疾患で外来受診されている患者さんの電話による診療(投薬)の対応、外来受診に来院される患者さんへの体温・体調確認等、感染対策を図りながら業務に努めて参りました。また、令和5年3月6日より問診記録の標準化及び業務効率化を目的にタブレット端末を用いた問診システムを導入し、各外来での問診票記載は紙の問診票からタブレット端末での入力に運用変更致しました。

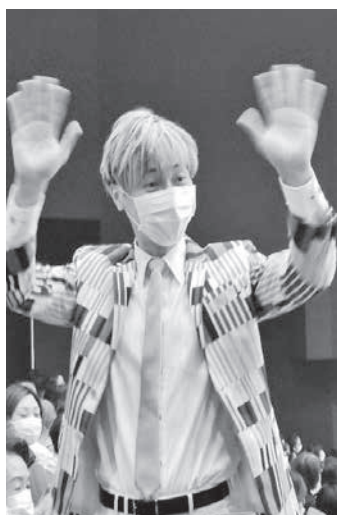
【今後の目標】

患者さんを中心とした医療を提供できる環境作りをサポートしていくため、医師の事務的な作業負担をより軽減出来るようスタッフのスキルアップを図り、各部門とのコミュニケーション・連携を強化して参ります。令和6年度より施行される「医師の働き方改革」に向け、医師の事務作業の負担軽減が図れるよう、更に取り組んでいきたいと思ひます。また、今後も継続して感染症対策を徹底しながら、外来診察補助業務等に日々努めて参ります。

文責 事務課長 浦見 悦子

“スーパー銭湯アイドル”と検索したら、一番最初に出てくるのが、そう！『純烈』自分と同年代、若い世代からみたら、おじさんの4人組グループ。2018年の秋、何気にTVを観ていたら特集されていた。パブル世代の自分には、昭和歌謡ムンムンのスパ銭アイドル(勝手に略称)に何故か見入ってしまった。そして、その年の紅白歌合戦、念願の初出場が決まり、スパ銭のステージさながらのセットとともに、熱狂的なマダムたちも参加し大盛り上がりの演出、身近なアイドル的存在感に、つつい自分も引き込まれていた。それ以来、何かと話題に上がると目が離せなくなってしまった。そんな中、COVID-19が流行し、世界中で行動制限が出てしまい、日本でもステイホーム、ソーシャルディスタンスが求められ、当然スパ銭

のステージも中止せざるを得なくなり、TVで取り上げられることもなくなり、脱力感に苛まれた。2021年COVID-19終息が見えない中、スポーツ観戦やライブは徐々に再開され、彼らのコンサートも札幌で開催されることを知り、意を決して、家族に拌み倒し二人で初めて観に行った。1500席程の会場で、大会場ではないからこそ、身近に感じられ、彼らのステージは、ある一定の時間だけ、動画や録音は禁止だが、写真はOK、さらには客席に下りてきて歌唱するという、まさかそんな演出があるとは思ってなく、自分の目の前に彼らが順番に来たことで興奮MAX。すっかり写真を撮るのを忘れてしまった。今年は、さすがに家族にはお断りされてしまい、一人で観に行くことになったが、リベンジは忘れず写真撮影に成功、(^。^)/ 必死にボタンを押しまくり、ベストショットが下の2枚。残念ながら、小田井涼平さん(右側)は12月でグループを脱退してしまうが、また新たなメンバーが加わり、新生純烈となった彼らを観に来年も癒されに行こうと思う。



健康診断課

【スタッフ】

浦見 悦子 課長
菅原 充晴 係長
窪田 恭子
工藤 美奈
稲田 琴恵

【部署の特徴】

小樽市内や近郊の企業健診、各種がん検診を含む市民健診のほか、若年から高齢者まで様々な年齢層の方々に受診して頂いております。

また、近年、労働者の健康管理や健康に対する関心も高まっており早期発見・早期治療にお役に立てるよう予防医療として協力し携わっていきたいと考えております。

【実績】（令和4年度）

	人数 (人)
生活習慣病予防健診	1,688
日帰りドック	198
企業健診	2,087
特定健診	625
市民健診	394
個人健診	622
がん検診	19
ちょこっと その他	594
合計	6,220



【令和4年度の取り組み】

令和4年度受診者人数前年度対比は109%増となりました。

令和4年度売上に関しましても前年度対比は112%増となり、健診者人数・売上げともに増加となりました。

JAXAの宇宙飛行士候補者選抜にかかわる健康診断も行いました。

【今後の目標】

今後は生活習慣病予防健診（協会けんぽ）、企業健診、市民健診（たるく健診）等の件数を増やしていきたいと考えております。

最後に健診センターとして健診を受けられた皆様の健康づくりと疾病の早期発見と予防に努めて参ります。今後とも関係部署の協力を得ながら健診受診者増を図っていききたいと考えております。

文責 事務係長 菅原 充晴

地域連携課

【スタッフ】

課長 阿 畠 亮
主任 小林 政彦（社会福祉士）
主任 柴田 幸子
吉田 みのり（社会福祉士）
佐藤 愛友（社会福祉士）
田中 諭（社会福祉士）
福森 星輔（社会福祉士）
山崎 隆（社会福祉士）
金田 智香子

【部署の特徴】

回復期リハビリテーション病棟では専従の社会福祉士1名と専任の社会福祉士2名を配置し入退院支援を強化している。それにより各職種の協力のもとではあるが病床の稼働率が年間をとおり98%と高稼働を維持し各種施設基準も達成できている。また、社会福祉士は社会福祉法人として無料低額診療制度の推進を積極的に行い特に非課税世帯の患者さんを中心に制度のご案内を強化している。そして医療費の問題で医療が受けられない患者さんをださないよう各種相談活動や広報活動を実施している。

【実 績】

無料低額診療率 10.3%
社会福祉士の相談種別と件数
介護保険申請 440件
在宅退院調整 849件
家屋調査 183件
転院退院調整 743件
施設退院調整 1141件
無料低額診療 390件
その他 1034件

【令和4年度の取り組み】

入退院支援加算算定率を向上させるための業務フロー見直し・業務改善のために地域連携システムを活用し進捗管理。また、システム導入に伴い紹介患者の迅速な把握や逆紹介の管理を実施。

【今後の目標】

紹介重点医療機関を目指し、紹介・逆紹介割合の基準を達成する。

無料低額診療率の基準達成（10%以上）

文責 事務室長 阿 畠 亮

【スタッフ】

大田 隆宏 主幹
井上 智香子 主任
本間 真一 主任

【部署の特徴】

電子カルテ・医事会計等のシステム保守、運用とともに、医療情報データベースの構築および利用、データ活用のためのアプリケーション作成を行っています。医療業務を裏方として支えつつ、院内独自システムの開発も各部署の依頼により行っています。

今年度からは五十嵐事務部長が全国済生会事務（部）長会情報システム部会のリーダーに就任したことを機に、課員がメンバーとして参加し、部会活動を行っています。

独自に設置したデータベース（SQL Server）有効活用し、院内の各種データの収集や二次利用などに利用しています。

また、情報システム部門をもたない北海道済生会、みどりの里、老健はまなすの支援も行っています。

【実績】

- 看護必要度のプログラム作成
R5の改定に伴いどのように看護必要度が推移するのかシミュレーションプログラムを作成しました。
また、R5用の看護必要度対応プログラムを作成しました。
- 手術の術後の術式チェックプログラム作成
手術オーダーと会計の術後術式が同じか確認できるレポートを作成しました。
- 神経加算取得可能プログラム作成
神経加算が取得できないか特定キーワードで一致した患者を電子カルテから検索して一覧にしました。
- 退院時DPC一覧作成
退院時、DPCの期間がどのようになっているのかレポートを作成しました。
- リハビリ病名一覧作成
会計入力したリハビリ病名、起算日が表示できるようにしました。
- 退職金管理プログラムの修正
本部に提出するExcelファイルを直接作成できるようプログラムを修正しました。
人事、給与はSMILEから、休職は勤次郎から直接データを取得してデータを作成しています。
- 仮想環境の構築
下記仮想環境を追加して4台のサーバーで仮想

サーバーを50台動かしています。

- ▶ 感染システム用の仮想環境作成
- ▶ 問診、後払いシステムの仮想環境作成
クラウド（AWS）利用含む
- ▶ 地域連携システム仮想環境作成
- テープによるバックアップ
テープでバックアップしたものを、4世代で管理し保管場所を分散して保管するようにしました。
- 感染管理システム「ICTMate」の新規導入
感染対策室と協同し、ベンダーの選定から導入まで支援を行いました。
- 済生会全病院対象Excel研修会の開催
事務（部）長会からの依頼により、情報システム部会の事務局として、上記研修会の企画・運営を行い、サポート講師として研修会に参加しました。
- 看護部ラダー教育支援プログラム
看護部教育の依頼により、Excelにて回答されたラダー（5レベル）の回答データを集計するプログラムを作成しました。
- 永年勤続者管理プログラム
総務課の依頼により、永年勤続表彰者を管理するプログラムを作成しました。
- 第5回済生会リハビリテーション研究会Webサイト構築
同研究会の案内、参加申し込み、演題登録を行える専用のWebサイトを構築しました。

【令和5年度の取り組み】

医事会計システムの更新予定があり、その対応を行います。情報システム部会定例会が7月に当院にて開催の予定です。

【今後の目標】

業務効率化、DX推進、セキュリティ強化のため、IT推進室（仮）の設置を目指します。
関係各部署には協力をぜひお願いします。

文責 事務主任 本間 真一

各委員会・診療チーム・その他

NST委員会

【メンバー】

- Adviser : 水越 常德 医師
Chairman : 安達 秀樹 医師
Director : 一島妃東美 管理栄養士
Sub Director : 西澤 一步 管理栄養士
- ・医師…水越 常德、安達 秀樹
 - ・管理栄養士…多田 梨保、權城 泉、一島妃東美
西澤 一步
 - ・看護師…中山 祐子、今井 友裕、工藤 祐華
森地 有希、田村 政了、平岩 悠子
森 靖子、渡辺 瑞季、高橋 知子
 - ・薬剤師…鈴木 景就、笠井 一憲、佐渡 望
 - ・理学療法士…松村 真満、米田健太郎、浅香 翔梧
廣田 正和
 - ・言語聴覚士…加賀 潤輝
 - ・臨床工学士…横道 宏幸、吉田 昌也
 - ・事務部…金田智香子、吉田 幸恵
- ◆日本静脈経腸栄養学会TNT研修修了(医師)…
明石 浩史、安達 秀樹、高田 美喜生、松谷 学
水越 常德、宮地 敏樹
- ◆日本静脈経腸栄養学会認定NST専門療法士…
一島妃東美、笠井 一憲、權城 泉、鈴木 景就
多田 梨保、中山 祐子、西澤 一步、松村 真満

【実績】

- ◆栄養サポート加算算定件数…516件
- ◆カンファレンス・回診…毎週木曜日、42回
- ◆委員会…毎月第3木曜日、3回
- ◆勉強会…2回

【令和4年度の取り組み】

- ◆NST専門療法士認定試験で新たに2名が合格しました。
- ◆オンラインを活用し、勉強会を開催しました。
NST委員以外にも参加していただくことができました。

【今後の目標】

- ◆NST加算算定要件である職種(医師・看護師・薬剤師・管理栄養士)について、所定の研修受講者の確保に努め、NST専門療法士の育成を目指します。
- ◆NST専従者として人員を確保(増員)できるよう、NST活動の充実を目指します。
- ◆オンラインを活用し、栄養療法に関する勉強会の実施を計画します。
- ◆グループ活動を再開し、委員会の活性化に努めます。

文責 NST専門療法士 一島 妃東美

院内感染予防対策委員会

【メンバー】

委員会構成	役職又は所属部署	氏名	専門・認定資格等
病院長	病院長	和田 卓郎	
施設長	施設長(みどりの里)	堤 裕幸	日本感染症学会/専門医・指導医
委員長	副院長	堀田 浩貴	ICD (ICT・AST) 日本化学療法学会/抗菌化学療法認定医師
副委員長	看護部長	菅原 実夏	
診療部	副診療部長	安達 秀樹	
療育看護部	療育看護部長(みどりの里)	大橋とも子	
医療技術部責任者	医療技術部長	野村 信平	
事務部責任者	事務部長	五十嵐浩司	
手術・中材責任者	手術・中材課長	谷川原智恵子	
薬剤室責任者	薬剤室室長	上野 誠子	
栄養管理室責任者	栄養管理室課長	多田 梨保	
臨床検査室責任者	臨床検査室係長	木谷 洋介	(ICT・AST)
透析水管理者	臨床工学室係長	横道 宏幸	
感染管理認定看護師	TQMセンター主幹	澤 裕美	認定感染制御実践看護師 (ICT・AST)
薬剤師	薬剤室主任	小野 徹	日本化学療法学会/抗菌化学療法認定薬剤師、感染制御認定薬剤師 (ICT・AST)
感染対策室事務局	総務課主任	神山 拓也	(ICT・AST)
委員会事務(事務部)	総務課課長(みどりの里)	岩山 隆史	
	医事課主任	小野 翔平	
	健康診断課	窪田 恭子	
	医事課	伝法 俊和	

【オブザーバー】

オブザーバー構成	役職又は所属部署	氏名	専門・認定資格等
診療部	副院長	水越 常德	ICD
看護部(リンクナース)	3 A病棟	福島 陽子	リンクスタッフ
	3 B病棟	佐久間春菜	リンクスタッフ
	4 A病棟	平元 昌恵	リンクスタッフ
	4 B病棟	河原 美幸	リンクスタッフ
	5 B病棟	小野 智子	リンクスタッフ
	外来	沼山奈緒美	リンクスタッフ
	手術センター	中村 美幸	リンクスタッフ
	透析センター	山口 千恵	リンクスタッフ
医療技術部	薬剤室	一野 勇太(AST)	
	臨床検査室	岡本 晃光(AST)	
	放射線室	小林 洸貴	
	リハビリテーション室	平塚 渉	
	リハビリテーション室	室矢 康治	
療育看護部 (リンクナース)	A病棟 (みどりの里)	棚田 綾子	リンクスタッフ
	B病棟 (みどりの里)	上 朋美	リンクスタッフ
	C病棟 (みどりの里)	高山 明子	リンクスタッフ
療育医療技術室	機能訓練課 (みどりの里)	山本 優	

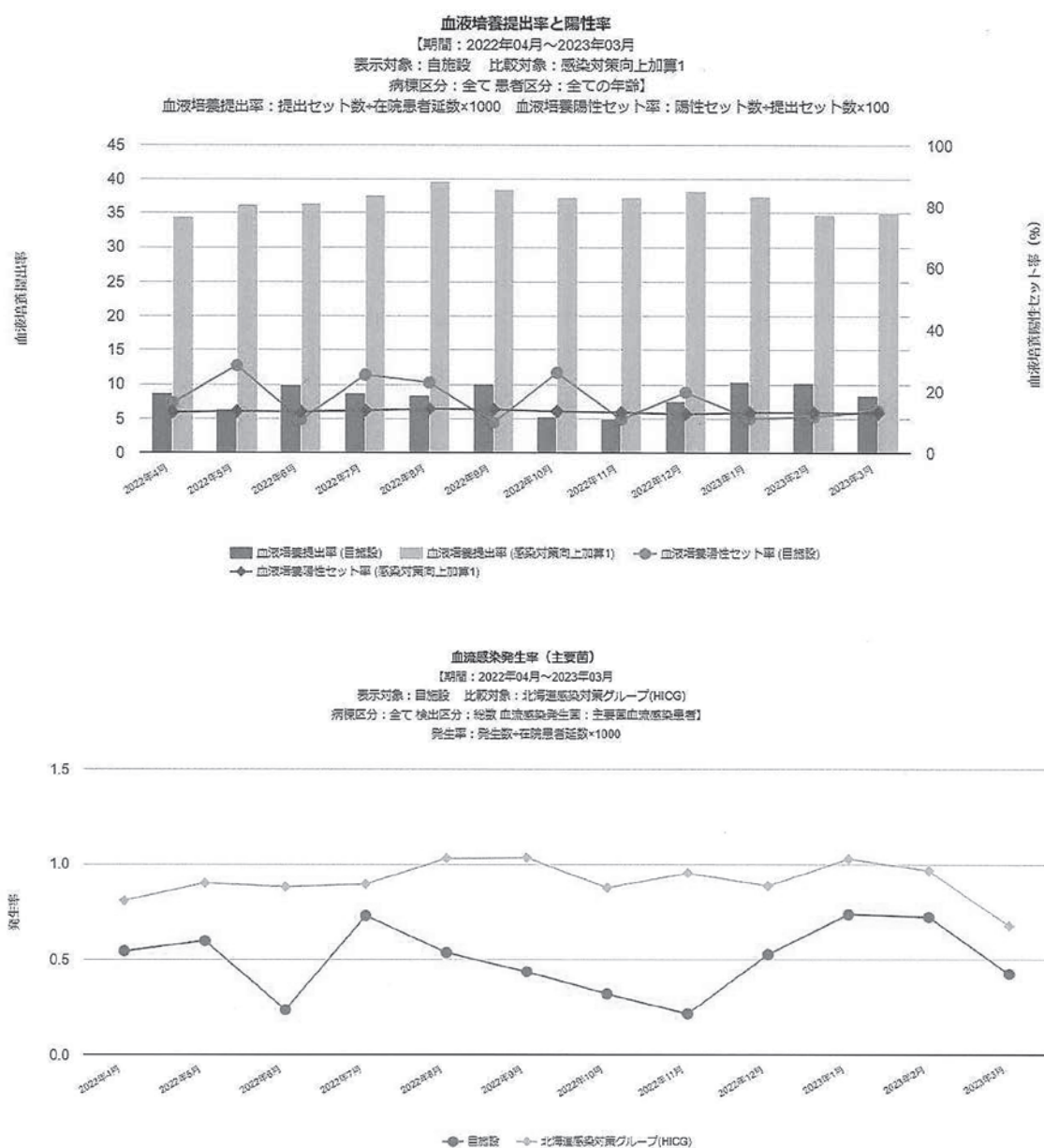
【部署の特徴】

当院では、院内感染対策指針に基づき、院内感染予防に係る様々な対策を実施する為、院内感染予防対策委員会を設置し、感染症に係る情報共有及びその対策を検討し、感染症の拡大を最小限に抑えるため積極的に活動を行っております。

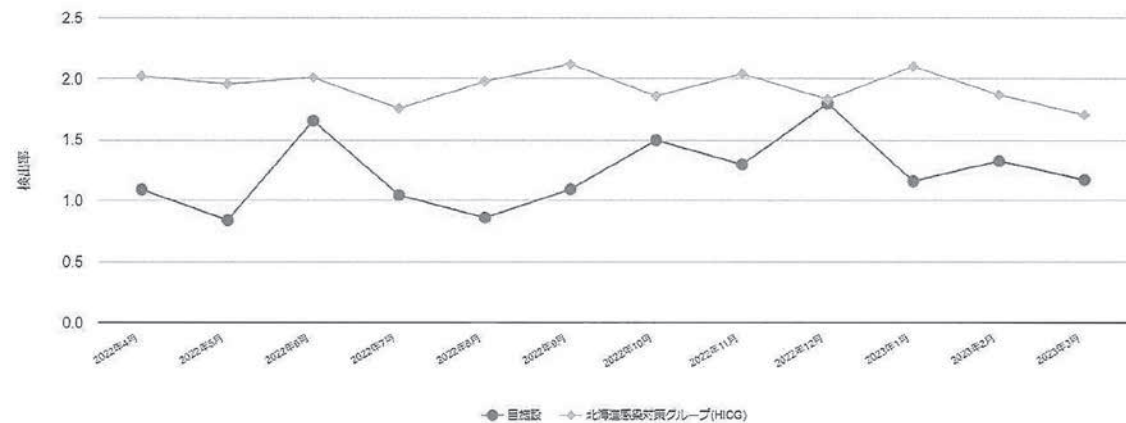
効果的な感染防止対策を実施するため、院長の直轄部門としてインフェクションコントロールドクター（ICD：Infection Control Doctor）である副院長のもと感染対策室を設置し、更に実行部隊として感染対策チーム（ICT：Infection Control Team）を結成し、具体的な活動を行っております。

また、抗菌薬適正使用支援チーム（AST：Antimicrobial Stewardship Team）を結成し活動しており、特に適正使用が重要とされる広域抗菌薬と抗MRSA薬投与患者、血液培養陽性者の抗菌薬治療を対象とし、毎週チームメンバーでカンファレンスを行い、メンバーそれぞれの専門性を活かし抗菌薬の変更や臨床検査の追加などをまとめ主治医に提案することで、感染症患者に対して適切な感染症治療を支援し、抗菌薬適正使用を推進に関する活動を実践しております。

【実績】



主要菌・耐性菌検出率(主要耐性菌)
 【期間：2022年04月～2023年03月】
 表示対象：自施設 比較対象：北海道医療対策グループ(HICG)
 病棟区分：全て 検出区分：総数 主要菌・耐性菌：耐性菌検出患者
 検出率：検出数÷在院患者延数×1000



AUD：抗菌薬使用量+DDD÷在院患者延数×100

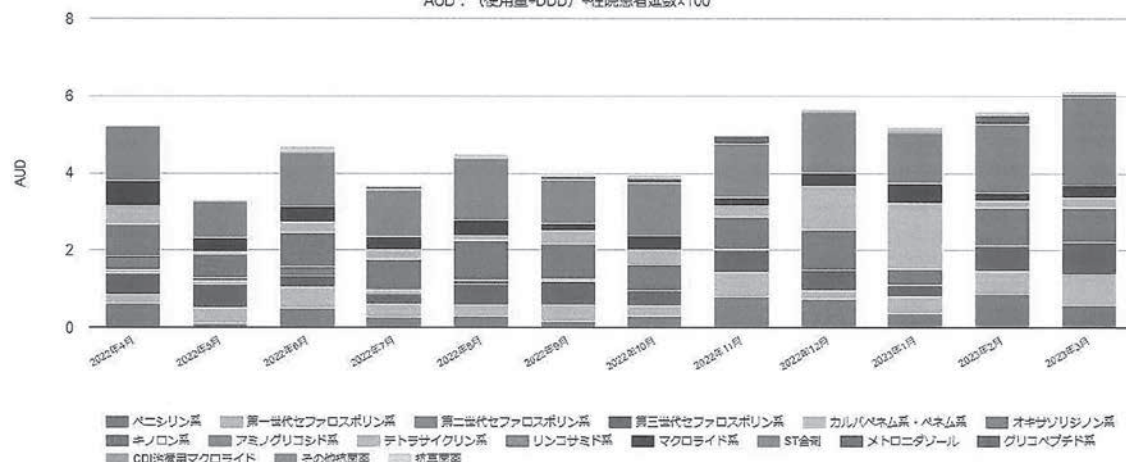
【期間：2022年04月～2023年03月】

表示対象：自施設 表示単位：AUD

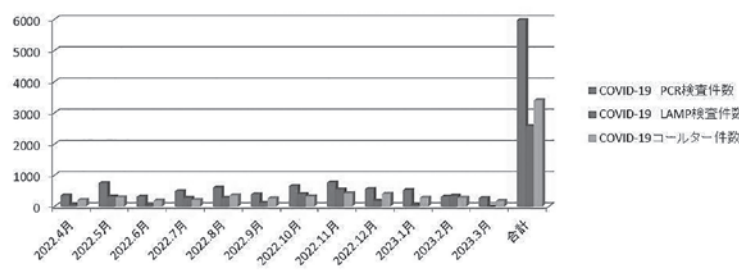
出力対象：全て 薬剤種別：内服

薬剤グループ：全系統・薬剤系統／抗菌薬（17）

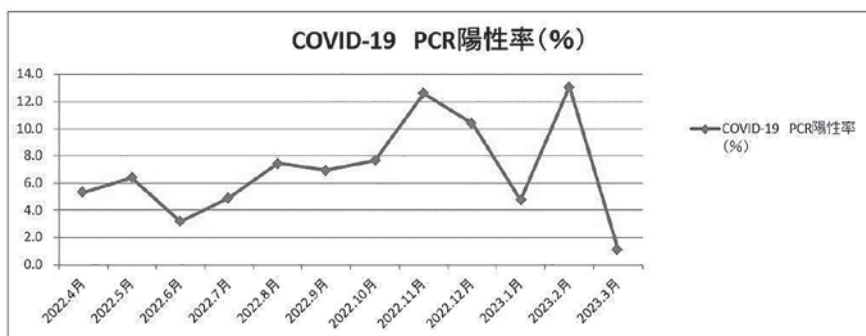
AUD：（使用量+DDD）÷在院患者延数×100



COVID-19 検査数



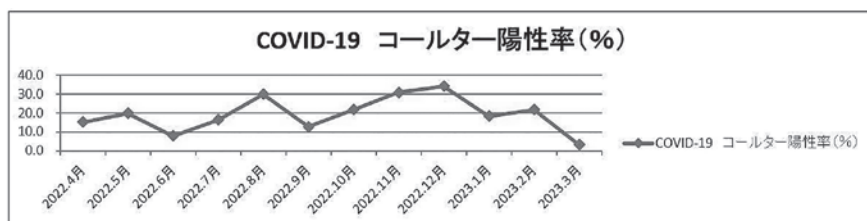
	2022.4月	2022.5月	2022.6月	2022.7月	2022.8月	2022.9月	2022.10月	2022.11月	2022.12月	2023.1月	2023.2月	2023.3月	合計	平均
COVID-19 PCR検査件数	356	749	312	485	602	388	651	782	558	525	313	273	5974	497.8
COVID-19 LAMP検査件数	50	315	32	277	279	116	391	551	178	43	343	2	2577	214.8
COVID-19 コールター件数	210	292	192	208	361	261	318	418	404	280	281	179	3404	283.7
	616	1356	536	970	1242	765	1360	1731	1140	848	937	454	11955	



	2022.4月	2022.5月	2022.6月	2022.7月	2022.8月	2022.9月	2022.10月	2022.11月	2022.12月	2023.1月	2023.2月	2023.3月	全体陽性率
COVID-19 PCR陽性率(%)	5.3	6.4	3.2	4.9	7.5	7.0	7.7	12.6	10.4	4.8	13.1	1.1	7.5
陽性件数	19	48	10	24	45	27	50	96	58	25	41	3	446



	2022.4月	2022.5月	2022.6月	2022.7月	2022.8月	2022.9月	2022.10月	2022.11月	2022.12月	2023.1月	2023.2月	2023.3月	全体陽性率
COVID-19 LAMP陽性率(%)	2.0	3.2	0.0	3.6	15.8	6.9	3.8	13.1	29.8	39.5	5.0	0.0	9.6
陽性件数	1	10	0	10	44	8	15	72	53	17	17	0	247



	2022.4月	2022.5月	2022.6月	2022.7月	2022.8月	2022.9月	2022.10月	2022.11月	2022.12月	2023.1月	2023.2月	2023.3月	全体陽性率
COVID-19 コールター陽性率(%)	15.2	19.9	7.8	16.3	29.9	12.6	21.7	30.9	34.2	18.2	21.7	3.4	21.6
陽性件数	32	58	15	34	108	33	69	129	138	51	61	6	734

【令和4年度の取り組み】

- ・委員会開催（毎月）
- ・職員研修の実施（年2回）
- ・連携施設との合同カンファレンス実施（年4回）※内、新興感染症訓練1回
- ・マニュアル等の改訂
- ・新型コロナウイルス感染症クラスター対応

【今後の目標】

令和元年の新型コロナウイルス感染症発生時から、患者と職員を守るため「院内に持ち込まない」「入り込んでも広げない」を目標に対策を行って参りました。

しかし、今年度3回の集団感染を発生してしまい、その都度「新たな感染拡大をさせない」という目標が加わります。陽性者との接触状況を洗い出し、その状況に少しでも不安があれば、濃厚接触者の定義から外れても検査対象としました。また陰性の職員でも、陽転する可能性がある数日間陰性確認をしながらの勤務としました。かなりの人数を検査対象にしたため、休日や早朝また夜遅くまで検査に時間を要したこともあります。

「新たな感染拡大をさせない」の目標に向かい、全職員が協力したことによって集団感染は長引くことなく、収束を迎えることができました。これは、院長はじめ病院幹部が、感染対策室の意見を尊重し活動させて下さったおかげと感謝しております。

次年度は感染症の位置づけが2類から5類に移行する予定です。移行後は、病院も制限緩和が必要です。特

に、患者さんやご家族に心理的ご負担をおかけしている面会禁止は、優先的に考えなくてはなりません。しかし、新型コロナウイルスの感染力は変わったわけではありません。5類となって様々な事を緩和しても「院内に持ち込まない」そして入り込んでしまっても「広げない」を目標に、患者さんと職員の安全を守っていく取り組みを、次年度も行って参ります。

文責 感染対策室 澤 裕美

医療安全管理委員会、医療安全管理室

【スタッフ】

委員長：宮地 敏樹（医療安全管理責任者）
（小樽病院）
診療部：安達 秀樹（マネージメントリーダー）
看護部：谷川原智恵子（兼任医療安全管理者）
原田 真里（兼任医療安全管理者）
中川 尚美、杉崎 美香、岡本 麻理
岸本 悦子、安宅 春華、兒玉真夕美
本間 未知、本間美穂子
医療技術部：上野 誠子（マネージメントリーダー、
医薬品安全管理責任者）
平塚 渉（マネージメントリーダー）、
松尾 覚志（医療放射線安全管理責任者）、
多田 梨保、木谷 洋介、横道 宏幸
事務部：蝦名 哲行、阿部 亮、吉田みのり
医療安全管理室：笹山 貴司（専任医療安全管理者）、
伊藤紀美江

（みどりの里）

療育診療部：堤 裕幸（マネージメントリーダー）
療育看護部：大場美穂子（兼任医療安全管理者）、
中山 美幸、池田 早苗、成木 宣裕
療育医療技術室：前田 美穂（マネージメントリーダー）
事務部：岩山 隆史（マネージメントリーダー）

【部署の特徴】

医療安全は、医療の質に関わる重要な課題であり、安全な医療の提供は医療の基本となるものです。各部署から選出されたリスクマネージャーのもとに、医療安全管理のためのマニュアル整備することや、ヒヤリ・ハット事例分析によりマニュアル等の定期的な見直し等を行い、医療安全管理の強化充実を図っています。

また、地域医療安全ネットワークを構築することにより連携施設以外とも情報交換をし、地域の医療安全向上を目指しています。

【実績】

①活動実績

医療安全管理対策委員会：毎月第一金曜日、12回実施
医療安全カンファレンス：毎週水曜日、51回実施
医療安全連携施設ラウンド：小樽掖済会病院、朝里中央病院、島田脳神経外科
（令和4年12月09日ZOOMを活用し、4施設会議実施）

②医療安全セミナー実績

※今年度はコロナウイルス感染防止対策のため、webセミナーにて開催

①開催日：令和5年2月14日～令和5年3月31日
講習内容：「医療現場に必要な心理的安全性とは第1部」

参加者人数：503名

②開催日：令和5年2月14日～令和5年3月31日
講習内容：「医療機関におけるコミュニケーション」
参加者人数：500名

③レポート報告件数について

・インシデントレポート報告件数 1096件

・報告内容概要別件数

概 要	件 数
薬剤	290
輸血	1
治療・処置	20
医療機器等	23
ドレーン・チューブ	163
検査	41
療養上の世話	491
その他	67

・職種別報告件数

職 種	件 数
医師	6
看護師	757
看護助手	12
薬剤師	63
放射線技師	14
臨床検査技師	4
臨床工学士(CE)	15
管理栄養士	112
理学療法士(PT)	25
作業療法士(OT)	18
言語聴覚士(ST)	10
事務	16
社会福祉士	2
児童指導員・保育士	8
調理委託	4

・報告内容

薬剤関連（287件）

報告内容	件 数
無投薬・未配薬	89
投与時間・日付間違い	38
患者間違い	17
重複投与	12
過剰投与	11
過小与薬準備	11
その他	109

輸血関連（1件）

報告内容	件 数
伝票紛失	1

治療・処置（20件）

概 要	件 数
方法(手技)の誤り	4
未実施・忘れ	3
不必要行為の実施	2
その他	11

医療機器等（23件）

概 要	件 数
不適切使用	8
点検・管理ミス	3
破損	2
故障	1
その他	9

ドレーン・チューブ類（162件）

概 要	件 数
自己抜去	48
接続はずれ	29
抜去	12
ルートクランプエラー	10
接続間違い	9
閉塞	9
自然抜去	9
切断・破損	6
その他	30

検査関連（40件）

概 要	件 数
未実施	7
指示検査の間違い	6
患者取違い	5
結果報告	3
部位間違い	2
検査日間違い	2
その他	15

療養上の世話（497件）

概 要	件 数
転倒	151
スキンケア	83
給食の内容の間違い	78
転落	51
誤配膳	17
異物混入	13
実施忘れ	13
中止の忘れ	9
遅延	5
衝突	5
その他	72

項目別患者影響度件数

	レベル0	レベル1	レベル2	レベル3a	レベル3b	レベル4a	レベル4b	レベル5	その他
薬剤関係	62	220	6	2	0	0	0	0	0
輸血	0	1	0	0	0	0	0	0	0
処置	2	17	0	1	0	0	0	0	0
医療用具(機器)	3	20	0	0	0	0	0	0	0
ドレーン・チューブ類	4	133	16	10	0	0	0	0	0
検査	6	33	2	0	0	0	0	0	0
療養上の世話	10	81	11	10	6	0	0	0	1
転倒・転落	2	1	169	17	9	0	0	0	0
食事と栄養	14	157	2	1	0	0	0	0	0
事務	0	2	0	0	0	0	0	0	0
手術	0	1	0	0	0	0	0	0	0
情報・記録	6	15	0	0	0	0	0	0	1
リハビリテーション	1	5	2	2	1	0	0	0	0
その他	10	13	4	1	0	0	0	0	3

【令和4年度の取り組み】

- ・昨年度から継続している「確認事項を徹底し、安全な医療の提供を行う」を医療安全の年間テーマとし、各部署において目標設定し実践した。
- ・感染拡大防止の観点からZoom、ビデオ教材、webセミナーなどを活用し、医療安全活動を行った。

【今後の目標】

安心、安全な医療の提供をするため、部署の垣根を越えた医療安全活動を行えるような組織風土の醸成を目指す。

文責 医療安全管理室副室長 笹山 貴司

褥瘡対策委員会

【スタッフ】

木村 雅美	外科部長	委員長
兒玉真夕美	5B病棟看護課長	副委員長
伊吹 奈奈	3A病棟看護課	褥瘡対策チーム
柴田 祐希	〃	〃
小路 深雪	3B病棟看護課	〃
村山 綾香	〃	〃
佐野 舞	4A病棟看護課	〃
葛西 翔暉	〃	〃
青木 昭人	4B病棟看護課	〃
北村 光	〃	〃
藤林茂鈴恵	5B病棟看護課	〃
田中詩緒梨	〃	〃
三浦 優花	〃	〃
渡邊 詩子	外来	〃
宮崎ゆかり	手術センター	〃
境 雪子	A病棟療養看護課	〃
渡部 優子	B病棟療養看護課	〃
薮内 裕子	C病棟療養看護課	〃
三野宮裕樹	リハビリテーション室	〃
小貫留美子	栄養管理室	〃
太田 歌子	医事課	事務局
土谷 浩大	経理課	事務局

【部署の特徴】

褥瘡は難治性の創傷のため、一度発生すると完治するまでに時間を要します。そのため褥瘡が治癒しないことで入院期間が長くなり、身体的・精神的苦痛を伴うと予測されます。

褥瘡予防や治療には、発生原因の把握や急所治療だけではなく、全身状態やADL、社会的背景など多方面からの介入が必要となります。当院では多職種でチームを組み、日々活動を行っています。

【実績】

1. 褥瘡発生状況・相談実績

部署	持ち込みor新規	相談内容	部位	未相談	初回	2回目	3回目	4回目	5回目	6回目	7回目	評価
5B病棟		褥瘡	仙骨部		1月25日	2月 1日	2月15日	3月1日	3月15日			
ひかり病棟		褥瘡	仙骨部		1月25日	2月 1日	2月15日					
4A病棟		褥瘡	背部		2月 1日							
4A病棟		褥瘡	右臀部		2月 1日							
4A病棟		褥瘡	右踵部		2月 1日							
4A病棟		MDRPU	脊柱部		1月11日	1月25日	2月 1日					
4A病棟		褥瘡	左右臀部		12月 7日	12月21日	1月11日	1月25日	2月 1日	2月15日	3月 1日	
4A病棟		褥瘡	左腸骨		2月 1日							
4A病棟		褥瘡	仙骨部		2月 1日	2月15日						
4B病棟	持ち込み	褥瘡	左ア腱上方		2月 1日							
3A病棟	持ち込み	褥瘡	左外果		2月15日	3月 1日	3月15日					
4A病棟	持ち込み	褥瘡	仙骨		2月15日	3月 1日	3月15日					
3A病棟	持ち込み	褥瘡	大転子		3月 1日							
3A病棟	新規発生	褥瘡	仙骨		3月 1日							
4A病棟	新規発生	褥瘡	左下腿		3月 1日							
5B病棟	持ち込み	褥瘡	右坐骨		3月 1日	3月15日						
つばさ		その他	腹部		3月15日							
4B病棟	持ち込み	褥瘡	左足関節外果	3月 6日								
4A病棟	持ち込み	褥瘡	MTP関節外側	3月13日								
4A病棟	新規発生	褥瘡	右肘内側上顆	2月18日								
4A病棟	新規発生	褥瘡	左大転子部	2月13日								

2. 令和4年度褥瘡発生報告

	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
実患者数	369	435	424	410	417	392	415
新規発生患者数	4	2	2	6	4	4	0
新規発生率	1.08	0.46	0.47	1.46	0.96	1.02	0
持ち込み患者数	0	2	1	1	2	1	1
有病率	0	0.46	0.24	0.24	0.48	0.26	0.24

【令和4年度の取り組み】

- ・褥瘡対策チームを立ち上げ、各部署に褥瘡リンクナースを配置。
- ・6月より外部WOCによる月1回の定期回診（第1水曜日）、および月1回オンライン回診（第3水曜日）。
- ・褥瘡予防に向けての取り組み。
 - ① 10月より体圧計を全部署に保管し、入院時体圧測定を行い、適切なマットレスを選定するよう運用
 - ② 11月よりポジショニングクッションのリース契約を行い、クッションを増やして各部署へ配布
 - ③ 正しいポジショニングの講義動画を全看護職員が視聴

【今後の目標】

当院は後志全域の患者さんを受け入れしています。後志は高齢化が進み、老々介護や独居の状態で入院される方が多い状況です。その中には褥瘡を抱えた状態で入院される患者さんが少なくありません。再発予防をするためにも院内チームだけではなく、外部との連携が必要となってきます。外部WOCによる定期回診やオンライン回診はその一環です。

褥瘡は全人的ケアが必要になります。院内だけではなく、地域医療とも連携し、治療・予防を実施し、質の向上を目指していきたいと思えます。

文責 事務局 太田 歌子

クリニカルパス委員会

【概 要】

平成18年よりクリニカルパス部会として発足し、紙カルテ期よりクリニカルパス作成に従事し済生会小樽病院の医療の標準化、患者インフォームドコンセントの充実の支援をしております。平成25年から電子カルテ移行に伴いクリニカルパスも電子化へと移行しております。平成30年度よりDPC開始となり、質・量ともに向上を目指して活動中です。

【スタッフ】

委員長：織田 崇
 医師：水越 常德、安達 秀樹
 看護師：砂川 友紀、会津 郁美、根布 実穂
 大村 和史、磯野 由衣、山崎多寿子
 林 裕美子、石田ゆかり、早川 晃子
 薬剤師：芦名 正生、中村 圭介
 放射線技師：松尾 覚志
 臨床検査技師：高橋 賢規
 臨床工学技士：山内 揚介
 理学療法士：髭内 紀幸、花田 健、四十坊麻由
 室矢 康治、三野宮裕樹
 管理栄養士：一島妃東美
 事務職員：平澤 慎吾、伝法 俊和、田宮 千晶
 山埜 隆

【業務内容】

済生会小樽病院の医療の標準化に向けたツールとしてクリニカルパスの作成、運用方法の検討、クリニカルパスの啓蒙、質の改善（バリエーション分析、ベンチマーキング）、患者インフォームドコンセントの充実などに従事しております。平成25年度よりクリニカルパスの電子化へも従事しております。

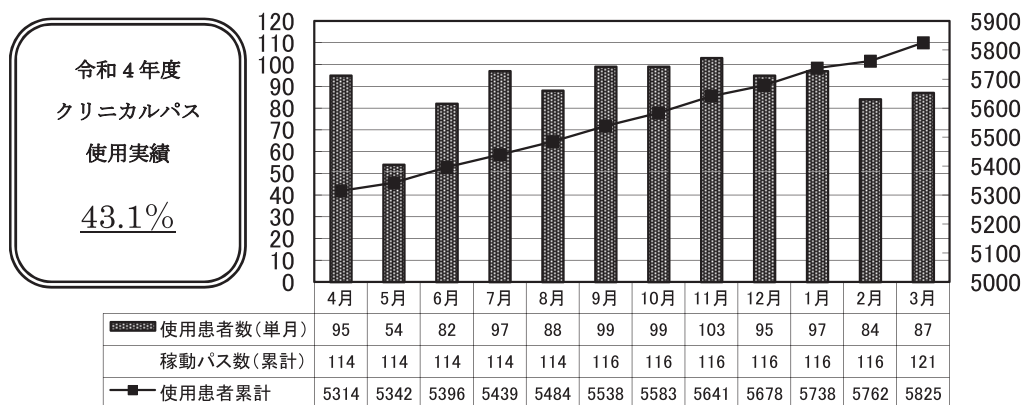
【当委員会の特徴】

委員会を5つのチーム（運用チーム、分析・改訂チーム、活動推進チーム、サポートチーム、【新】骨折リエゾンサービスチーム）に編成し、各チーム単位でクリニカルパス活動の検討をしております。

今年度も昨年度同様にコロナ禍で全員参加での活動が困難であった為、各チームリーダー、クリニカルパス活動推進スタッフからなるコアチームが中心となって活動していきました。

【実 績】

クリニカルパス使用患者数(全疾患合計)



稼働クリニカルパス

内科

胃瘻造設術（3種類）、R-CHOP療法、糖尿病教育・検査入院（3種）、大腸EMR（6種）

外科

腹腔鏡視下胆嚢摘出術（2種類）、腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術（2種類）、ヘルニア根治術（2種類）、外科大腸癌化学療法、甲状腺手術（2種類）

整形外科

膝関節鏡視下術、左・右BHA（2種類）、左・右大腿骨近位部骨折（2種類）、左・右橈骨遠位端骨折（2種類）、左・右TKAパス（2種類）、左・右UKA（2種類）、左・右THA、左・右ACL（2種類）、下肢抜釘（3種類）、左・右アキレス腱断裂縫合術（2種類）、左・右腱板断裂術（2種類）、膝AS半月板縫合術、急性腰痛、骨盤骨折腰部脊柱管狭窄症（2種類）、頸椎症性脊髄症（2種類）、左・右足関節果部骨折骨接合（2種類）、手根管症候群（2種類）、肘部管症候群（2種類）、上肢抜釘（4種類）腰痛椎間板ヘルニア、ミエログラフィー（3種）、左・右高位脛骨骨切術（2種類）

回復期）大腿骨近位部骨折

泌尿器科

前立腺生検、経尿道的膀胱腫瘍切除術（TUR-BT）、ESWL、尿管ステント留置・交換術、GC（ジェムザール+シプラスチン）、TUL、腹腔鏡下腎臓摘除術

計125パス

【令和4年度の取り組み】

今年度も昨年度同様にコロナ禍であり思うように委員会活動が出来ない日々となりました。しかし、大腿骨近位部骨折クリニカルパス内に骨折リエゾンサービス（FLS）を取り入れ、二次性骨折予防に取り組み医療の質へ寄与いたしました。また、大腿骨近位部骨折クリニカルパスのバリエーション分析結果を基に、急性期と回復期で機能を調整したクリニカルパスを作成して、標準化を図りました。

今後出来ることから挑戦していき、質の高いクリニカルパス作成に励み、既存のクリニカルパスの質向上にも励みます。それら委員会活動が病院全体の医療の質向上へ寄与できるよう努めてまいります。

文責 リハビリテーション室 髙内 紀幸

内分泌・糖尿病診療センター

【スタッフ】

部署・職種		氏名	資格など
センター長	医師	水越 常德	内分泌専門医
		安丸 卓磨	副院長
看護部	看護師	木藤 絢子	糖尿病療養指導士
		仙保 知子	係長 糖尿病療養指導士
		早川恵美子	糖尿病療養指導士
医療技術部	薬剤師	青木有希子	糖尿病療養指導士 糖尿病薬物療法認定薬剤師
		村川麻里子	糖尿病療養指導士
	管理栄養士	多田 梨保	課長 糖尿病療養指導士
		權城 泉	主任 糖尿病療養指導士
	理学療法士	三浦富美彦	糖尿病療養指導士 代謝認定理学療法士
		城田 祐輔	糖尿病療養指導士
		舩岡紗也香	
	臨床検査技師	岡本 晃光	主任 糖尿病療養指導士
		医療事務部	
			平尾 愛

【部署の特徴】

当センターでは、医師・看護師・薬剤師・管理栄養士・理学療法士・臨床検査技師・事務で構成しています。今年度より月1回のセンター会議に加え、毎週金曜日にチームカンファレンスを開催し、KAGRAシステムより選定した患者さんへの介入について多職種で検討することにより、より質の高い糖尿病支援に努めています。外来診療の活動としては、糖尿病透析予防指導・フットケア外来・インスリン自己注射や血糖自己測定指導を通して、各職種の特徴を生かし、患者様の個々のライフスタイルに合わせた療養支援を提供しています。

糖尿病教育入院は、当院で作成した教育入院スケジュールに沿って、個々の理解度や入院期間に合わせ、多職種の糖尿病療養指導士で情報共有をしながら行っています。近年の傾向として、コロナの影響で外出を控えるようになり血糖値が高くなってしまう方が多くみられていましたが、入院をきっかけに自分自身を向き合える時間を活かし、ポストコロナで新しい生活習慣の提案等、自身の生活を一緒に振り返り、個々の生活スタイルに合った具体的な生活を行っていきけるよう、患者様中心のチーム医療を実践しています。以前から行っているCGM(持続グルコース測定)・フリースタイルリブレなどの機器を使用することで、24時間のグルコース値推移を把握し、日常の診療や患者さん自身の糖尿病管理の動機付けに役立てています。

【実績】

糖尿病教育入院 実施人数：41件

CGM装着・解析 実施件数：リブレプロ9件

フリースタイルリブレ 実施件数：215件

フットケア 実施件数：75件

糖尿病合併妊娠及び妊娠糖尿病

介入人数：7名 栄養指導17件

KAGRAシステム抽出人数549件

うち指導介入41件、血糖管理46件、

CGM/FGM装着9件

【令和4年度の取り組み】

○センター会議開催

毎月定例 12回

○糖尿病カンファレンス 毎週金曜日

○院外勉強会・活動・学会発表

・第56回日本糖尿病学会北海道地方会（2022年10月22日）学会発表

演題名：当院におけるCOVID-19治療でのステロイド使用による血糖管理状況についての実態調査

発表者：薬剤室 青木 有希子

・小樽糖尿病療養指導研究会（2022年9月30日）講演

講演名：チームで取り組む血糖値管理～検査技師の関わり方～

講演者：臨床検査室 岡本 晃光

【今後の目標】

ウィズコロナを経て、糖尿病分野のDX推進が学会等で注目されており、大病院やクリニックで急速に拡大しています。当院は医療圏が広く、高齢者の多い地域です。フリースタイルリブレや血糖測定器を利用しクラウド管理の体制を整え、患者さんの負担を軽減し、より個々に合わせた医療体制の強化、また、それをサポートしていくご家族や福祉関係の方々の協力を視野に入れた遠隔診療の体制を整え、より質の高い糖尿病治療を目指していききたいと思います。またポストコロナを踏まえ、今まで通り感染対策に留意しつつも運動教室や糖尿病患者会等、糖尿病の醍醐味でもある慢性疾患に向きあう医療者・患者さん同士のコミュニケーションの場を再開していきたいと思っています。今後も患者さんがよりよい生活が送れるよう我々スタッフも自己研鑽・コミュニケーションを充実し、医療サービス・療養支援の提供に邁進していきたいと思っています。

文責 薬剤師 青木 有希子



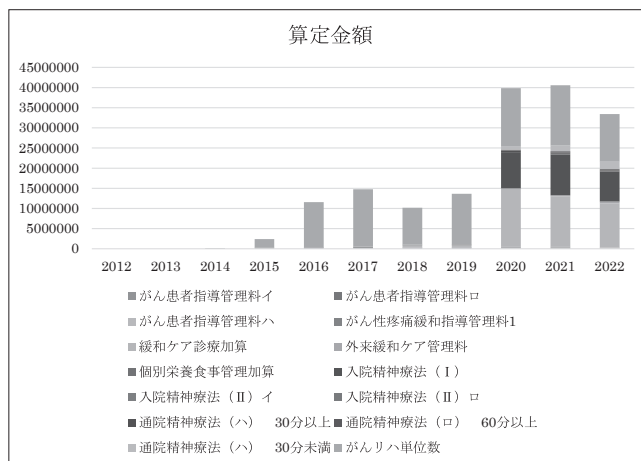
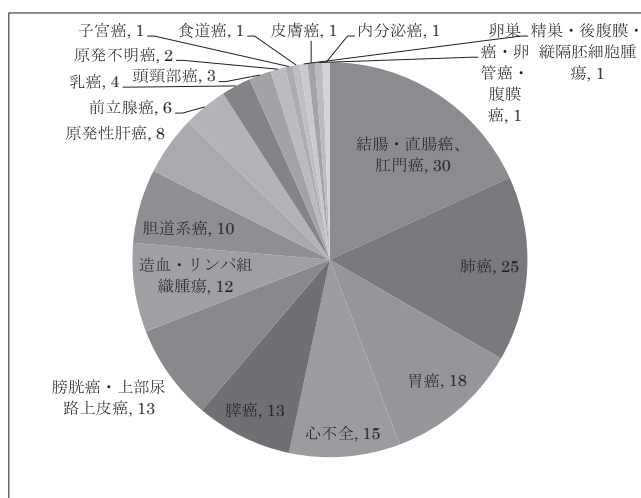
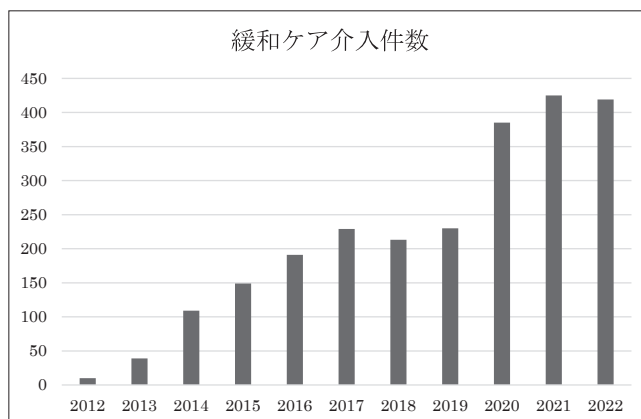
緩和ケアチーム

	役職・職種	氏名
診療部	内科診療部長	明石 浩史
	外科副診療部長	木村 雅美
	緩和ケア内科(腫瘍精神科)	菊地未紗子
看護部	看護師 緩和ケア認定看護師	藤原 大地
	係長	齋藤 亜妙
	係長	宮下めぐみ
	係長	中山 優子
	看護師	田代 季
	看護師	木谷由香里
	看護師	野上 麻里
	看護師	早川恵美子
薬剤室	課長 緩和薬物療法認定薬剤師	鈴木 景就
	薬剤師	村川麻里子
栄養管理室	主任 がん病態栄養管理栄養士	権城 泉
	主任 理学療法士	松村 真満
リハビリテーション室	作業療法士	林 知代
	主任 言語聴覚士	加賀 潤輝
放射線室	係長 放射線技師	舟見 基
事務部	MSW	福森 星輔
	MSW	吉田みのり

【部署の特徴】

医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、MSW、放射線技師など多職種で構成されたチームで活動をしています。各職種が専門性を発揮し、患者、ご家族のつらさに寄り添い、また、希望をもって生活が継続できるよう活動しています。令和3年度から始まったがん患者スクリーニングにより、緩和ケアチームの介入を希望された方へ、早期に緩和ケアチームの介入が始まり専門的なケアの提供を行っています。また、退院後は緩和ケア外来で継続的に切れ目のない緩和ケアを提供しています。

【実績】



【令和4年度の取り組み】

現在はがん患者だけではなく、心不全終末期の患者への緩和ケアが提唱されています。当院でも令和4年度より心不全終末期の患者へ緩和ケアチームの介入を行っています。心不全の方は増悪と寛解を繰り返す中で身体的な苦痛だけではなく不安などの様々な苦痛を感じています。心不全患者が少しでも苦痛なく、そして、希望をもって生活を送れるように多職種が専門性を発揮し継続的に緩和ケアを提供しています。

もう一つの試みとして外来リハビリの強化を行っています。徐々に体力の低下が生じ、動くことが難しくなっていく方も多くいます。そのため、緩和ケア外来を受診された際に、体力の維持や向上を目標に外来リハビリを行い、外来通院中でも継続したりハビリを提供し、希望された療養の場で楽しみを持ちながら生活が継続できるように、継続したりハビリを提供できるようにしています。

講演会の企画・開催

○緩和医療講演会（8月12日）

特別講演：医療現場の行動経済学・すれちがう医者と患者

演者：大阪大学大学院 人間科学研究科 平井啓先生

【今後の目標】

緩和ケアへの早期介入の試み

がんスクリーニングによりがん患者へ早期から緩和ケアの提供が行えるような体制が構築されました。今後は、がん患者だけではなく、心不全終末期にある患者へも早期から緩和ケアチームが介入しケアが提供できる体制を作っていきたいと考えています。

地域医療への貢献

地域の緩和ケアの質向上に寄与し、がんになっても安心して住み慣れた場所で過ごしていけるよう、地域の医療機関、介護福祉関係者と連携しながら、退院後も継続的にフォローできる体制を整えていきます。また、最新の知識や緩和ケアに対する考え方などを広めていくための講演会を継続的に開催していきます。

地域の緩和ケアの質向上についての講演、講師等の依頼にも積極的に協力します。

研究活動の推進

チームメンバー個々の能力の向上は、ケアの質をさらに高めることにつながります。メンバーそれぞれが自己研鑽を行い、多職種チーム医療の成果を関係学会等に積極的に発表していきたいと思っています。

文責 看護部 藤原 大地

認知症ケア推進室

【スタッフ】

診療部

林 貴士……脳神経内科部長 認知症サポート医
菊地未紗子……緩和ケア内科医長 精神科専門医

看護部

佐藤由紀枝……看護係長 認知症看護認定看護師
早川恵美子
安達奈那子
松本まさき
見澤 早苗
田中 幸希
佐々木知美
田中 寛子
佐々木真琴……認知症看護認定看護師
川崎 雅美
宮田 杏奈

薬剤部

又村 健太

栄養管理室

西澤 一步

リハビリテーション室

山中 佑香……作業療法科係長
松村 真満……理学療法科主任
對馬 啓介
高橋枝里香

地域連携室

山埜 隆
佐藤 愛友

事務部

平澤 慎吾

【部署の特徴】

認知症ケア推進室は平成28年に認知症ケア委員会として発足し、令和元年からは推進室として活動しています。急性期疾患による治療や回復過程でリハビリが必要となった認知症の患者が入院生活という環境の変化に対し、混乱なく安心して療養生活が送られるよう認知症ケアの質の向上を目的としています。

【実績】令和4年度

認知症ケア加算1算定件数	26,805件
認知症ケア加算1収益	16,710,340円
せん妄ハイリスク患者ケア加算算定件数	2,025件
せん妄ハイリスク患者ケア加算収益	2,035,420円

【令和4年度の取り組み】

例年取り組んでいる認知症ケア加算1、せん妄ハイリスク患者ケア加算を取得し、より質の高いケアを実

践するために専門的知識をもつ多職種で取り組みを行っています。

認知症ケアにおける主な活動内容は①認知症ケアチームによる週1回以上の回診・カンファレンスの実施（毎週火曜日午後）②院内研修会の開催③認知症の患者の環境調整④身体的拘束軽減のためのケアなどを中心に実践しています。

当院に入院する患者の4割は認知機能の低下を有し、急性期病棟に入院するせん妄ハイリスクに該当する患者は7割を占めます。認知機能の低下はせん妄のリスクとなるため、せん妄予防のために急な環境の変化の中でも病院に入院した事やなぜ入院したかの理由を把握し、昼夜がわかるよう記憶・見当識を維持する事が重要となります。認知症ケア推進室では、認知機能の低下及びせん妄ハイリスク患者に対し、記憶・見当識を維持し現状を理解できるよう、ベッドサイドに病院である事や入院した理由がわかるような掲示、カレンダー、時計を設置することを義務付け取り組んでいます。また、掲示や時計に注意を向けることが難しく現状の理解が難しい患者に対しては、その都度病院である事や現在の時間をお伝えし、現状の把握が出来るよう説明を繰り返し行っています。なんてことのない説明ですが、この対応を丁寧に行うことが認知機能の低下やせん妄ハイリスク患者において重要なケアであり、不安や混乱、せん妄への移行を予防する事に繋がっています。

また、今年度は身体的拘束を予防するための取り組みとして脱衣や自己抜去予防の下着の試験運用を実施しました。カテーテルの必要性を理解出来ない認知機能の低下やせん妄を発症している患者は、自己抜去により生命に危険が及ぶ場合、ミトンや抑制帯の装着を余儀なくされています。そのような患者に対し、ハイネックの下着とスカーフを装着することで、病院の病衣では容易に刺入部に手が届いていた状況を回避し、ミトンや抑制帯を使用しなくても自己抜去が予防できる効果がみられました。また、同様につなぎ服を装着している患者がロンパース型の下着を装着する事により、オムツ外しやつなぎ服着用により自由に身体に触れられない苦痛や羞恥心を軽減できる事に繋がれると考えます。次年度は、効果的であった下着を正式な運用へ移行できるよう取り組んでいきたいと考えています。

【今後の目標】

認知症ケア、せん妄ケアの更なる質向上を目指し、院内研修をはじめ現場での環境調整やケアの実践を行いながら、病院全体で知識・対応力の向上に繋げていきたいと考えています。また、急性期治療の中でやむ

を得ず必要となる身体的拘束を少しでも苦痛なく、かつ短期間で終了できるよう取り組み続けます。認知機能の低下があっても自身の治療や今後の生活場所についての説明を受け、患者自身がそれを選択する機会を得られるよう、意思決定の支援を院内全体で実施できるよう目指していききたいと思います。

文責 看護係長 佐藤 由紀枝

患者サービス検討委員会

【メンバー】22名

委員長	菅原実夏（看護部）		
副委員長	阿島 亮（事務部）		
	一野 勇太（医療技術部）		
事務局	吉田みのり	本間 美江	
看護部	土田 周子	根布 実穂	
	鈴木 桂子	小野寺由美	
	大崎 朱美	浜田 由希	
	野 達也	古瀬 康江	
医療技術部	多田 梨保	伊藤 朱莉	
	内藤 格	山中 佑香	
	松村 真満	斉藤亜里紗	
事務部	浦見 悦子	豊川 哲康	
	葛西 淳子		

【活動内容】

コロナ禍までは、ロビーコンサートや各種研修などの企画・運営も行ってきましたが、今年度は、まだまだ感染状況も予測し難い状況もあり、患者満足度調査と接遇の2つのグループに分かれての活動しました。

患者満足度調査グループ

- ・患者満足度調査 令和4年6月・12月に、外来待ち時間調査、外来待ち時間対策のための他院への視察、外来待ち時間対策に関する患者呼び出し表示システムの検討、会計待ち時間対策の検討（自動精算機・後払い決済）を実施しました。

外来

	2022年度	2021年度	2020年度						
回答数	232	165	122						
総合評価 当院平均値	4.14	4.03	4.3						
総合評価 ベンチマーク (BM) 平均点	4.09	4.11	4.13						
総合評価 BM同規模平均点	4.07								
※ベンチマーク情報：一般小規模（～199）11、一般中規模（200～499）51、一般大規模（500～）41、リベリ14、療養・リハビリ14、精神5、合計136病院									

外来満足度調査では前年度と比較すると総合評価平均値は上昇した結果となりベンチマーク結果でも平均点を上回った。

フリーコメントでは主に外来待ち時間についてのご意見が多かった。

入院

	2022年度	2021年度	2020年度						
回答数	11	16	25						
総合評価 当院平均値	4.27	4.13	4.31						
総合評価 ベンチマーク (BM) 平均点	4.35	4.42	4.4						
総合評価 BM同規模平均点	4.37								
※ベンチマーク情報：一般小規模（～199）12、一般中規模（200～499）50、一般大規模（500～）39、リベリ8、療養・リハビリ12、精神6、合計127病院									

入院満足度調査は外来満足度調査同様に前年度より向上したがベンチマーク結果では平均点が下回っている。
・患者さんからのご意見に対しては、速やかな対応を心がけています。

1階のトイレの入り口を分かりやすく表示しました



1階のトイレ内のペーパーホルダーの位置をどなたにも使いやすい位置に変更しました



接遇グループ

- ・「接遇プロジェクトチーム」が作成した『接遇マニュアル』の職員への周知と優秀者の選定を行いました。周知方法は接遇マニュアル内から職員へのクイズ形式とし、優秀者の選定はクイズで満点であった方を所属長に連絡し部署ごとに優秀者を1名推薦しました。優秀者の方々には「医療者として、私がこころがけている接遇について」のテーマを200字程度でまとめていただき、最優秀者を和田院長に選考依頼を致しました。

<スケジュール>

- 8月 クイズ作成班、推薦基準作成班に分担
- 9月～11月 接遇マニュアルの中からクイズ作成、推薦基準の作成
- 12月 職員にクイズ出題
- 1月 クイズ全問正解者から優秀者を部署ごとに1名推薦
優秀者は「医療者として、私がこころがけている接遇について」200字程度でまとめていただいた。
- 2月 和田院長に優秀者の中から最優秀者を選考していただいた。
最優秀者は「理学療法士 花田健」さんに決定した。
- 3月 接遇プロジェクトチームに最優秀者決定と報告をした。

【今後の目標】

今後の目標

- ・入院満足度調査結果において、ベンチマーク結果を平均点以上、および回答数は100件以上を目指します。患者さんのご意見箱の回答に対する現状を調査し、速やかな改善を継続していきます。
- ・会計待ち時間対策として自動精算機の導入と後払い決済アプリの導入を目指します。さらに診察待ち時間対策として呼び出し表示システム導入の調整を致します。
- ・『接遇マニュアル』の職員への周知と優秀者の選定を行い、済生会小樽病院の職員として、更なる接遇の向上を目指します。

文責：一野、阿畠、菅原



手・肘センター

【スタッフ】

診療部	医師	和田 卓郎	院長、日本手外科学会専門医
		織田 崇	診療部長、日本手外科学会専門医
医療技術部	作業療法士	山中 佑香	技術係長
		高橋 靖明	技術主任
		小島 希望	日本作業療法士協会認定作業療法士
		五嶋 渉	
		河村 結	
		白戸 力弥	日本作業療法士協会認定作業療法士

【部署の特徴】

当センターは、手と肘の診療を専門とする医師と作業療法士が担当しています。新鮮重度損傷や先天異常を除く、手と前腕、肘の外傷や変性疾患を対象としています。月1回のケースディスカッションを開催し、患者さんの治療方針、目標設定などについて議論しています。より質の高い治療を医師と作業療法士で検討することで、機能面だけでなく患者満足度の向上に努めています。また、学術活動を通して、患者や治療に還元できる臨床研究を積極的に行い、さらなる質の高い治療ができるよう日々研鑽を積んでいます。

また、平成28年4月より新設された精密知覚機能検査の算定や、スプリント作成を通して、増収への貢献だけでなくより専門的な治療も行っています。さらに当院は北海道で数少ない筋電電動義手の実施装着訓練機関の一つであり、手・肘センターではこの筋電義手訓練について北海道各地より患者さんを受け入れ、上肢切断者に対する最先端のリハビリテーションを行っています。

【実績】

- 精密知覚機能検査 161件（手根管症候群128件、肘部管症候群24件、その他9件）
- スプリント作成 100件
- 手術 320件（抜釘と上腕および橈骨遠位端骨折以外の前腕骨折を除く）

【令和4年度の取り組み】

- ケースディスカッション 毎月1回（医師、作業療法士）
- ミーティング 毎週1回（作業療法士のみ）
- 外部研修受け入れ 2名（弘前大学附属病院、日本医療大学）
- 院外勉強会 1件（詳細は学会・研究発表参照）
- 学会発表 9件（詳細は学会・研究発表参照）
- 論文・著書 7件（詳細は論文発表参照）

【今後の目標】

小樽・後志地区はもちろんのこと、道内外において患者と医療者の双方に選ばれるよう日々研鑽を重ね、丁寧な診療・リハビリテーション提供ができるよう心がけます。

小樽・後志地区は作業療法士不在市町村が50%にも及びます。高齢者に対する遠隔リハビリテーションの可能性を模索し、当院での治療後にも適切なフォローができるよう検討していきます。

文責 作業療法士 山中 佑香

済生会ウエルネスフェア開催

ウエルネスフェア開催で市民に活気!

6月20日～26日、小樽市民に、あかるく、たのしく、生き生きとしたウエルネスライフを過ごしていただけるよう「済生会ウエルネスフェア」を開催しました。会場はウイングベイ小樽「済生会ビレッジ」です。

感染症が蔓延してはや3年がたち、人と人とが距離を取りながらコミュニケーションを図るICTの活用が進み、社会を取りまくコミュニティのあり方は大きく変わりました。しかしながら、高齢化率が高い小樽市民にとっては、同じ空間で繋がりを実感できる場を望んでいたことと思います。

今回のウエルネスフェアでは、多くの企業にご協力を頂き、ソーシャルイベントにふさわしい様々なブースを用意することができました。

25日(土)は、「スペシャルデイ」と題し、メインのイベントが行われました。①講演②健康測定③健康運動と大きく3つのカテゴリで企画いたしました。講演会では、当会炭谷茂理事長に「済生会におけるソーシャルインクルージョンのまちづくり」についてご講演いただきました。理事長は、「障害者や貧困者など社会的に弱い立場の人々を地域社会が受け入れる『ソーシャルインクルージョン』という理念に基づいたまちづくりに済生会は取り組んでいる。地域の皆さんと一緒にこれを進めていきたい」と話されました。参加した市民からは「ソーシャルインクルージョンを理解できた。分かりやすい説明だった」「熱い思いが伝わった」等のたくさんの感想が寄せられました。

健康測定では、済生会専門職による骨密度測定、参加企業による体組成計測定、唾液を使った健口チェックを実施。すべての測定に有資格者が付き、参加者に健康状態を分かりやすく説明させていただきました。

健康運動については、ウエルネスフェアに合わせて「済生会ウイングベイウォーキング」をスタート。日本最大級のショッピングモールに3つのウォーキングコースを設定し、小樽病院のリハビリスタッフと一緒にコース内のウォーキングを体験。歩き方のコツを学びながら心地よい汗を流していただきました。

26日(日)にはからだの不自由なお子さんの「あそび」に関する工夫を紹介するイベント「あそびログ」を開催しました。補助具を使うなど、あそび方の工夫により、これまで気づかなかった方法やお子さんの様子の変化などを発見頂けたようです。

済生会ウエルネスフェアは、期間を通し約2,000人が来場され大成功。市民から「来年はいつやるの?」とちょっと気の早い質問も頂いています。

ウイングベイ小樽を運営する株式会社小樽ベイシティ開発と北海道済生会は、ウエルネスタウン構築に係る連携協定を提携し、身体的、精神的、環境的、また社会的なウエルネス地域に提供できるようさまざまな取り組みを実施しております。この先もソーシャルインクルージョンの実現に向け、北海道済生会一丸となって地域をリードしていききたいと思います。

文責 北海道済生会 支部事務局 清水 雅成



臨床研修医

1年次初期研修を終えて

令和4年4月1日～令和5年3月31日
馬場 祐樹

済生会小樽病院での研修は、最初は私にとって不安な面もありました。病院にとっては久しぶりの研修医であり、同期や2年目の研修医もいなかったためです。疑問を相談できる人がおらず、業務に影響が出ないか心配でした。

しかし、そのような心配は杞憂に終わりました。実際に働き始めると、多くの知識を持った先生方が教えてくださいました。こちらが質問した際も、丁寧に答えてくださり大変助かりました。

実際の研修内容として、整形外科では多くの手術の執刀を行うことができました。未熟な点が多く、円滑な手術ではありませんでしたが、先生方の適切なご指導のおかげで1年目とは思えないほど多くの手術を経験させていただきました。整形外科を目指すものとして、最適なスタートができたと感じています。

内科では、主に病棟対応と救急対応を学びました。内科患者の方々は、症状が急変する方や緊急性の高い疾患の方も多く、最初は取り乱すことも多かったです。しかし、内科の先生方から、どのように考えて検査を行いクリティカルな疾患を診断するのかを学べたおかげで少しずつ対応することができるようになりました。また、病棟患者の何に注意しながら経過観察をするのかを学ぶこともできました。手術前後の病棟管理を不安なく行えたのは、間違いなく内科での研修が役立っていると感じました。

1年間という短い期間でしたが、多くのことが学べました。済生会小樽病院で学んだことを生かし、医師として成長できるように努めます。親身にご指導くださり、本当にありがとうございました。

済生会小樽病院での地域研修を終えて

令和4年6月1日～30日
小樽市立病院 初期臨床研修医 長嶋 耀

今年度から、小樽市立病院の初期臨床研修プログラムの一環として、済生会小樽病院での地域研修を選択できるようになったと伺い、この度選択させていただきました。

1ヶ月の研修では、脳神経内科患者の病棟管理、緩和ケア内科研修、内科新患外来のファーストタッチ、リハビリテーション科研修、救急患者対応、各種カンファレンスへの参加等複数の科で様々な形で研修させていただきました。

脳神経内科の病棟管理では、松谷先生ご指導の下、様々な神経内科的疾患の徴候を実際に見ることができました。中には今まで教科書で見たことがあるだけの神経学的徴候もあり、実際にそれらを見てみると、教科書の文章から自分がイメージしていたものとは違うものもあり、ウィリアム・オスラーの格言；『3時間机で勉強するよりもベッドサイドの15分が勝る』を痛感致しました。

緩和ケアチームでの研修では、緩和ケア内科の菊地先生からせん妄と認知症の鑑別や、せん妄ハイリスク患者への対応プロトコルなど非常に実用的な知識を数多く教えて頂きました。また、キャリア形成に関するお話も詳細にして頂き、大変参考になりました。

リハビリテーション科研修では札幌医科大学リハビリテーション科の石合教授の外来や、野田先生の回復期リハ病棟カンファレンス、田中先生のリハビリテーション室での業務を見学させて頂きました。もともとリハビリテーション科医に関心を持っていたものの、実際に働いている様子を見る機会が少なかったため、今回の研修でリハビリテーション科医の様々な業務を実際に見ることができ、リハビリテーション科医の業務内容をイメージしやすくなりました。またPT、OT、STの方々から、各種リハビリの点数算定条件、書類業務の違いを丁寧に教えて頂き、今後リハビリをオーダーする際に、より自分の中で理解した形でリハビリをオーダーできると感じました。

最後になりますが、1ヶ月間、お世話になった済生会小樽病院の職員の皆様に厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

済生会小樽病院での研修を終えて

令和4年10月3日～10月28日
山形済生病院 研修医 本荘和輝

「マジで神!」「小樽はほんとに素晴らしい所!」「小樽最高?」

私の病院の先輩方で小樽で地域医療研修を行った人は皆すべからくそう語っていた。

『そんなに良いのか…なら俺も行くしかないな…!』
こうして私の地域医療研修先が決まった。

令和4年10月某日、秋晴れの心地のよい午後、彼女のBMWの送迎にて山形空港へ向かった。いざ搭乗してしまえば新千歳空港まではたったの1時間。早い!しばしの別れを惜しむ間も無かった。

『我今まさに北の大地に降り立たんとす…!!』

昨年旅行で来て以来約1年ぶりの北海道であるが既にテンションは高まっていた。1年前と違い今回は研修としてここに来ている。旅行なのは気分だけにしておこう…自分を戒める。その後電車で揺られること1時間半、大きな期待と眠気とともに小樽築港へ。

駅を出るとさっそく巨大なショッピングモールがお出迎えた。

『VIVA☆』

歓迎されてる!?!心憎い演出に感激を覚えつつ線路脇の歩道を進むことに。1ヶ月分の荷物を詰め込んだトランクを引きずって歩くのはなかなかの重労働だ。15分程は経ただろうか。息も少し切れてきたがいまだに右手側にはショッピングモールが続いている。

流石に長すぎワロタ。

永遠に続くかと思われたイオンもやがて終わりを迎え、気がつくところには済生会小樽病院の姿があった。「やっと着いた☆」

こうしてたどり着いた済生会小樽病院では普段の研修では学ぶことのできない貴重な体験が出来た。小樽市の高齢化率は40%であり、これは僅差で全国2位なんだそう。認知症カンファやリエゾン、緩和ケアに参加し、患者と接することで、そんな地域における医療の現状を垣間見ることができた。

また一方で病院すぐ近くを流れる川には鮭が遡上する姿を見ることも。道半ばで力尽きカラスやカモにつつかれてるもの、傷つきながらもそれでも上へ上へと泳ぎ続けるもの。

さまざまな鮭の姿に夕暮れ時の寒さも忘れしばし見とれてしまった。忘れられない小樽の光景だ。

基幹病院ではひたすら仕事に追われてきたが、この1ヶ月は色々なことに目を向ける時間となった。小樽はここには書き切れないほど、医療、自然、食事、歴史などたくさんの魅力の詰まった街であった。とでも

充実した日々だった。

あっという間に地域医療研修は終わり、今は山形にて夜中の医局で1人機に向かい、小樽の日々を思い出しながらこの文を綴っている。一週間ほど前のことなのにすごく懐かしく感じる。また行きたい。

最後になりましたがお世話になった先生方・スタッフの方々に感謝申し上げます。ありがとうございました。

今後済生会小樽病院について尋ねられる機会があれば私はこう答えるはず。

「マジで神☆」。

論文発表

執筆者・共同執筆者	タイトル	掲載誌	巻・号・項	発行年月
Hitomi Tomohara- Ichishima,Hidetaka Wakabayashi,Keisuke Maeda,Shinta Nishioka, Ryo Momosaki	Relationship of body mass index on activities of daily living in hospitalized patients with chronic obstructive pulmonary disease	Respiratory Medicine and Research	81	2022年 5月
五嶋 渉 織田 崇 山中 佑香・白戸 力弥 小島 希望・和田 卓郎	橈骨遠位端骨折術後の患側手の満足度に影響を与える因 子の検討	日本手外科学会 雑誌	38(4) 434-436	2022年
小島 希望 白戸 力弥 山中 佑香 五嶋 渉 織田 崇 和田 卓郎	母指CM関節症に対する関節形成術の満足度に関連する 要因の検討	日本手外科学会 雑誌	38(5) 610-613	2022年
山中 佑香 白戸 力弥 織田 崇 小島 希望 野坂 利也 和田 卓郎	労災補償制度による筋電電動義手を適用した片側前腕切 断症例	作業療法の実践 と科学	4(3) 55-60	2022年
白戸 力弥 山中 佑香 長南 行浩	上肢外固定が自動車運転能力へ与える影響に関する文献 レビュー	作業療法	41(2) 171-177	2022年
菅原 良介 藤本秀太郎 大島 崇史 織田 崇 山中 佑香	大腿骨近位部骨折術後に自立歩行再獲得の可否を予測す るために適した評価項目と時期の検討	骨折	45(5) 424-427	2023年
織田 崇 和田 卓郎	上腕骨内側上顆炎に対する鏡視下手術	整・災外	65 379-384	2022年
Takashi Hayashi Takashi Matsushita Shin Hisahara Naotoshi Iwahara Atsushi Kuno Risa Kunitomo Ryusuke Hosoda Masaya Tanno Shun Shimohama Yoshiyuki Horio	Ubiquitin-dependent rapid degradation conceals a cell -protective function of cytoplasmic SIRT3 against oxidative stress	J Biochem	Feb 21: 171(2) 201-213	2022年

著書

著者	タイトル	著書名	編者	ページ	発行年	出版社
織田 崇	上腕骨遠位部骨折	年代別四肢骨折治療のアプローチ	高平尚伸 和田卓郎	232-236	2022年	南江堂
織田 崇	楔閉じ骨切り術	橈骨遠位端骨折:進歩と治療の選択 The Cutting Edge	森谷浩治 依田拓也	273-279	2023年	金原出版

学会・研究発表

部署名 (発表者)	演題名	発表者	共同発表者				学会名	発表年月日	場所(市町村)
リハ シヨ ン室 ター	手根管症候群の重症度診断におけるSemmes-Weinstein Monofilament Testの有用性の検討	奥村 修也	工藤 高山	文孝 拓人	野島 山中	美希 佑香	第65回日本手 外科学会学術 集会	4月14日、 15日	オンデマンド
リハ シヨ ン室 ター	後骨間神経麻痺に対する腱移行術の リハビリテーションを行った一例	河村 結衣	山中 五嶋	佑香 渉	高橋 白戸	靖明 力弥	北海道ハンド セラピー研究 会・第160回症 例検討会	5月	札幌市
診療 部	Tillaux-Chaput結節の剥離骨折を 伴う足関節果部骨折に対する suture tapeを用いた内固定術の 短期成績	大嶋 崇史	藤本 池田 和田	秀太郎 康利 卓郎	寺本 織田 山下	篤史 崇敏 敏彦	第95回日本整 形外科学会	2022年 5月19日	神戸市
テリ ンハ 室シ ビヨ リ	手内在筋拘縮が生じた多数指の基 節骨折術後の症例に対するハンド セラピー	五嶋 渉	白戸	力弥	山中	佑香	第52回北海道 作業療法学術 大会	6月11日、 12日	オンデマンド
テリ ンハ 室シ ビヨ リ	最新の多指駆動型筋電動義手を 使用した前腕切断の一症例	山中 佑香	白戸 河村 野坂	力弥 結利 也	五嶋 小島 織田	渉 希望 崇	第52回北海道 作業療法学術 大会	6月11日、 12日	帯広市
診療 部	Open Wedge HTO術後修復軟骨 組織像関係する因子の検討	池田 康則	和田 近藤 近藤	卓郎 真章 弘貴	織田 濱田	崇 修人	JOSKAS- JOSSM 2022	2022年 6月17日	札幌市
診療 部	レンボレキサントにおけるせん妄 予防の可能性について Possibility of preventing delirium in Lemborexant (ポス ター発表)	菊地未紗子	上村 恵一				第118回日本精 神神経学会	2022年 6月16日	福岡県福岡市
診療 部	Tillaux-Chaput結節の剥離骨折を 伴う足関節果部骨折に対する suture tapeを用いた内固定術の 短期成績	大嶋 崇史	藤本 織田	秀太郎 崇	寺本 山下	篤史 敏彦	第48回日本骨 折治療学会	2022年 6月24日	横浜市
診療 部	大腿骨近位部骨折術後に再獲得可 能な移動能力を予測 するのに適し た評価時期の検討	菅原 良介	藤本 山中 室矢 織田	秀太郎 佑香 康治 崇	大嶋 三野 宮裕樹 吉武 れおね	崇史 史	第48回日本骨 折治療学会	2022年 6月24日	横浜市
リハ シヨ ン室 ター	大腿骨近位部骨折術後に自立歩行 再獲得の可否を 予測するために適 した評価項目と時期の検討	菅原 良介	藤本 山中 室矢 織田	秀太郎 佑香 康治 崇	大島 三野 宮祐樹 吉武 れおね	崇史 史	第48回日本骨 折治療学会学 術集会	6月24日	横浜市
テリ ンハ 室シ ビヨ リ	COVID-19患者への直接介入の経験	米田健太郎	浅香 松山	翔梧 朋也	廣田 髭内	正和 紀幸	第73回北海道 理学療法士学 術大会	6月25日、 26日	旭川市
診療 部	せん妄を呈した内服困難な難治性 嘔吐に対しプロナンセリン貼付剤 が有効であった2症例 (ポスター 発表)	菊地未紗子	上村 恵一				第27回日本緩 和医療学会	2022年 7月1日、 2日	兵庫県神戸市
診療 部	プレカット法を用いたPsmobile bearing型 TKAにおける術中キネ マティクスとバーチャルGapの評 価	池田 康利	濱岡 高橋 興村 山下	航大 克典 慎一郎 敏彦 (札幌医科大 学整形外科)	岡田 塩泡 寺本	葉平 孝介 篤史	第141回北海道 整形災害外科 学会	2022年 7月3日	札幌市
診療 部	甲状腺結節術後10年に出現し、切 除生検にて診断した頸部腫瘍の一 例	水越 常德	明石 舩谷 永洞 山	浩史 治郎 明典 直也	宮地 安丸 木村	敏樹 卓磨 雅美	第38回北海道 甲状腺談話会	2022年 7月23日	札幌市
診療 部	長期間の職業的暴露による慢性ト ルエン中毒の1例	水越 誉久	藤倉 林	舞 貴士	平野 理都 松谷	子 学	第110回日本神 経学会北海道 地方会	2022年 9月10日	オンライン
診療 部	脳室拡大と中小脳脚の高信号を認 めた白質脳症の1例	水越 誉久	平野 林 久原	理都 貴士 真	子 松谷	舞 学	第110回日本神 経学会北海道 地方会	2022年 9月10日	オンライン

診療部	高齢者骨盤脆弱性骨折に対する Anterior Subcutaneous Internal Fixatorによる治療	近藤 弘基	織田 崇 濱田 修人 和田 卓郎	加我 池田 美紗 康利 真章	第5回全国済生 会整形外科研 究会	2022年 9月24日	水戸市
リ ン ハ ビ リ テ ー 室	コロナ渦における院内オンライン リハビリの取り組み	山中 佑香	高橋 靖明 米田 健太郎 松村 真満 平塚 渉	林 山平 加賀 潤輝	第5回済生会リ ハビリテー ション研究会	10月22日、 23日	小樽市
テリ ン ハ ビ リ テ ー 室	Zoomを用いた課内勉強会の取 組み	武田 康弘	阿部 将也 山中 佑香	中村 謙介	第5回済生会リ ハビリテー ション研究会	10月22日、 23日	小樽市
リ ン ハ ビ リ テ ー 室	大腿骨近位部骨折術後に自立歩 行再獲得の可否を予測するに 適した評価項目と時期の検討	菅原 良介	藤本秀太郎 山中 佑香 室矢 康治 織田 崇	大島 崇史 三野宮祐樹 吉武れおね	第5回済生会リ ハビリテー ション研究会	10月22日、 23日	小樽市
テリ ン ハ ビ リ テ ー 室	重症化した新型コロナウイルス陽 性者に対する理学療法介入	浅香 翔梧			第5回済生会リ ハビリテー ション研究会	10月22日、 23日	小樽市
放 射 線 室	インプラントの形状別に見た骨接 合術後CTにおける金属アーチ ファクト低減技術(MAR)の有 用性	但木 勇太			北海道放射線 技師会研修会 (小樽後志)秋 季会員研究発 表会	11月26日	小樽市
栄 養 管 理 室	回復期病棟における栄養管理が 自宅退院に与える影響について	西澤 一步	多田 梨保 一島妃東美	権城 泉	第3回日本病態 栄養学会 北海道地方会 学術集会	令和4年 10月22日	札幌市
看 護 部	地域包括ケア病棟看護師の退 院支援・在宅療養支援に関する 文献検討(現状と課題に着眼 して)	林 裕美子	松原三智子		第74回北海道 公衆衛生学会	10月22日	札幌市
薬 剤 室	透析患者における膝結核性関 節炎の薬学的介入が治療に 寄与したと考えられる一症 例	一野 勇太	小野 徹 上野 誠子	鈴木 景就	日本腎臓病薬 物療法学会	2022年 10月29日	長崎市
薬 剤 室	当院におけるCOVID-19治療 でのステロイド使用による血 糖管理状況についての実態調 査	青木有希子			第56回日本糖 尿病学会北海 道地方会	10月22日	札幌市
臨 床 検 査 室	当院でのチームで取り組む血 糖値管理	岡本 晃光	なし		第29回小樽地 区会員研究発 表会	令和4年 11月22日	小樽市
臨 床 検 査 室	当院検査でE遺伝子のみ陽性 となった新型コロナウイルスの 2症例	嶋 優人	岡本 晃光		第29回小樽地 区会員研究発 表会	令和4年 11月22日	小樽市
診 療 部	甲状腺結節術後10年に出現し 、切除生検にて診断した頸部 腫瘍の一例(ポスター発表)	水越 常德			第65回日本甲 状腺学会	2022年 11月3日	大阪府大阪市
診 療 部	Tillaux-Chaput結節の剥離骨 折を伴う足関節果部骨折に対 するsuture tapeを用いた内固 定術の短期成績	大嶋 崇史	藤本秀太郎 織田 崇	寺本 篤史 山下 敏彦	第47回日本足 の外科学会	2022年 11月3日	松山市
診 療 部	投球制限ガイドライン適用後 の中学硬式野球チームの野球 肘検診-超音波検査所見から- (シンポジウム)	織田 崇	花田 健 和田 卓郎	齋藤 生夏	第33回日本臨 床スポーツ医 学会	2022年 11月12日	札幌市
診 療 部	高齢者の橈骨遠位端骨折内固 定後に遺残した尺骨頭掌側不 安定症の治療の経験	織田 崇	和田 卓郎 近藤 弘基 池田 康利	加我 濱田 美紗 康利 真章	第37回 東日本 手外科研究会	2023年 1月28日	秋田市
診 療 部	母指CM関節症に対するMini TightRopeを使用した関節形 成術後に生じた第2中手骨骨 折の1例	加我 美紗	織田 崇 濱田 修人 和田 卓郎	近藤 弘基 池田 康利 真章	第37回 東日本 手外科研究会	2023年 1月28日	秋田市
診 療 部	関節鏡視下手根管開放術後1 年で神経損傷が発覚した1例	近藤 弘基	織田 崇 濱田 修人 和田 卓郎	加我 池田 美紗 康利 真章	第37回 東日本 手外科研究会	2023年 1月28日	秋田市
診 療 部	上腕骨内側上顆炎の手術 上 腕骨内側上顆炎の鏡視下手 術の成績における筋性起始部 病変の影響(パネルディスカ ッション)	織田 崇	山中 佑香 和田 卓郎	白戸 力弥	第35回日本肘 関節学会	2023年 2月3日	山形市

診療部	重症筋無力症に甲状腺眼症を合併した1例	水越 誉久	平野理都子 林 貴士 久原 真	藤倉 松谷 舞学	第111回日本神経学会北海道地方会	2023年 3月4日	札幌市
診療部	鉛中毒の診断となった一例	安丸 卓磨	宮地 敏樹 水越 常德 永洞 明典	舩谷 治郎 明石 浩史	小樽市医師会研究発表会	2023年 3月3日	小樽市

講 義（大学・専門学校他）

講師	講義テーマ	講義名	講義先	年月日	場所
明石 浩史	バイオインフォマティクス	応用医療情報学	札幌医科大学 医学部 医学科4年	2022年4月12日	札幌市
松谷 学	内科学 呼吸器疾患	作業療法学・理学療法学	北海道文教大学	2022年4月18日 4月25日	恵庭市
明石 浩史	情報倫理とリスク	応用医療情報学	札幌医科大学 医学部 医学科4年	2022年4月26日	札幌市
明石 浩史	医療情報と標準化	応用医療情報学	札幌医科大学 医学部 医学科4年	2022年5月10日	札幌市
明石 浩史		作業療法学・理学療法学	北海道文教大学	2022年5月25日 5月31日	恵庭市
水越 常德		作業療法学・理学療法学	北海道文教大学	2022年6月9日 6月16日 6月30日	恵庭市
林 貴士	必修クリニカルクラークシップ 選択クリニカルクラークシップ	作業療法学	北海道文教大学	2022年6月24日 11月2日 12月23日 2023年1月13日 1月20日	恵庭市
織田 崇	作業療法治療学特論 -手の外科療法と画像診断	リハビリテーション学	日本医療大学	2022年7月21日	札幌市
近藤 弘基	脆弱性骨盤輪骨折	第5回全国済生会 整形外科研究会・学術集会	全国済生会 整形外科研究会	2022年9月24日	水戸市
明石 浩史	e-learningの復習・質問	第13回函館五稜郭病院 緩和ケア研修会	函館五稜郭病院	2022年9月3日	函館市
藤原 大地	終末期看護	成人看護学方法論Ⅳ	美専学園北海道 医薬専門学校	2022年9月5日 9月12日	札幌市
松谷 学	症候診断学	けいれん・不随意運動について	札幌医科大学医学部	2022年10月3日	札幌市 (オンライン開催)
松谷 学	成人看護学		看護学校	2022年10月18日 10月25日 11月1日	小樽市 (オンライン開催)
松谷 学	脳神経内科学 総論	作業療法学・理学療法学	北海道文教大学	2022年10月3日 10月17日 10月23日	恵庭市
織田 崇	手と肘の痛みをきたすコモンディージーズ -疼痛管理とピットフォール-	余市医師会講演会	余市医師会	2022年10月13日	余市町
菊地未紗子	コミュニケーションについて	北海道緩和ケア研修会	手稲溪仁会病院	2022年10月29日	札幌市
織田 崇	手と肘の痛みをきたすコモンディージーズ -疼痛管理とピットフォール-	トータルケアシンポジウム in札幌		2022年11月12日	札幌市
明石 浩史		第12回 小樽市立病院緩和 ケア研修会	小樽市立病院	2022年11月26日	小樽市
菊地未紗子	コミュニケーションについて	第12回 小樽市立病院緩和 ケア研修会	小樽市立病院	2022年11月26日	小樽市
和田 卓郎	教育研修講演4テニス肘・関節鏡 テニス肘をこう治す	第35回日本肘関節学会 学術集会	日本肘関節学会	2023年2月3日	山形市

講演

演者	演題	講演会名	主催者	年月日	場所
權城 泉	栄養食事療法	栄養学	小樽看護専門学校	2022年 10月5日	小樽市
權城 泉	栄養食事療法	栄養学	小樽看護専門学校	2022年 10月12日	小樽市
權城 泉	栄養食事療法	栄養学	小樽看護専門学校	2022年 10月19日	小樽市
權城 泉	栄養食事療法	栄養学	小樽看護専門学校	2022年 10月26日	小樽市
權城 泉	栄養食事療法	栄養学	小樽看護専門学校	2022年 11月2日	小樽市
權城 泉	栄養食事療法	栄養学	小樽看護専門学校	2022年 11月9日	小樽市
藤原 大地	がん患者の抑うつ・不安に対する看護ケア	2023イフェクサー SR エキスパートセミナー	ヴィアトリス製薬	2023年 3月17日	札幌市
多田 梨保	北海道済生会を核とした地域住民の健康と安心のまちづくり	第7回関東済生会栄養士・ 管理栄養士会研修会	全国済生会栄養 士・管理栄養士会	2022年 7月23日	小樽市 (オンライン開催)
多田 梨保	骨粗鬆症を予防する食生活	地域版介護予防教室	南部包括支援セン ター	2022年 8月24日	小樽市
岡本 晃光	チームで取り組む血糖値管理 ～検査技師の関わり方～	第5回 後志臨床糖尿病 フォーラム	後志臨床糖尿病 フォーラム/大正製 薬株式会社	令和4年 9月30日	小樽市

座長

座長	学会・講演名	座長を行った演題	主催者	年月日	場所
木村 雅美 (コメンテーター)	第10回腹腔鏡下胆道手術研究	セッション2 総胆管結石切 開・縫合／総胆管切開後結石 除去	腹腔鏡下胆道手 術研究	2022年1月5日	東 京 (web)
水越 常德	第38回北海道甲状腺談話会	セッションII ワクチンと亜急 性甲状腺炎	第38回北海道 甲状腺談話会	2022年 7月23日	札幌市
堀田 浩貴	第32回日本性機能学会総会	一般演題 腹壁・腹膜・後腹膜	日本性機能学会	2022年 9月10日	横浜市
山中 佑香	パーキンソン病の治療とリハビリ テーション研究会	後志地区における医療介護連 携の取り組み事例	武田薬品工業株 式会社	2022年 10月7日	小樽市
多田 梨保	日本病態栄養学会北海道地方会	一般演題	日本病態栄養学 会	2022年 10月22日	札幌市
菊地未紗子	第15回小樽病診察連携カンファ レンス	心不全の緩和ケア	済生会小樽病院	2022年 11月22日	ZOOM
一島妃東美	第19回日本栄養改善学会北海道 支部学術総会	一般演題 Bセッション	特定非営利活動 法人 日本栄養 改善学会北海道 支部	2022年 12月4日	札幌市
和田 卓郎	第37回東日本手外科研究会	一般演題14 前腕・肘	東日本手外科研 究会	2023年 1月28日	秋田市
織田 崇	第35回日本肘関節学会	外側上顆炎	第35回日本肘 関節学会	2023年 2月3日、4日	山形市
高田美喜生	第95回小樽市医師会会員研究発 表会	突発性近位DVTにおける抗凝 固薬の至適投与期間について の検討他	小樽市医師会	2023年 3月3日	小樽市
林 貴士	日本神経学会 北海道地区生涯教 育講演会	認知症カフェなどを利用した 市民への啓発活動について	日本神経学会	2023年 3月5日	オンライン

大会長

	会 名	日時 開催場所
近藤 真章	第5回済生会リハビリテーション研究会 in 小樽	2022年10月23日 小樽市

認定資格

	名前	認定学会名	評議員
診療部	近藤 真章	日本整形外科学会	専門医・認定脊椎脊髄病医・認定スポーツ医・リウマチ医
		日本スポーツ協会	公認スポーツドクター
		日本医師会	認定産業医
	和田 卓郎	日本整形外科学会	専門医
		日本手外科学会	専門医
		日本体育協会	スポーツドクター
		日本医師会	認定健康スポーツ医
			日本臨床研修指導医
診療部	水越 常德	日本内科学会	総合内科専門医・認定医・指導医
		日本内分泌学会	指導医・専門医
		日本甲状腺学会	専門医
		日本消化器病学会	専門医
		日本環境感染学会	インфекションコントロールドクター
		日本人間ドック学会	認定医
		日本医師会	認定産業医
			日本臨床研修指導医
	明石 浩史	日本内科学会	総合内科専門医・認定医
		日本消化器病学会	専門医
		日本がん治療認定医機構	がん治療認定医
		日本消化器内視鏡学会	専門医
			日本臨床研修指導医
	舩谷 治郎	日本内科学会	認定内科医
		日本消化器内視鏡学会	専門医
	高田美喜生	日本病院会	病院総合医
	松谷 学	日本神経学会	指導医、専門医
		日本内科学会	認定内科医・指導医・総合内科専門医
		日本認知症学会	専門医・指導医
		厚生労働省	厚生労働省指定オンライン診療研修終了
		図書館法第6条規定	司書講習修了
			臨床研修医制度プログラム責任者 養成講習会終了
			日本臨床研修指導医
	林 貴士	日本神経学会	専門医
		日本内科学会	認定内科医・総合内科専門医・指導医
		日本神経内科学会	指導医
			認知症サポート医
			日本臨床研修指導医
	藤倉 舞	日本神経学会	専門医
		日本内科学会	認定内科医
		日本内科学会	総合内科専門医
		日本認知症学会	指導医・専門医
	平野理都子	日本神経学会	専門医
		日本内科学会	認定内科医

診療部	木村 雅美	日本外科学会	指導医・専門医
		日本消化器外科学会	指導医・専門医・消化器がん外科治療認定医
		日本内視鏡外科学会	技術認定取得者
		日本消化器病学会	専門医・指導医
		日本がん治療認定医機構	がん治療認定医
		日本乳がん検診精度管理中央委員会	検診マンモグラフィ認定医
			難病指導医
			日本臨床研修指導医
	田山 誠	日本外科学会	専門医
	片山 知也	日本外科学会	専門医・指導医
		日本消化器外科学会	専門医・指導医 消化器がん外科治療認定医
		日本内視鏡外科学会	技術認定取得者
		日本大腸肛門病学会	専門医
		日本消化器病学会	専門医
		日本がん治療認定医機構	がん治療認定医
		日本乳がん検診制度管理中央委員会	検診マンモグラフィ読影認定医
診療部	織田 崇	日本整形外科学会	専門医・脊椎脊髄病医
		日本手外科学会	専門医・指導医
		日本骨粗鬆学会	認定医
			日本臨床研修指導医
	池田 康利	日本整形外科学会	専門医
		日本スポーツ協会	公認スポーツドクター
	濱田 修人	日本整形外科学会	専門医
	堀田 浩貴	日本泌尿器科学会	専門医・指導医
		I C D 制度協議会	インフェクションコントロールドクター
		日本性機能学会	専門医
		日本がん治療認定医機構	がん治療認定医
		日本医師会	認定産業医
		日本化学療法学会	抗菌化学療法認定医
			日本臨床研修指導医
			臨床研修医制度プログラム責任者 養成講習会修了
	安達 秀樹	日本泌尿器科学会	指導医・専門医
		日本性機能学会	専門医
	加藤 秀一	日本泌尿器科学会	専門医・指導医
		日本泌尿器科学会・日本泌尿器内視鏡学会	泌尿器腹腔鏡技術認定医
		日本がん治療認定医機構	がん治療認定医
		日本泌尿器科学会 日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会	泌尿器ロボット支援手術プロテクター認定医
		ICD制度協議会	インフェクションコントロールドクター
	菊池未紗子	日本精神神経学会	指導医、専門医
		日本サイコオンコロジー学会	登録精神腫瘍医
			日本臨床研修指導医
			精神保健指定医
看護部	金澤ひかり	日本消化器内視鏡学会	消化器内視鏡技師
	伊藤 瑞代	日本消化器内視鏡学会	消化器内視鏡技師
	兒玉真夕美	日本消化器内視鏡学会	消化器内視鏡技師

看護部	高井奈津子	日本看護協会	慢性疾患看護専門看護師
		日本NP教育大学院協議会	診療看護師 (NP) (プライマリ・ケア)
			・13特定行為区分 21行為 ・呼吸器(気道確保に係る者) ・呼吸器(長期呼吸療法もの)関連 ・ろう孔管理関連 ・栄養に係るカテーテル管理(中心静脈カテーテル管理) ・栄養に係るカテーテル管理(抹消留置型中心静脈注射用カテーテル管理)関連 ・創傷管理関連 ・動脈血液ガス分析関連 ・栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連 ・感染に係る薬剤投与関連 ・血糖コントロールに係る薬剤投与関連 ・循環動態に係る薬剤投与関連 ・精神及び神経症状に係る薬剤投与関連 ・皮膚損傷に係る薬剤投与関連
	石渡 明子	日本緩和医療学会	ELNEC-J指導者
		日本看護協会	緩和ケア認定看護師
		北海道看護協会	災害支援ナース
			看護師特定行為(栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連 ・循環動態に係る薬剤投与関連 ・精神及び神経症状に係る薬剤投与関連)
	仙保 知子	日本糖尿病療養指導士認定機構	日本糖尿病療養指導士
	中山 祐子	日本静脈経腸栄養学会	N S T 専門療法士
	藤田真由美	日本消化器内視鏡学会	消化器内視鏡技師
	菊地麻衣子	日本消化器内視鏡学会	消化器内視鏡技師
	根布 実穂	日本看護協会	皮膚・排泄ケア認定看護師
			看護師特定行為(栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連 ・創傷管理関連)
	早川恵美子	日本糖尿病療養指導士認定機構	日本糖尿病療養指導士
	藤原 大地	日本緩和医療学会	ELNEC-Jコアカリキュラム指導者
		看護協会	災害支援ナース
	五嶋 佳奈	3学会合同呼吸療法認定士認定委員会	呼吸療法認定士
	澤 裕美		感染抑制実践看護師
薬剤室	上野 誠子	日本薬剤師研修センター	研修認定薬剤師
		日本アンチドーピング機構	公認スポーツファーマシスト
		都道府県知事	介護支援専門員
	鈴木 景就	日本薬剤師研修センター	認定実務実習指導薬剤師・研修認定薬剤師
		日本静脈経腸栄養学会	N S T 専門療法士
		日本緩和医療薬学会	緩和薬物療法認定薬剤師
		日本病院薬剤師会	認定指導薬剤師・生涯研修履修認定薬剤師
		日本緩和医療薬学会	麻薬教育認定薬剤師
	小野 徹	日本病院薬剤師会	感染制御認定薬剤師
		日本薬剤師研修センター	認定実務実習指導薬剤師・研修認定薬剤師
		日本化学療法学会	抗菌化学療法認定薬剤師
		日本病院薬剤師会	日病薬病院薬学認定薬剤師
	一野 勇太	日本腎臓病薬物療法学会	腎臓病薬物療法認定薬剤師
		日本化学療法学会	抗菌化学療法認定薬剤師

薬剤室	笠井 一憲	日本薬剤師研修センター	認定実務実習指導薬剤師・研修認定薬剤師
		日本静脈経腸栄養学会	N S T 専門療法士
		都道府県知事	介護支援専門員
		日本病院薬剤師会	認定指導薬剤師・生涯研修履修認定薬剤師
		日本アンチドーピング機構	公認スポーツファーマシスト
		日本食品安全協会	健康食品管理士
		日本腎臓病薬物療法学会	腎臓病薬物療法単位履修修了薬剤師
		日本薬剤師会	JPALS認定薬剤師
		主催：熱中症予防声かけプロジェクト ／後援：環境省	熱中症対策アドバイザー
		日本食品安全協会	食の安全管理士
	村川麻里子	日本糖尿病療養指導士認定機構	日本糖尿病療養指導士
		日本薬剤師研修センター	認定実務実習指導薬剤師
	青木有希子	日本糖尿病療養指導士認定機構	日本糖尿病療養指導士
		日本薬剤師研修センター	研修認定薬剤師
		日本くすりと糖尿病学会	糖尿病薬物療法准認定薬剤師
	中村 圭介	日本薬剤師研修センター	研修認定薬剤師
		日本アンチドーピング機構	公認スポーツファーマシスト
		日本老年薬学会	老年薬学認定薬剤師
		日本病院薬剤師会	日本病院薬剤師会認定指導薬剤師
	芦名 正生	日本薬剤師研修センター	研修認定薬剤師
		日本臨床腫瘍薬学会	外来がん治療認定薬剤師
	佐渡 望	日本薬剤師研修センター	研修認定薬剤師
検査室	岡本 晃光	日本糖尿病療養指導士認定機構	日本糖尿病療養指導士
	嶋 優人	日本不整脈心電学会	心電図検定2級
放射線室	松尾 覚志	医療情報学会	医療情技師
		科学技術庁	第一種放射線取扱主任者
		日本X線専門技師認定機構	X線C T 認定技師
	舟見 基	日本X線専門技師認定機構	X線C T 認定技師
		日本放射線技師会	放射線管理士・放射線機器管理士
	久保田裕美	日本乳がん検診制度管理中央機構	検診マンモグラフィー撮影認定技師
	高橋 志織	日本X線専門技師認定機構	X線C T 認定技師
		日本乳がん検診制度管理中央機構	検診マンモグラフィー撮影認定技師
リハビリテーション室	髭内 紀幸	日本理学療法士協会	運動器認定理学療法士
		3学会合同呼吸療法認定士認定委員会	呼吸療法認定士
		日本認知症ケア学会	認知症ケア専門士
		国際統合リハビリテーション協会	I L P T プラクティショナー
	米田健太郎	日本胸部外科学会 日本呼吸器学会 日本麻酔科学会	3学会合同呼吸療法認定士
		日本理学療法士協会	認定理学療法士(呼吸)
	花田 健	日本理学療法士協会	運動器認定理学療法士
	廣田 正和	3学会合同呼吸療法認定士認定委員会	呼吸療法認定士
	齋藤 駿太	日本作業療法士協会	認定作業療法士
		CENTER FOR INNOVATIVE OT SOLUTIONS	AMPS認定評価者
	武田 康弘	日本作業療法士協会	認定作業療法士
	髭内 朝美	3学会合同呼吸療法認定士認定委員会	呼吸療法認定士

栄養管理室	多田 梨保	日本静脈経腸栄養学会	N S T 専門療法士
		日本糖尿病療養指導士認定機構	日本糖尿病療養指導士
		日本病態栄養学会	病態栄養認定管理栄養士
		日本人間ドック学会	人間ドック健診情報管理指導士
		日本栄養経営実践協会	日本栄養経営士
	権城 泉	日本静脈経腸栄養学会	N S T 専門療法士
		日本糖尿病療養指導士認定機構	日本糖尿病療養指導士
		日本人間ドック学会	人間ドック健診情報管理指導士
		病態栄養認定管理栄養士	日本病態栄養学会
		日本病態栄養学会	病態栄養専門(認定)管理栄養士・がん病態栄養専門管理栄養士
	一島妃東美	日本栄養士会	静脈経腸栄養(TNT-D)管理栄養士
		日本臨床栄養代謝学会	栄養サポートチーム(NST)専門療法士
		日本病態栄養学会	病態栄養専門管理栄養士
		日本臨床栄養代謝学会	周術期・救急集中治療専門療法士
	西澤 一步	日本臨床栄養代謝学会	NST専門療法士
臨床工学室	笹山 貴司	日本生体医工学会	第2種ME技術実力検定
		北海道病院協会	医療安全管理者
		日本医療メディエーター協会	認定医療メディエーター
	横道 宏幸	日本生体医工学会	第2種ME技術実力検定
		胸部外科・呼吸器・麻酔科学会	3学会合同呼吸療法認定士
	奥嶋 一允	日本生体医工学会	第2種ME技術実力検定
	吉田 昌也	日本生体医工学会	第2種ME技術実力検定
		日本胸部・呼吸・麻酔科学会	3学会合同呼吸療法認定士
	今野 義大	日本医療機器学会	第2種滅菌技士
		北海道労働基準協会連合会	特定化学物質・四アルキル鉛等作業責任者
		日本生体医工学会	第2種ME技術実力検定
	中村 友洋	日本生体医工学会	第2種ME技術実力検定
		透析療法合同専門委員会	透析技術認定士
	服部 淳貴	日本生体医工学会	第2種ME技術実力検定
	山内 揚介	厚生労働省	北海道DMAT
	及川 尚也	日本生体医工学会	第2種ME技術実力検定
	中野裕城子	日本生体医工学会	第2種ME技術実力検定

V 職員福利厚生会

■ 総 括

【総 括】

職員福利厚生会は、職員の福利厚生の増進と職員相互の親睦を図ることを目的に平成15年4月に設立されました。小樽潮まつりでの練りこみ参加やクラブ活動補助など様々な活動を行っていましたが、令和4年度も前年に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響で屋外イベントや集合イベントが中止となりました。その中で職員より要望が多かったZoomを使った忘年会を今年も実施しました。福利厚生会で活動するクラブに協力を依頼し、雪が降る極寒の小樽港で釣りを依頼し、その様子をZoom配信しました。また、大型商業施設内でソリを使った「人間ばんえい競馬」を開催。こちらもZoom配信し、忘年会のDX化に挑戦しました！

このほか職員福利厚生会では職員に対し、医療見舞金制度やクラブ活動助成金などを行っており、充実した福利厚生を提供しております。

【クラブ活動】

- ・野球部
- ・釣り部
- ・自転車・陸上競技部

文責 職員福利厚生会総務理事 清水 雅成



部 活 動

野 球 部

【メンバー】

看護師 1 名
薬剤師 1 名
臨床工学技士 1 名
放射線技師 2 名
理学療法士 8 名
言語聴覚士 1 名

【活動内容・報告・成績等】

5月10日 公式戦 負け
6月14日 公式戦 負け
8月12日 公式戦 負け
その他 練習試合 (計4回)

【野球部よりひとこと】

今年度は大会参加の許可が得られましたので、2年ぶりに春季大会、秋季大会に参加しました。結果は3戦3敗と全敗でしたが、楽しく野球をすることができました。思ったよりも早くシーズンが終了してしまったため、練習試合を計4回実施することができました。練習試合では接戦を制し2勝することができました。来年度は優勝を目指して頑張ります。また、ソフトボール大会も開催の見込みであるため、部員のレベルアップ、スキルアップを図ります。写真は自主練の様子です。

文責 リハビリテーション室 中田 和希



釣 り 部

【メンバー】

リハビリテーション室15名
(計15名)

【活動内容・報告・成績等】

令和4年4月2日	函館サクラマスジギング	2名
令和4年4月15日	横丹オフショアサクラマスジギング	少数名
令和4年4月22日	横丹ショアサクラマスジギング	少数名
令和4年4月26日	横丹ショアサクラマスジギング	少数名
令和4年5月－6月	イカ釣り	少数名
令和4年5月10日	横丹ショアサクラマスジギング	少数名
令和4年5月18日	横丹オフショアサクラマスキヤスティング	少数名
令和4年6月4日	室蘭オフショアヒラメジギング	少数名
令和4年6月13日	横丹ヒラメジギング	少数名
令和4年7月15日－9月頃	小樽ハゼ釣り	少数名
令和4年7月15日	横丹ブリジギング	5名

令和4年8月3日	横丹マグロキヤスティング	2名
令和4年8月15日－9月	小樽シャコ釣り	少数名
令和4年7月－8月	小樽イワシ釣り	少数名
令和4年10月－12月	小樽港内イカ釣り	少数名
令和4年8月30日－10月	サケ釣り	少数名
令和4年12月12日	余市ヒラメジギング	少数名
令和4年12月15日	済生会小樽病院 忘年会フィッシング	7名
令和5年1月30日	恵山サクラマスジギング	少数名
令和5年1月－3月	石狩ワカサギ釣り	少数名
令和5年2月10日	恵山サクラマスジギング	少数名

部員の森國さやかさんが令和2年1月より、週間釣り新聞ほっかいどう「つりしん」にて“tsurikatsu”というページで、月1回の執筆をしています。また令和4年から、釣り具メーカー「XESTA」からプロデュースされているXESTA VenusCrewアンバサダーとして就任。

【釣り部よりひとこと】

令和2年から、新型コロナウイルスの影響により、感染対策に留意しながら今年も少人数または個人単位での釣りとなりました。春はサクラマス・イカ釣りから始まり、夏はイワシがフィーバーしていたため、部員や部員以外も連れて一緒にサビキ釣りに行くこともありました。また小樽の夏の醍醐味、シャコ釣りも仲間と楽しむことができました。近藤名誉院長はイワシがお気に入りだったようで、食べたいとおっしゃられると釣りに行き調理して何度か召し上がって頂きました。またオンライン忘年会でも釣り部の催しがありましたので、少しでも盛り上げることができるならとお

手伝いさせて頂きました。勘違いされている方もいると思いますが、釣り部部員は寒さに強くありません。根性で乗り切りました。

今年度も、サクラマス、アイナメ、カレイ、ハゼ、シャコ、ソイ、ブリ、マグロ、イカ、ワカサギなど他魚種を釣ることができました。マグロに関しては、漁獲制限により釣ってもキープすることができないことがありましたが、来年度はコロナ感染が落ち着いていたら、みんなで釣った魚を食べて、おいしいお酒を飲みたいです。

これから私が考えていることは、おいしい時期の魚をおいしく調理することです。そして、物価高、食料品の高騰もありますので、イカやホッケ、サクラマス・ブリなどよく獲りに行く魚種をみなさんの要望にお応えして、食べたいと言ってくださる方にはお裾分けをしていきたいと考えています。来年度は、釣り部フードバンクがテーマになります。

文責 リハビリテーション室 小島 希望



自転車・陸上競技部

【メンバー】

理学療法士 7名

作業療法士 2名

【活動内容・報告・成績等】

5月22日 Red Bull 400 一般男子部門

3名出場 完走

5月29日 札幌あおぞらマラソン

6名チーム出場 完走

6月19日 小樽運河ロードレース

3名出場 5km部門

男子35～50歳 入賞6位

7月31日 真駒内ハーフマラソン

1名出場 完走

8月28日 北海道マラソン

2名出場 完走

【自転車・陸上競技部よりひとこと】

今年度は陸上競技レースやイベントを中心にエントリーさせていただきました。そのうち小樽運河ロードレースでは、部内で初めての大会入賞となりました。

来年度は自転車競技を含めて参加を予定しており、より一層良い成績が残せるよう部員一同練習を積んでいきます。陸上、自転車ともにイベント出場時には指定ユニフォームを着用し、少しでも宣伝できるよう働きかけていきます。

文責 リハビリテーション室 神田 充博



院内保育所「なでしこキッズクラブ」

職員の福利厚生の一環とし、子育て支援の充実を図っています。内装並びに備品等も子どもたちの安全面を配慮した施設になっています。一時保育も柔軟に対応でき、安心して働きやすい環境づくりに努めています。

所 長	和田 卓郎（病院長）
スタッフ	12名（保育士5名 看護師2名 保育補助6名）
保育所面積	222.64㎡
定 員	40名
保育対象年齢	0歳～小学校就学前
開所時間	8時～19時（月～金曜日、第2土曜日（祝日・病院休日を除く））

【年間行事実績】

6月	交通安全教室
8月	夏祭り
10月	ハロウィン
12月	クリスマス会
1月	お楽しみ発表会
2月	豆まき
3月	お別れ・進級おめでとう会・お買い物ごっこ ☆お誕生会、避難訓練、身体測定を毎月実施

【今後の目標】

保育目標「いっぱい遊んですくすく育て～心もからだもたくましく育ちあう子ども」を心がけ、子どもたちが怪我なく元気に笑顔で過ごせるように心がけていきます。

文責 保育士 齊藤 杏奈

元気に伸び伸びと

保育士 齊藤 杏奈

なでしこキッズクラブでは、0～6歳までの子どもたちが毎日元気に楽しく過ごしています。産休・育休明けで月ごとに新しいお友達が加わり、子どもたちや私達保育士も毎日刺激を受けています。新しいお友達を見ると「おなまえなんていうの?」「あたらしいおともだち?」など聞いたり、子どもたちも新しい仲間が増え嬉しそうにしています。

なでしこキッズクラブでの大きな行事として、夏祭り、ハロウィン、クリスマス会、お楽しみ発表会があります。ひとつひとつを楽しみながら、行事や日々の生活の中で自分でできたことによる達成感や充実感を味わっています。子どもたちの成長を近くで感じるとともに、保護者の方々とも分かち合っていけることを保育士として嬉しく思っています。体を伸び伸びと動かし、お友達や保育士との関わりを通して、心身ともに成長していけたらと願っています。これからも子どもたちの成長を温かく見守っていきます。



夏祭り



ハロウィン



クリスマス会

なでしこキッズクラブを利用して

3A病棟 五嶋 佳奈

私には1歳9ヶ月の娘がいて、私の仕事復帰に伴い1歳頃から保育所を利用させて頂いています。

それまで四六時中一緒にいた娘が保育所に通うこととなり、朝送りに行くと泣いて離れたがらない娘を見て、私も寂しさや娘を置いて働くことへの罪悪感のようなものがありました。しかし、徐々に保育所にも慣れ、迎えに行くといつも嬉しそうにお菓子を食べ泣かずに迎えを待っています。

保育所に通って一年近く経ちますが、朝はいまだに離れるのが嫌で泣いたりすることが多々あります。しかし、大好きな先生を見つけたときには、走って離れていくことや抱っこされると、ころっと泣き止み、こっちを見てくれないときもありそれはそれで寂しさもありますが、成長したなと感じています。

仕事が忙しく、平日は子どもとゆっくり過ごす時間を作ることはできませんが、家に帰って話したり遊んでいるときに「そんなことできるの?」「そんな歌や言葉知ってるの?」と日々驚かされることばかりです。働いていると子どもと一緒にいる時間が限られて

しまいますが、保育所に通っているからこそ成長を感じられ、子どもにとっても良い刺激となっているのだなと感じています。たくさんの学びをくれる保育所の先生方には本当に感謝しています。

仕事、家事・育児の両立は大変ですが、夫と同じ職場であり協力を得やすい環境であるため、これからも支え合いながら子どもの成長を見守っていきたいです。



初めてのかき氷(ブルーハワイ)で
舌が青くなったよ

息子の成長

3B病棟 菅原 美沙紀

私の仕事の復帰に伴い、息子が1歳になってから現在まで約1年間保育園を利用させて頂いています。

初めの頃は別れ際に、泣いていたこともありましたが、先生やお友達のおかげで保育園が楽しくなったようで、2歳となった今ではあっさり「ばいばい」と手を振りながらお友達のところに走っていくようになりました。親としては少しだけ寂しさも感じますが、何より毎日楽しそうに保育園に通う息子の姿に喜びを感じています。

私が仕事に復帰してからは、夜勤もある中で息子と一緒に過ごす時間が少なくなることにより少しだけ不安もありました。しかし、保育園から帰ってくるたびに少しずつできることが増え、発する言葉が増えていく姿を見ていると先生やお友達から色々な刺激を受けて、息子の成長に繋がっているんだなと安心しています。

また、毎日先生が書いてくれる連絡ノートでは〇〇くんと仲良く走り回っていた、お友達を笑わせようとしていたなど日頃の保育園での様子を教えていただき、

ときには家では見せない息子の様子も知ることができています。おかげで今では毎日ノートを見ることが楽しみのなっています。他にも制作をしたり、発表会に向けて歌や踊りを教えてもらったりと、色々な体験をさせていただき、先生方にはとても感謝しています。

今後も子供の成長を見守りながら、育児と仕事に励んでいきたいと思っています。



パパの野球のヘルメットをかぶる息子

売店・食堂

ハマナスクラブ

病院棟 1階

営業時間

月～金：8：00～16：00

土日祝：8：00～13：30

食料品、日用雑貨、医療用品、その他季節限定商品など幅広く品揃えております。ハマナスクラブはセイコーマートの系列ですので、店内にはセイコーマート商品も陳列されております。



職員食堂

管理棟2階

営業時間 月～金曜日 11：00～14：00

全42席(コロナの為間引き)

管理棟2階にあります職員食堂では、日替わりランチから麺類、カレーなどたくさんの美味しいメニューをとり揃えております。コロナウイルス感染症の影響でテーブルのレイアウトを変更。会話等も自粛になったため、食堂内にBGMを流すようにしました。

文責 清水 雅成



あとがき

当院の年報を最後までお読みいただきありがとうございます。

読み終えた感想はいかがだったでしょうか。

私が当院の年報を読み終えていつも思うのは、今年も各部署からのエッセイの中にたくさんのお面白い話に出会えてとても幸せだなと思うことです。もちろん各部署の取り組み状況や実績も目を通しますので、この部署はここを重点的に頑張っているし、こちらの部署のここは凄いなどという気づきがあるのも年報の醍醐味だと思います。ただ、どうしても真面目な部分だけですと集中力が途切れそうになって最後まで読むのが難しくなってしまいます。しかし、各部署の実績と各部署代表者のエッセイの組み合わせで構成された当院の年報ですと最後まで飽きずに一気に読むことができます。

エッセイの魅力は、なんと言っても、その人の人柄がよくわかることだと思います。このエッセイを書いた職員は、仕事では物凄くまじめだけどプライベートではこんな楽しい趣味を持っているのかとわかると、その人に自然と興味が湧きます。また、ある職員は医療人として人のために働くだけでなく、プライベートでも人のために頑張っているのかとわかると、もっと自分も頑張らないといけないなと考えさせられることもあります。今年のエッセイを書いていただいた皆さん、素敵なエッセイをありがとうございます。私は今年もたくさんの感動を皆さんからいただきました。

また、部署報告を書いていただいた皆さん、COVID19が5類に移行したことで勉強会や会合が増え、とても忙しい中での執筆になったのではないのでしょうか。私も昨年までとは比べものにならないくらい忙しい状況で、この「あとがき」を書いております。出来れば誰かにお願いして書いて欲しいくらいですが、皆さんも同様に忙しくとても頼める状況ではなさそうなので自分で書いております。

今年は、Chat GPTなる高度なAI技術により生成した完成度の高い文章が話題になっております。いつかはこのAI技術を使ってエッセイを書いてくる人が出てくるかもしれません。AI技術は素晴らしい技術です。当院の医療機器の中にもたくさん取り入れられ医療の発展に役立っております。しかし、当院のエッセイに、この技術は似合わないと思います。どうか、毎回エッセイを楽しみにしている私に、AIではなく皆さんの生の声を届け続けてください。もちろん済生会小樽病院の年報を愛する全ての人がそれを望んでいるはずです。

結びとなりますが、この年報を発行まで粘り強く導いてくれた年報委員のメンバーに感謝申し上げ、わたしのあとがきとさせていただきます。

文責 医療技術部次長 松尾 覚志

済生会小樽病院年報
令和4年度(2022年度)

発行者 社会福祉法人^{恩賜財団}済生会支部北海道済生会小樽病院
病院長 和田 卓郎
〒047-0008 北海道小樽市築港10-1
TEL (0134) 25-4321 FAX (0134) 25-2888
ホームページ <http://www.saiseikai-otaru.jp/>

年報作成委員会

責任者 五十嵐浩司

委員長 蝦名 哲行

副委員長 松尾 覚志

委 員 平塚 渉、堀 博一、吉田真知子
佐野 舞、井上 晶子、菅原 充晴
石橋 慶悟、伝法 俊和、川畑 有香
吉田 幸恵

印刷所 株式会社 北診印刷
TEL (011) 818-7770